

2020年度

# シラバス

学校法人 福岡医療学院  
福岡医療専門学校

理学療法科

科目名	社会学						理学療法科 A 組		
学年	1	分野	基礎	単位数	1 単位	時間数	15 時間	期間	前期
評価担当	下迫 勇夫			担当教員	下迫 勇夫				
科目概要	<p>法治国家である以上、憲法を中心とした法体系の中で国民一人ひとりの生活が成立している。自然科学領域を学ぶ皆さんの日常もこの例に洩れない。この国家の成り立ちは、一般的には「国民国家」と呼ばれている。国民国家を成立させることこそが「近代」の必須条件である。</p> <p>本授業では、「近代」を成立させる必須条件、すなわち①領土②国民③統治機構をそれぞれ紹介しながら、ヨーロッパで成立した近代国家の史的展開を熟考したいと考えている。</p>								
到達目標	<p>1. 人間社会に起こるさまざまな社会事象がどのような原因で起こりどんな結果をもたらすかを解明し、社会の構成員として自らのあり方を考えさせる。その上で、豊かな知識や正しい判断力、態度を身につける。</p> <p>2. 社会学の学びを通して、豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、対象となる人々と信頼関係を築くことを養う。</p> <p>3. 社会事象の原因等を学ぶことにより、科学的・論理的思考の基盤や多様性の理解、他者との協調・協働できる能力を養う。</p>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	世界史からの教訓	民族紛争、繰り返された戦争と反省、ヨーロッパ世界とアジア・アフリカ				講義	下迫		
2	世界の紛争地域 1	ローマ帝国とユダヤ王国、パレスチナ問題				講義	下迫		
3	世界の紛争地域 2	アフガニスタン問題、				講義	下迫		
4	世界の紛争地域 3	チベット問題				講義	下迫		
5	世界史の概観 1	人類の誕生と進化、化石の年代、古代				講義	下迫		
6	世界史の概観 2	ゲルマン民族の大移動、ヨーロッパ近代国家の誕生				講義	下迫		
7	世界史の概観 3	産業革命と植民地経済				講義	下迫		
8	国際経済のしくみ 1	ウルグアイラウンド、WTO				講義	下迫		
9	国際経済のしくみ 2	絶対的買収の意味、TPP				講義	下迫		
10	日本史の概観 1	古代史				講義	下迫		
11	日本史の概観 2	中世史				講義	下迫		
12	日本史の概観 3	近・現代史				講義	下迫		
13	参政権と政治参加 1	選挙の実際、政治の仕組み				講義	下迫		
14	参政権と政治参加 2	年代別投票率と政策				講義	下迫		
15	参政権と政治参加 3	憲法改正国民投票				講義	下迫		
評価方法									
評価指標	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計		
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100		
教科書	必要に応じて資料を作成し配布する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	各講義の前後を活用すること。								
履修上の注意	中間試験は 7 回の講義終了後、期末試験後に行う。新聞を読む習慣を身につけること。また、講義の内容については、予習・復習を行い、授業に臨むこと。								

科目名	社会学						理学療法科 A 組		
学年	1	分野	基礎	単位数	1 単位	時間数	15 時間	期間	前期
評価担当	田頭 洋一			担当教員	田頭 洋一				
科目概要	<p>法治国家である以上、憲法を中心とした法体系の中で国民一人ひとりの生活が成立している。自然科学領域を学ぶ皆さんの日常もこの例に洩れない。この国家の成り立ちは、一般的には「国民国家」と呼ばれている。国民国家を成立させることこそが「近代」の必須条件である。</p> <p>本授業では、「近代」を成立させる必須条件、すなわち①領土②国民③統治機構をそれぞれ紹介しながら、ヨーロッパで成立した近代国家の史的展開を熟考したいと考えている。</p>								
到達目標	<p>1. 人間社会に起こるさまざまな社会事象がどのような原因で起こりどんな結果をもたらすかを解明し、社会の構成員として自らのあり方を考えさせる。その上で、豊かな知識や正しい判断力、態度を身につける。</p> <p>2. 社会学の学びを通して、豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、対象となる人々と信頼関係を築くことを養う。</p> <p>3. 社会事象の原因等を学ぶことにより、科学的・論理的思考の基盤や多様性の理解、他者との協調・協働できる能力を養う。</p>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	社会学オリエンテーション	社会学オリエンテーション、哲学者アドルノからのメッセージ				講義	田頭		
2	社会集団と制度的文化	社会集団（家族・集団・組織）、政治形態の変遷				講義	田頭		
3	日本の政治 1	モンテスキュー以後の政治、立法府国会				講義	田頭		
4	日本の政治 2	内閣と行政、司法の仕組み、				講義	田頭		
5	日本の政治 3	我が国における三権分立				講義	田頭		
6	日本国憲法	法規と社会、憲法前文の理念				講義	田頭		
7	日本国憲法	我が国の法体系				講義	田頭		
8	世界の中の日本文化	大陸文化の導入、文化の日本化、産業革命以後の文化と教育				講義	田頭		
9	我が国の産業と資源	資源の現状、工業の発展と課題、GDP と GNP				講義	田頭		
10	国際社会	貿易管理の状況、ドルとユーロ、円				講義	田頭		
11	精神的文化 1	世界宗教の現状、仏教				講義	田頭		
12	精神的文化 2	キリスト教				講義	田頭		
13	精神的文化 3	イスラム教と原理主義、道徳と監修				講義	田頭		
14	国際社会	国際連合の仕組みと働き				講義	田頭		
15	国際社会	平和維持活動				講義	田頭		
評価方法									
評価指標	前期試験	後期試験	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	-	100	
教科書	必要に応じて資料を作成し配布する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	各講義の前後。								
履修上の注意	中間試験は 8 回の講義終了後、期末試験後に行う。基礎的な部分については各自学習すること。また、講義の内容については、予習・復習を行い、授業に臨むこと。新聞を読む習慣を身につけること。								

科目名	生物					理学療法科 A 組			
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	前期・後期
評価担当	田淵 弘太郎			担当教員	田淵 弘太郎				
科目概要	<p>生物学で取り扱う『生物』は動物をはじめ植物等多種多様な生物が存在している。これら生物には一見すると共通する特徴・機能などは内容に見えるが生物には共通する決まりのようなものがある。</p> <p>また豊かな人間性を養うと共に、保健・医療・福祉分野の課題に対して、多職種と連携を図り協働するために、ヒトが様々な刺激に対し反応することや、各種臓器が連携するために必要な神経について知る必要があるため、それに対して詳細な講義を行う。</p> <p>本講義では生物としてヒトを取り扱い、科学的・論理的思考の基盤に、専門科目への理解の足掛かりとなる内容を講義する。</p>								
到達目標	<p>1. 生物の定義を理解し生物か否かを判断できる。また人体の機能がホメオスタシスに集約されることを理解し説明できる。</p> <p>2. 神経系の基本的特徴機能について理解し説明できる。また、神経系の種類を分類し反射について理解する。</p>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	人体を構成する要素	原子・分子・細胞・組織・器官など				講義	田淵		
2	ホメオスタシス①	内部環境				講義	田淵		
3	ホメオスタシス②	ホメオスタシス				講義	田淵		
4	からだの科学的構成①	原子の構造				講義	田淵		
5	からだの科学的構成②	体液の分類と組成①				講義	田淵		
6	からだの科学的構成③	体液の分類と組成②				講義	田淵		
7	からだの科学的構成④	体液の分類と組成③				講義	田淵		
8	からだの科学的構成⑤	栄養素の種類（5 大栄養素）①				講義	田淵		
9	からだの科学的構成⑥	栄養素の種類（5 大栄養素）②				講義	田淵		
10	からだの科学的構成⑦	糖質の種類と構成元素				講義	田淵		
11	からだの科学的構成⑧	蛋白質の種類と構成元素				講義	田淵		
12	からだの科学的構成⑨	蛋白質の機能				講義	田淵		
13	からだの科学的構成⑩	脂質の種類と構成元素				講義	田淵		
14	からだの科学的構成⑪	栄養素の代謝①				講義	田淵		
15	からだの科学的構成⑫	栄養素の代謝②				講義	田淵		
16	神経系の基本的機能①	神経細胞の形態				講義	田淵		
17	神経系の基本的機能②	静止膜電位				講義	田淵		
18	神経系の基本的機能③	活動電位				講義	田淵		
19	神経系の基本的機能④	閾刺激				講義	田淵		
20	神経系の基本的機能⑤	全か無かの法則				講義	田淵		
21	神経系の基本的機能⑥	不応期				講義	田淵		
22	神経系の基本的機能⑦	イオンチャネル①				講義	田淵		
23	神経系の基本的機能⑧	イオンチャネル②				講義	田淵		
24	神経系の基本的機能⑨	興奮の伝導				講義	田淵		

25	神経系の基本的機能⑩	複合活動電位	講義	田淵			
26	神経系の基本的機能⑪	興奮の伝達	講義	田淵			
27	神経系の基本的機能⑫	興奮の伝達	講義	田淵			
28	神経系の機能①	神経系の成り立ち	講義	田淵			
29	神経系の機能②	反射と反射弓①	講義	田淵			
30	神経系の機能②	反射と反射弓②	講義	田淵			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	生理学テキスト 文光堂 ¥4,800						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	講義の前後。その他は講義時に確認すること。						
<b>履修上の 注意点</b>	<p>生物で講義する内容は生理学に通じることが多いため、講義はしっかり受講すること。神経系を学んでいく上で、授業内容を理解するには生理学・解剖学の知識も必要になる。次回の講義内容は案内するので、毎時間ごとに1時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。</p> <p>また、教科書を用いて講義を行うが、講義内容から試験問題を作成するため、ノート作成に力を入れること。</p>						

科目名	表現法					理学療法科 A 組			
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価担当	竹下 政雄			担当教員	竹下 政雄				
科目概要	<p>専門職業人として医療活動を支えるものは、相互理解に基づいた信頼し合う人間関係である。その人間関係の構築を左右するものは言葉である。言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがある。その働きの発言には話し言葉や書き言葉を効果的に表現することが必要がある。</p> <p>そこで、本授業では、話し言葉および書き言葉を効果的に表現するための能力や態度を育成することを目標とする。</p> <p>授業を展開するに当たっては、社会生活及び医療施設内における言語活動の場面や具体的な事例を取り上げて、目的に応じた実践的で効果的な表現ができるようにする。</p> <p>その際、主として小集団による課題解決型学習をとおして、主体的に学習を取り組ませるとともに、思考力や判断力を働かせながら協働して課題を解決する学習活動である演習が中心となる。</p> <p>この表現法の学習に関して、皆さんが留意することは、表現に関する知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して実践的に課題を解決することである。つまり、学習内容を社会生活の中で常に実践する意欲を持つことが重要である。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相互理解に基づいた人間関係の構築に関わる表現についての理解及び認識を深める。</li> <li>2. 話し言葉による国語の適切な使い方や敬語の効果的な使い方ができるようになる。</li> <li>3. 目的と相手に応じた書き言葉（手紙、履歴書の送り状、レポート、解説文）による表現ができるようになる。</li> <li>4. 効果的な対話ができる態度や能力を身に付ける。</li> <li>5. 小集団（5人程度）による課題解決型学習をとおして、主体性および協調性を身に付ける。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	オリエンテーション	授業内容の概要説明、漢字練習、表現の基盤				講義・演習			
2	返信用はがき	返信用はがきの書き方、作成				講義・演習			
3	敬語 1	敬語のはたらき、尊敬語				講義・演習			
4	敬語 2	謙譲語 I、謙譲語 II（丁寧語）				講義・演習			
5	敬語 3	美化語、丁寧語、敬語使用上の留意点				講義・演習			
6	解説文の作成 1	語句、敬語の解説文の書き方、取り上げる語句、敬語決定				講義・演習			
7	解説文の作成 2	決定した語句、敬語についての解説文の作成、提出				演習			
8	レポートの作成 1	レポートの書き方、敬語のまとめの分担部分の決定				講義・演習			
9	レポートの作成 2	分担部分の執筆および検討				演習			
10	レポートの作成 3	分担部分の検討および清書、レポート完成提出				演習			
11	私文書の書き方	手紙の書式、恩師への近況報告文の作成				講義・演習			
12	公文書の書き方	公文書の書式、履歴書の送り状作成				講義・演習			
13	見学実習対策 1	見学実習先での挨拶の仕方（見学実習開始前、見学実習終了後）				講義・演習			
14	見学実習対策 2	見学実習先への礼状の下書き作成				演習			
15	見学実習対策 3	見学実習先への礼状清書				演習			
評価方法									

評価指標	筆記試験	レポート・解説文	主体性・協調性	-	-	合計
評価割合(%)	40	50	10	-	-	100
教科書	教科書は配布せず、学習プリントを適宜配付する。					
教材・参考図書	講義の中で適宜紹介する。					
オフィスアワー	講義の前後を活用すること					
履修上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出期限を厳守すること</li> <li>・社会生活の中で、学習内容を常時活用していくこと</li> </ul>					

科目名	キャリアデザイン					理学療法科 A 組			
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価担当	滝沢 哲也			担当 教員	滝沢 哲也				
科目概要	<p>本科目では、自分の強みを知り、キャリアとは何かを理解し、キャリアをデザインすることの必要性について考える。</p> <p>グループディスカッションや先輩の話を通して、様々なキャリアの在り方を知ることにより、キャリアデザインを能動的に考える機会を提供する。卒業後の仕事生活を見据えて、学生生活の過ごし方などを自ら考えて、選択し、判断して行動ができるようになることを目標とする。</p>								
到達目標	<p>①キャリアとは何か、キャリアデザインとは何かについて理解する。</p> <p>②日本型雇用の変遷と今後の変化について理解する。</p> <p>③実現したいキャリアデザインを踏まえて、学生生活の過ごし方を描くことができる。</p>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	概論	キャリアとは何か					講義	滝沢	
2	仕事・働く・資格	就きたい仕事、好きな働き方、資格の効果					講義・ 演習	滝沢	
3	キャリアを考える 1	自分について何を知っているか、自分史を作る					演習	滝沢	
4	キャリアを考える 2	自分の強み、専門学校生活の作り方					演習	滝沢	
5	キャリアを考える 3	学校生活でのキャリアアクションプラン					演習	滝沢	
6	キャリアを考える 4	先輩のキャリア紹介					講義	滝沢	
7	日本型雇用とキャリア 1	戦後の日本型雇用の変遷					講義	滝沢	
8	日本型雇用とキャリア 2	身近な高齢者のキャリア					演習	滝沢	
9	日本型雇用とキャリア 3	人生 100 年時代の働き方					演習	滝沢	
10	日本型雇用とキャリア 4	高齢者のキャリア紹介					講義	滝沢	
11	生涯キャリア発達 1	地域社会における理学療法士					講義	滝沢	
12	生涯キャリア発達 2	就職、情報の収集と分析					演習	滝沢	
13	生涯キャリア発達 3	生涯学習、リカレント教育					演習	滝沢	
14	生涯キャリア発達 4	地域社会で活躍する先輩の紹介					演習	滝沢	
15	キャリアデザイン総括	キャリアデザインのまとめ					講義・ 演習	滝沢	
評価方法									
評価指標	レポート	小テスト	演習への 参加状況						
評価割合 (%)	60%	30%	10%						
教科書	なし								
教材・参考図書	講義毎に必要な教材を配付する。								
オフィスアワー	月曜日 15:00-16:30								
履修上の 注意点	・演習では、小人数に分かれて意見交換、ディスカッションを行うので、積極的に参加することが望まれる。								

科目名	スポーツ健康科学					理学療法科 A 組			
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価担当	當眞 裕樹			担当教員	當眞 裕樹				
科目概要	<p>われわれの身体は、男女においてもまた個人においてもその能力に格差がある。だが一人ひとりの身体能力は、健全な精神に基づく点において共通して重要な領域である。適切な道徳心は医療人として必須であり、自らの障害に悩む対象者の苦悩に寄り添おうとする態度につながると推考される。</p> <p>本講義では、「健全な肉体は健全な精神に宿る」という視点から、身体トレーニング、スポーツ競技を進めていくため、より実践的な体力づくりおよび健康保持増進を図る種目を配置しており、集団行動を通じて集団の中での個の役割を自覚すること、他者との関わりから協調性を育むことを主眼とする。また、本講義全般にわたり、受講者一人ひとりが、自らの身体をつくと同時に、他者を思いやる精神を育み礼節や社会性を育み、社会活動で役立てられるよう進めていく。</p>								
到達目標	自らの体力向上と把握に努め、健康管理と安全教育の徹底を行うと共に、自主自立と協調性の精神を養う。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	オリエンテーション	授業を行うに当たっての心構え				講義	當眞		
2	体力づくり 1	生活に必要な基礎体力を養う 持久力・スピード・筋力の 3 要素を高める				講義 実技	當眞		
3	体力づくり 2	生活に必要な基礎体力を養う 持久力・スピード・筋力の 3 要素を高める				講義 実技	當眞		
4	体力づくり 3	生活に必要な基礎体力を養う 持久力・スピード・筋力の 3 要素を高める				講義 実技	當眞		
5	シッティングバレーボール 1	パス・レシーブ・トス・スパイク・ブロッキング・サービスの技能を各チームで練習し修得する。				講義 実技	當眞		
6	シッティングバレーボール 2	チームの現状から戦略を立て、メンバー一人一人の力を集結したチームづくりに挑戦する。				講義 実技	當眞		
7	シッティングバレーボール 3	ゲームを通じて、勝敗を競う過程や結果を求める楽しさ、喜びが味わえるようにする。				講義 実技	當眞		
8	アルティメット 1	ディスクの操作方法について (基本的な技術を身につけよう)				講義 実技	當眞		
9	アルティメット 2	スロー1) バックハンドスロー スロー2) フォアハンドスロー				講義 実技	當眞		
10	アルティメット 3	スロー3) アップサイドダウンスロー スロー4) スクーバスロー				講義 実技	當眞		
11	アルティメット 4	キャッチング 動作中のスロー				講義 実技	當眞		
12	アルティメット 5	ゲーム (アルティメット)				講義 実技	當眞		
13	バレーボール 1	バレーボールには様々な楽しさがある。 自分たちの現状をみつめ可能性を求めて、一人一人の力を集結した素晴らしいチームづくりに挑戦する				講義 実技	當眞		
14	バレーボール 2	パス・レシーブ・トス・スパイク・ブロッキング・サービスの機能を各チームで練習し修得する。				講義 実技	當眞		
15	バレーボール 3	パス・レシーブ・トス・スパイク・ブロッキング・サービスの機能を各チームで練習し修得する。				講義 実技	當眞		

16	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 1	ラジオ体操 1～13 の内容を理解し、実技を修得する。各グループに分けて練習し、修得する。	講義 実技	當眞		
17	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 2	ラジオ体操 1～13 の内容を理解し、実技を修得する。各グループに分けて練習し、修得する。	講義 実技	當眞		
18	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 3	ラジオ体操 1～13 の内容を理解し、実技を修得する。各グループに分けて練習し、修得する。	講義 実技	當眞		
19	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 4	ストレッチ体操の基本 25 を理解し、実践する。	講義 実技	當眞		
20	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 5	ストレッチ体操の基本 25 を理解し、実践する。	講義 実技	當眞		
21	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 6	ストレッチ体操の基本 25 を理解し、実践する。	講義 実技	當眞		
22	マット運動 1	マット運動の内容を理解し、運動技術を修得する。	講義 実技	當眞		
23	マット運動 2	マット運動の内容を理解し、運動技術を修得する。	講義 実技	當眞		
24	マット運動 3	やさしいことを正確にやる。 前転・後転・開脚前転・開脚後転・バランスジャンプ・倒立	講義 実技	當眞		
25	マット運動 4	やさしいことを正確にやる。 前転・後転・開脚前転・開脚後転・バランスジャンプ・倒立	講義 実技	當眞		
26	集団行動 1	1) 姿勢 1. 気をつけの姿勢、2. 休めの姿勢	講義 実技	當眞		
27	集団行動 2	2) 方向変換 1. 右(左)への方向転換、 2. 後ろへの方向変換、3. 腰を下ろして休む姿勢	講義 実技	當眞		
28	集団行動 3	3) 集合、整頓、番号、解散 1. 縦隊の集合と整頓 2. 横隊の集合と整頓、番号	講義 実技	當眞		
29	集団行動 4	4) 列の増減 1. 2 列横隊から 4 列横隊 2. 4 列横隊から 2 列横隊	講義 実技	當眞		
30	集団行動 5	3. 2 列横隊から 3 列横隊 4. 3 列横隊から 2 列横隊、5. 礼	講義 実技	當眞		
<b>評価方法</b>						
評価指標	前期実技試験	後期実技試験	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	100
教科書	必要時に資料を配布する。					
教材・参考図書	必要時に資料を配布する。					
オフィスアワー	講義の前後。その他は講義時に確認すること。					
履修上の 注意点	基礎体力・精神力の向上のため、積極的に取り組むこと。					

科目名	人間関係論					理学療法科 A 組			
学年	2	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価担当	平早水 希			担当教員	平早水 希				
科目概要	本科目では、良好な人間関係の構築を目的に、人間関係の基礎的理論および人間関係をつくる理論や技法を学ぶ。さらに、演習を通して、自己理解および他者理解を深め、他者との協同について体験する。								
到達目標	1 人間関係基礎論および人間関係をつくる理論や技法について理解する。 2 自己理解、他者理解を深める。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	概論	人間関係論とは				講義	平早水 希		
2	人間関係基礎論 1	人間関係の中の自己と他者				講義	平早水 希		
3	人間関係基礎論 2	自己理解				演習	平早水 希		
4	人間関係基礎論 3	自己理解				演習	平早水 希		
5	人間関係基礎論 4	対人関係と役割				講義	平早水 希		
6	人間関係基礎論 5	集団と個人				講義	平早水 希		
7	人間関係基礎論 6	他者理解・他者との協同				演習	平早水 希		
8	人間関係基礎論 7	他者理解・他者との協同				演習	平早水 希		
9	理論と技法 1	コーチング				演習	平早水 希		
10	理論と技法 2	アサーティブ - コミュニケーション				演習	平早水 希		
11	保健医療の人間関係 1	保健医療チームの人間関係				講義	平早水 希		
12	保健医療の人間関係 2	患者を支える人間関係				講義	平早水 希		
13	保健医療の人間関係 3	家族を含めた人間関係				講義	平早水 希		
14	保健医療の人間関係 4	地域をつくる人間関係				講義	平早水 希		
15	まとめ	セルフケアについて				講義	平早水 希		
評価方法									
評価指標	筆記試験	レポート・解説文	主体性・協調性	-	-	-	合計		
評価割合 (%)	40	50	10	-	-	-	100		
教科書	系統看護学講座 基礎 人間関係論 医学書院								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	授業の前後に確認すること。								
履修上の注意点	演習を中心とした授業のため、評価においては授業態度を重視する。								

科目名	解剖学 I					理学療法科 A 組			
学年	1	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価担当	北河先生・大谷先生			担当教員	北河先生・大谷先生				
科目概要	<p>本講義は、ヒトの身体の構造及び機能を体系的に学んでいく。皆さんが専門領域とする理学療法は、身体の構造及び機能を熟知することを基礎的条件としている。また一方で、「即戦力」を目指すためにも非常に重要な領域です。</p> <p>対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するために、解剖の基礎となる、骨筋系、脈管系、体表解剖を身体の特徴を紹介しながら、皆さんの理解が深まるように進めていきます。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨の基本構造を理解し、人体を構成する主な骨を説明できる。</li> <li>2. 筋の起始停止を理解し、人体を構成する主な筋を説明できる。</li> <li>3. 血管やリンパ系の基本構造を理解し、人体を構成する主な脈管を説明できる。</li> <li>4. 体表から触知できる構造と各種の映像診断方法を理解し、人体の体表を構成する主な構造および各映像診断方法の原理を説明できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	概説 (1A 意義と分類)	解剖の意義、分類、用語				講義			
2	骨格系各論 1	脊柱				講義			
3	骨格系各論 2	胸郭				講義			
4	骨格系各論 3	上肢骨、関節				講義			
5	骨格系各論 4	下肢骨、関節				講義			
6	骨格系各論 5	頭蓋				講義			
7	筋系 1	骨格筋				講義			
8	筋系 2	頭部の筋				講義			
9	筋系 3	頸部の筋				講義			
10	筋系 4	胸部の筋				講義			
11	筋系 5	呼吸運動				講義			
12	筋系 6	腹部の筋				講義			
13	筋系 7	背部の筋				講義			
14	筋系 8	上肢の筋①				講義			
15	筋系 9	上肢の筋②				講義			
16	筋系 10	下肢の筋①				講義			
17	筋系 11	下肢の筋②				講義			
18	脈管系 1	体循環と肺循環				講義			
19	脈管系 2	心臓、心臓の弁				講義			
20	脈管系 3	心臓壁の構造				講義			
21	脈管系 4	心臓の脈管、心膜				講義			
22	脈管系 5	心脈管系、動脈系				講義			
23	脈管系 6	静脈系				講義			

24	脈管系 7	胎児循環	講義	
25	脈管系 8	リンパ節の構造	講義	
26	体表解剖 1	体表区分、骨格系、	講義	
27	体表解剖 2	筋系、脈管系	講義	
28	体表解剖 3	神経系、目耳鼻口、外皮	講義	
29	概説 (1E 人体の区分) 1	人体の区分線	講義	
30	概説 (1E 人体の区分) 2	人体の区分線	講義	
<b>評価方法</b>				
<b>評価指標</b>	前期試験	後期試験	-	-
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-
			-	-
			-	合計
			-	100
<b>教科書</b>	全国柔道整復学校協会 解剖学 医歯薬出版 ¥7,800			
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。			
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。			
<b>履修上の 注意点</b>	講義では皆さんが初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。			

科目名	解剖学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	1	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価担当	畠山 雄次			担当 教員	畠山 雄次				
科目概要	<p>解剖学Ⅱでは、人体を構成する内臓系や神経系が身体の中のどの部位にあるのか、各器官の形態・構造およびその機能と各器官が果たす役割について学ぶ。特に神経系は、一人ひとりが熟知すべき重要な領域である。</p> <p>対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践していくために、神経・筋接合部のメカニズムを理解することは重要である。この領域に関する研究が今現在どの程度まで進められているのか、最新の情報を紹介しながら、理解を深めていく。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体組織の構造と機能及び心身の発達などを系統立てて理解し、その役割を説明できる。</li> <li>2. 内臓系、神経系の構造・形態およびその機能について理解し、説明できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	組織 1	解剖学の意義、分類、用語等				講義	畠山		
2	組織 2	骨の役割、分類、構造、発生と成長				講義	畠山		
3	組織 3	神経組織、ニューロン、神経細胞の種類、支持組織				講義	畠山		
4	組織 4	人体の発生、生殖細胞、性染色体と性の決定、受精卵の分割とその後の発生				講義	畠山		
5	内分泌系 1	内分泌の働き				講義	畠山		
6	内分泌系 2	内分泌器				講義	畠山		
7	内臓系 1	消化器の働き				講義	畠山		
8	内臓系 2	消化器系器官				講義	畠山		
9	内臓系 3	呼吸器の働き				講義	畠山		
10	内臓系 4	呼吸器系器官				講義	畠山		
11	内臓系 5	泌尿器の働き				講義	畠山		
12	内臓系 6	泌尿器系器官				講義	畠山		
13	内臓系 7	生殖器の働き				講義	畠山		
14	内臓系 8	男性生殖器				講義	畠山		
15	内臓系 9	女性生殖器				講義	畠山		
16	神経系 1	灰白質、白質と神経節、根、脳室系				講義	畠山		
17	神経系 2	髄膜と脳脊髄液、脳				講義	畠山		
18	神経系 3	脊髄前根と後根、脊髄内部構造				講義	畠山		
19	神経系 4	伝導路①				講義	畠山		
20	神経系 5	伝導路②				講義	畠山		
21	神経系 6	反射路等				講義	畠山		
22	神経系 7	末梢神経				講義	畠山		
23	神経系 8	脳神経				講義	畠山		

24	神経系 9	脊髄神経	講義	畠山			
25	神経系 10	自律神経	講義	畠山			
26	感覚器 1	外皮、眼球	講義	畠山			
27	感覚器 2	眼球付属器、聴覚器及び平衡器	講義	畠山			
28	感覚器 3	味覚器、臭覚器	講義	畠山			
29	映像解剖 1	診断用 X 線、CT, MRI など	講義	畠山			
30	映像解剖 2	診断用 X 線、CT, MRI など	講義	畠山			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	全国柔道整復学校協会 解剖学 医歯薬出版 ¥7,800						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	講義では初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名	生理学 I					理学療法科 A 組			
学年	1	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価担当	塩川 光一郎			担当教員	塩川 光一郎				
科目概要	<p>人体は約 60 兆個という膨大な数の細胞を基本単位として構成されている。各器官の機能はそれぞれの組織を構成する細胞の特有な機能が基本となる。</p> <p>対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践していくために、正常な生命維持を行うために必要な人体の構造と機能を細胞レベルから理解し、またその役割や組織間の連携について詳しく学習する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞の形態、特徴、機能について理解し説明できる。</li> <li>2. 血球の形態、特徴、機能について理解し説明できる。</li> <li>3. 呼吸循環器系の形態、特徴、機能について理解し説明できる。</li> <li>4. 消化管の形態、特徴、機能について理解し説明できる。</li> <li>5. 腎臓の形態、特徴、機能について理解し説明できる。</li> <li>6. 運動の生理について理解し説明できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	生理学の基礎 1	細胞の環境				講義	塩川		
2	生理学の基礎 2	細胞の構造と構造機能相関				講義	塩川		
3	生理学の基礎 3	細胞膜を通過する物質移動				講義	塩川		
4	生理学の基礎 4	細胞機能調節のメカニズム、遅い時間経過の調節				講義	塩川		
5	体液	血漿及び血漿タンパク質				講義	塩川		
6	血液 1	赤血球、白血球				講義	塩川		
7	血液 2	血液型				講義	塩川		
8	血液 3	血小板による止血				講義	塩川		
9	血液 4	血液凝固				講義	塩川		
10	心臓・循環 1	心臓の構造、興奮伝播と自動性、自律神経による調節				講義	塩川		
11	心臓・循環 2	心臓の異常電気活動、心電図、心臓の収縮など				講義	塩川		
12	心臓・循環 3	全身各部の血流量、動脈血圧など				講義	塩川		
13	心臓・循環 4	微小循環、血管平滑筋など				講義	塩川		
14	心臓・循環 5	特殊部位の循環				講義	塩川		
15	心臓・循環 6	循環系の障害例				講義	塩川		
16	呼吸 1	肺の構造、呼吸運動				講義	塩川		
17	呼吸 2	呼吸力学、肺のガス交換				講義	塩川		
18	呼吸 3	換気と血流の適合、呼吸運動の調節				講義	塩川		
19	消化と吸収 1	消化管の構造と支配神経、消化管のペプチド性修飾物質				講義	塩川		
20	消化と吸収 2	消化管の運動				講義	塩川		
21	消化と吸収 3	消化液の分泌				講義	塩川		
22	消化と吸収 4	栄養素の分解と吸収				講義	塩川		

23	腎機能 1	腎臓の機能的構造、糸球体濾過	講義	塩川			
24	腎機能 2	クリアランスによる腎機能評価	講義	塩川			
25	腎機能 3	尿細管再吸収等	講義	塩川			
26	腎機能 4	尿の濃縮と希釈、排尿など	講義	塩川			
27	酸・塩基平衡	緩衝作用、細胞内 pH 等	講義	塩川			
28	日常の生理学 1	栄養素の代謝、エネルギー代謝	講義	塩川			
29	日常の生理学 2	体温、サーカディアンリズム	講義	塩川			
30	日常の生理学 3	運動と筋収縮、運動時の人体機能	講義	塩川			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	生理学テキスト 文光堂 ¥4,800						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	講義では初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名	生理学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	1	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価担当	岡本 順子			担当教員	岡本 順子				
科目概要	<p>本講義では、人体の構造と機能について学ぶ。人体の約 60 兆個という膨大な数の細胞には、それぞれ個別の役割を担い、必要なタイミングで必要な分の仕事を行うことで、人（個体）の生命を維持している。</p> <p>対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践していくために、正常な生命維持を行うために必要な人体の構造と機能を細胞レベルから理解し、またその役割や組織間の連携について詳しく学習する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内分泌系の種類、作用機序について理解する。</li> <li>2. 細胞機能の基礎について学び、興奮伝導について理解する。</li> <li>3. 骨格筋の収縮、シナプス伝達についての特性を理解する。</li> <li>4. 神経系、感覚系の機能を系統別に理解する。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	内分泌の機能 1	ホルモン、生合成と放出、作用機序				講義	岡本		
2	内分泌の機能 2	視床下部、下垂体				講義	岡本		
3	内分泌の機能 3	松果体、副腎髄質と皮質				講義	岡本		
4	内分泌の機能 4	甲状腺、膵臓の内分泌機能				講義	岡本		
5	内分泌の機能 5	カルシウム代謝の調節、性ホルモン				講義	岡本		
6	生殖 1	性の分化と発達				講義	岡本		
7	生殖 2	乳汁分泌 等				講義	岡本		
8	細胞の興奮発生と興奮伝導 1	刺激と興奮、膜電位				講義	岡本		
9	細胞の興奮発生と興奮伝導 2	興奮発生およびイオンチャネル、興奮伝導				講義	岡本		
10	骨格筋の収縮 1	骨格筋の種類と構造、筋収縮				講義	岡本		
11	骨格筋の収縮 2	興奮収縮連関、筋収縮力学等				講義	岡本		
12	シナプス伝達 1	神経筋伝達、中枢神経系のシナプス伝達				講義	岡本		
13	シナプス伝達 2	神経伝達物質、中枢のシナプス伝達等				講義	岡本		
14	自律神経系 1	自律神経系の構成と作用				講義	岡本		
15	自律神経系 2	自律神経系の受容体				講義	岡本		
16	運動系 1	脊髄				講義	岡本		
17	運動系 2	脳幹、小脳、				講義	岡本		
18	運動系 3	大脳基底核、大脳皮質				講義	岡本		
19	感覚総論	感覚の強度				講義	岡本		
20	体性感覚 1	体性感覚と受容器				講義	岡本		
21	体性感覚 2	伝導路、中継核				講義	岡本		
22	体性感覚 3	大脳皮質の体性感覚野、痛覚等				講義	岡本		
23	味覚・嗅覚	それぞれの特徴及び受容体等				講義	岡本		
24	聴覚・前庭感覚	音受容、聴覚の中核、前庭感覚				講義	岡本		

25	視覚 1	眼球の光学系、網膜の光受容				講義	岡本
26	視覚 2	視覚の中樞神経機序、眼球運動等				講義	岡本
27	脳の統合機能 1	大脳皮質の構造と機能、				講義	岡本
28	脳の統合機能 2	大脳辺縁系と視床下部				講義	岡本
29	脳の統合機能 3	脳の情動、脳波等				講義	岡本
30	脳の統合機能 4	覚醒と睡眠、学習、記憶				講義	岡本
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>		前期試験	後期試験	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>		50	50	-	-	-	100
<b>教科書</b>	生理学テキスト 文光堂 ¥4,800						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	講義では初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名	運動学 I						理学療法科 A 組		
学年	1	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価担当	仲濱 毅			担当教員	仲濱 毅				
科目概要	運動学は人間の運動の科学、運動を研究する学問などと定義される。運動学は解剖学、生理学、物理学、心理学、社会学などの多くの学問体系を統合した上に成り立っている。また、基礎となる科学領域の発展は目覚ましいものがある。1 年次の運動学 I ではまず、人間の身体運動を理解するために必要な人体の構造と機能、力学について学ぶ。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 力学の基本的専門用語を理解し、説明ができる。</li> <li>2. 筋骨格系の基本的構造・機能を説明できる。</li> <li>3. 上肢の構造・機能と関節運動との関係が説明できる。</li> <li>4. 下肢の構造・機能と関節運動との関係が説明できる。</li> <li>5. 頸部・体幹の構造・機能と関節運動との関係が説明できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	運動学とは	導入・定義・歴史					講義	仲濱	
2	生体力学の基礎 1	身体運動と力学、身体運動の面と軸					講義	仲濱	
3	生体力学の基礎 2	運動学的分析、円運動					講義	仲濱	
4	生体力学の基礎 3	筋力と重力、モーメント					講義	仲濱	
5	生体力学の基礎 4	運動法則、仕事とエネルギー					講義	仲濱	
6	生体力学の基礎 5	身体とてこ					講義	仲濱	
7	生体の構造と機能 1	骨の構造と機能					講義	仲濱	
8	生体の構造と機能 2	関節の構造と機能、関節の分類					講義	仲濱	
9	生体の構造と機能 3	関節の構造と機能、関節運動の表し方					講義	仲濱	
10	生体の構造と機能 4	腱および靭帯の構造と機能、骨格筋の構造					講義	仲濱	
11	生体の構造と機能 5	筋線維の種類、運動単位					講義	仲濱	
12	生体の構造と機能 6	筋収縮の様態、筋肥大と筋萎縮					講義	仲濱	
13	四肢と体幹の運動 1	上肢帯・肩関節 1					講義	仲濱	
14	四肢と体幹の運動 2	上肢帯・肩関節 2					講義	仲濱	
15	四肢と体幹の運動 3	上肢帯・肩関節 3					講義	仲濱	
16	四肢と体幹の運動 4	肘関節・前腕 1					講義	仲濱	
17	四肢と体幹の運動 5	肘関節・前腕 2					講義	仲濱	
18	四肢と体幹の運動 6	手関節・手の運動 1					講義	仲濱	
19	四肢と体幹の運動 7	手関節・手の運動 2					講義	仲濱	
20	四肢と体幹の運動 8	下肢帯・股関節 1					講義	仲濱	
21	四肢と体幹の運動 9	下肢帯・股関節 2					講義	仲濱	
22	四肢と体幹の運動 10	下肢帯・股関節 3					講義	仲濱	
23	四肢と体幹の運動 11	膝関節 1					講義	仲濱	
24	四肢と体幹の運動 12	膝関節 2					講義	仲濱	
25	四肢と体幹の運動 13	足関節・足部 1					講義	仲濱	

26	四肢と体幹の運動 14	足関節・足部 2	講義	仲濱			
27	四肢と体幹の運動 14	脊柱の骨格、頸椎の運動	講義	仲濱			
28	四肢と体幹の運動 15	胸椎と胸郭の運動	講義	仲濱			
29	四肢と体幹の運動 16	腰椎の運動	講義	仲濱			
30	四肢と体幹の運動 17	顔面および頸部の運動	講義	仲濱			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	基礎運動学 医歯薬出版 ¥6,800						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	月曜日・火曜日の 16:00~18:00						
<b>履修上の 注意点</b>	<p>中間試験は 7 回の講義終了後、期末試験後に行う。教科書上だけでなく、骨模型や人体で確認することを通してイメージしていくことを図り、常に疑問を持つことに留意する。</p> <p>また運動学を学習するうえで解剖学・生理学を十分理解する必要があるため、しっかり予習・復習を行い、授業に臨むこと。</p>						

科目名	人間発達学						理学療法科 A 組		
学年	1	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期・後期
評価担当	中村 正恵			担当教員	中村 正恵				
科目概要	<p>本講義では、胎児期から新生児期、乳児期、学童期に至るまでの身体的な発達、精神的な発達をそれぞれの時期に則してその特徴を紹介していく。発達のメカニズム及び反射・反応は、こどものリハビリテーションを熟考するうえで必須の知識となる。</p> <p>臨床現場における基礎的思考を養うとともに、対象者の状態を包括的にとらえた理学療法が実践できることへの礎となることを目的とする。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達に関する定義、区分、原則を理解し、説明できる。</li> <li>2. 反射反応を理解し、説明ができる。</li> <li>3. 全身運動、上肢の運動発達について月齢ごとの特徴を説明できる。</li> <li>4. 幼児期以降の発達について特徴を述べるができる。</li> <li>5. 発達スクリーニングや新生児評価について理解し、その特徴を説明できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	発達とは 1	導入、成長、成熟と発達				講義	中村		
2	発達とは 2	発達段階、発達区分				講義	中村		
3	運動発達 1	運動発達の一般的原則				講義	中村		
4	運動発達 2	中枢神経系の発達と運動発達				講義	中村		
5	胎児および幼児の運動発達 1	胎児期の運動				講義	中村		
6	胎児および幼児の運動発達 2	反射と反応 1				講義	中村		
7	胎児および幼児の運動発達 3	反射と反応 2				講義	中村		
8	胎児および幼児の運動発達 4	反射と反応 3				講義	中村		
9	胎児および幼児の運動発達 5	反射と反応 4				講義	中村		
10	胎児および幼児の運動発達 6	反射と反応 5				講義	中村		
11	胎児および幼児の運動発達 7	反射と反応 6				講義	中村		
12	胎児および幼児の運動発達 8	反射と反応 7				講義	中村		
13	胎児および幼児の運動発達 9	全身運動 1				講義	中村		
14	胎児および幼児の運動発達 10	全身運動 2				講義	中村		
15	胎児および幼児の運動発達 11	全身運動 3				講義	中村		
16	胎児および幼児の運動発達 12	全身運動 4				講義	中村		
17	胎児および幼児の運動発達 13	全身運動 5				講義	中村		
18	胎児および幼児の運動発達 14	全身運動 6				講義	中村		

19	胎児および幼児の運動発達 15	全身運動 7	講義	中村			
20	胎児および幼児の運動発達 16	小児の歩行	講義	中村			
21	胎児および幼児の運動発達 17	上肢の運動 1	講義	中村			
22	胎児および幼児の運動発達 18	上肢の運動 2	講義	中村			
23	胎児および幼児の運動発達 19	上肢の運動 3	講義	中村			
24	胎児および幼児の運動発達 20	知覚運動機能	講義	中村			
25	幼児期以降の発達とスクリーニング 1	日本版デンバー式発達スクリーニング検査	講義	中村			
26	幼児期以降の発達とスクリーニング 2	遠城寺式乳幼児分析的発達検査表	講義	中村			
27	新生児期の評価 1	Dubowitz 新生児神経学的評価	講義	中村			
28	新生児期の評価 2	Brazelton 新生児行動評価	講義	中村			
29	ADL の発達 1	遊び・食事・排泄・更衣 1	講義	中村			
30	ADL の発達 2	遊び・食事・排泄・更衣 2	講義	中村			
<b>評価方法</b>							
評価指標	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	基礎運動学 医歯薬出版 ¥6,800 こどもの理学療法 神陵文庫 ¥4,500						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	月曜日・火曜日の 16:00~18:00						
履修上の 注意点	1. 学生にはイメージが難しい授業内容であるが、視覚的なヒントを提示していくので十分に予習・復習をすること。						

科目名	リハビリテーション医学					理学療法科 A 組			
学年	1 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価担当	重松 直人			担当教員	重松 直人				
科目概要	<p>臨床現場では、対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践することが求められる。リハビリテーション医療を実践する上で必要なリハビリテーション医学の基本的な考え方を身に付けるために、リハビリテーション医療の流れや様々な障害に対しての医学的な基礎知識を理解すると共にリハビリテーションに必要な専門的知識を習得する。</p> <p>また、変化し続ける保健・医療・福祉に貢献する能力をつけるべく、保健・医療・福祉分野の課題に対して、多職種と連携を図り協働し、専門職業人として生涯にわたり研さんし続けるための基本的な考え方についても学ぶ。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション医療の流れを説明できる。</li> <li>2. 様々な障害を医学的に説明できる。</li> <li>3. 疾患と障害との関連を説明できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	関節可動域と筋力	関節の制限・種類・測定・訓練、筋力低下の種類・評価・筋力増強訓練の実際				講義	重松		
2	運動麻痺と運動学習理論	運動麻痺の発生機序、中枢性麻痺回復の原理、ニューロリハビリテーション、運動学習と効果的な運動学習の計画・技術				講義	重松		
3	異常歩行、失語症	主な異常歩行、失語症の診断と分類				講義	重松		
4	失認と失行	失認・失行の症状と評価、リハビリテーション				講義	重松		
5	高次脳機能障害、排泄障害	主な高次脳機能障害と原因疾患、排泄障害の理解				講義	重松		
6	痙縮、高齢化と介護予防	痙縮の理解・評価・対応・具体的な治療法、老化の種類と悪循環・高齢化への対策				講義	重松		
7	脳卒中	疾患の理解、急性期リハの目的、回復期リハの目的、具体的アプローチ、自宅復帰への地域連携				講義	重松		
8	パーキンソン症候群と脊髄小脳変性症	疾患についての理解、臨床症状、障害評価、治療とリハビリテーション				講義	重松		
9	多発性硬化症と神経・筋疾患	疾患についての理解、多発性硬化症と神経・筋疾患（進行性筋ジストロフィー、多発性筋炎、ギランバレー症候群、筋萎縮性硬化症）の臨床症状と評価				講義	重松		
10	脊髄損傷と外傷性脳損傷	疾患の理解・症状・機能障害の評価、リハビリテーションプログラム、外傷性脳損傷に特徴的な高次脳機能障害				講義	重松		
11	四肢切断、運動器疾患	疾患の理解、切断の分類と義肢・切断者の機能評価、運動器疾患に特徴的な障害、一般的治療の流れ、リハビリテーションの要点				講義	重松		
12	関節リウマチと慢性疼痛	疾患の理解、感覚・痛み概念、体性感覚の受容器・伝導路、一般的治療の流れ、リハビリテーションの要点、よくみられる合併症				講義	重松		
13	脳性麻痺、心筋梗塞と虚血性心疾患	脳性麻痺の定義・分類・原因、心筋梗塞と虚血性心疾患の理解・検査・二次的合併症とその治療				講義	重松		
14	呼吸器疾患、悪性腫瘍	呼吸器リハビリテーションの概念・評価・治療手技、悪性腫瘍の理解・疫学と治療原則・がんリハ				講義	重松		

		ビリテーションの基本的考え方						
15	生活習慣病、これまでの総括	生活習慣病についての理解、糖尿病・脂質代謝・高血圧・虚血性心疾患と運動療法、本講義で学んだことの総括					講義	重松
<b>評価方法</b>								
<b>評価指標</b>	期末試験	課題	小テスト	授業態度	-	-	合計	
<b>評価割合 (%)</b>	50	20	20	10	-	-	100	
<b>教科書</b>	リハビリテーション総論 診断と治療社 ¥3,600							
<b>教材・参考図書</b>	必要に応じて適宜プリントを配布する。							
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後を活用すること。							
<b>履修上の注意</b>	中間試験は8回の講義終了後、期末試験後に行う。基礎的な部分については各自学習すること。また、講義の内容については、予習・復習を行い、授業に臨むこと。							

科目名		リハビリテーション概論				理学療法科 A 組			
学年	1 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価担当	松崎 信一郎			担当教員	松崎 信一郎				
科目概要	リハビリテーションとは何か？その本質を体系的に学び、医療、福祉、保健について包括的に理解することを目的とする。また、リハビリテーションの奥深さに触れ、豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、疑義を楽しみ能動的学習の礎を築く。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの歴史的背景とその基本を理解する。</li> <li>2. リハビリテーションにおける理学療法士の役割について理解する。</li> <li>3. 障害に対する考え方とその意義を通して、明日の理学療法士に求められる存在価値を探究し続ける力を養う。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	リハビリテーション概論概要	リハビリテーションの理念と歴史				講義	松崎		
2	医療、保健、社会福祉	リハビリテーション領域と医療、保険、社会福祉の関わり方				講義	松崎		
3	リハマインド	リハビリテーションマインドの重要性と障害を診る心				講義	松崎		
4	廃用症候群	廃用症候群と二次的合併症				講義	松崎		
5	回復期リハビリテーション	回復器リハビリテーションについて				講義	松崎		
6	生活期リハビリテーション	介護保険の概要と介護予防				講義	松崎		
7	まとめ	1～6 回のまとめ				演習	松崎		
8	疾病と障害の関係 1	国際障害分類 (ICIDH) について				講義	松崎		
9	疾病と障害の関係 2	国際生活機能分類 (ICF) について				講義	松崎		
10	リハビリテーション科医	リハビリテーション科医の役割				講義	松崎		
11	理学療法とは	理学療法と理学療法士について				講義	松崎		
12	作業療法とは	作業療法と作業療法士について				講義	松崎		
13	言語聴覚療法とは	言語聴覚療法と言語聴覚士について				講義	松崎		
14	まとめ	8～13 回まとめ				演習	松崎		
15	リハビリテーションと看護	リハビリテーション看護の役割				講義	松崎		
16	チーム医療	各種コメディカル領域の職種について				講義	松崎		
17	理学療法評価	理学療法評価の重要性と障害の帰結予測				講義	松崎		
18	機能評価 1	機能評価の重要性とその進め方				講義	松崎		
19	機能評価 2	障害の帰結予測				講義	松崎		
20	能力障害 1	能力障害の評価意義とその進め方				講義	松崎		
21	能力障害 2	ADL 評価について				講義	松崎		
22	まとめ	15～21 回まとめ				演習	松崎		

23	歩行 1	歩行の基礎知識	講義	松崎			
24	歩行 2	歩行分析と異常歩行	講義	松崎			
25	装具	装具の目的と各種装具について	講義	松崎			
26	義肢	義手と義足について	講義	松崎			
27	車椅子	車椅子の選択と各種車椅子について	講義	松崎			
28	医療、社会福祉と法律	医療保険制度と各種法律	講義	松崎			
29	まとめ	23～28 回まとめ	演習	松崎			
30	地域リハビリテーション	自立支援と就労支援及び地域包括ケアシステムについて	講義	松崎			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	リハビリテーション総論 診断と治療社 ¥3,600						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	毎週木曜日の 8:50～12:00						
<b>履修上の 注意点</b>	講義によっては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。						

科目名	理学療法概論						理学療法科 A 組		
学年	1	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前・後期
評価担当	田中 和範・大塚 和宏			担当教員	田中 和範・大塚 和宏				
科目概要	リハビリテーション医療の発達に伴い、理学療法の範疇は拡大し、対象疾患、理学療法手技、職域、法律制度などといった要因が存在する。このような理学療法を取り巻く状況を理解し、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践することと多職種と連携を図り協働することが求められる。理学療法の全体像を学び、理学療法の専門的知識や実践的技能を段階的に習得し、専門職業人として生涯にわたり研さんし続ける礎を築く。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法の歴史を理解し、理学療法を取り巻く組織、法律や制度について理解する。</li> <li>2. 理学療法士を目指すうえで必要な知識やその分野に求められる倫理について理解する。</li> <li>3. 理学療法発展のための教育および研究および研究等について理解する。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	理学療法の概念と歴史 1	リハビリテーション医学の概念、リハビリテーションに影響を与えた理念・思想				講義	田中		
2	理学療法の概念と歴史 2	理学療法の医学的概念、リハビリテーション医療における理学療法の位置づけ、理学療法発展の歴史				講義	田中		
3	理学療法士の法律 1	理学療法の法的位置づけ、法律の解説 1				講義	田中		
4	理学療法士の法律 2	法律の解説 2、理学療法の社会的有用性と今後の展望				講義	田中		
5	理学療法士の関連法規 1	医療保険法				講義	田中		
6	理学療法士の関連法規 2	介護保険法				講義	田中		
7	理学療法士の関連法規 3	障害者自立支援法				講義	田中		
8	理学療法の意義と役割	理学療法の意義、理学療法の役割、				講義	田中		
9	理学療法の対象	身体障害者福祉法における理学療法の対象者、臨床における理学療法の対象				講義	田中		
10	理学療法の方法 1	障害の把握と問題点の抽出、運動療法				講義	田中		
11	理学療法の方法 2	運動療法、物理療法				講義	田中		
12	理学療法士の組織	組織と活動、医療施設の組織と管理、日本理学療法士協会の組織と活動				講義	田中		
13	理学療法士教育	教育理念と目的、理学療法士の教育制度、教育分野におけるこれからの課題				講義	田中		
14	医療・保健分野の理学療法 1	医療およびリハビリテーションの現状、医療分野における理学療法士の役割、理学療法に関する診療報酬制度				講義	田中		
15	医療・保健分野の理学療法 2	保健分野の現状、保健分野における理学療法士の役割、医療・保健分野におけるこれからの課題				講義	田中		
16	地域リハビリテーションと理学療法 1	地域・福祉分野におけるリハビリテーションの現状、地域・福祉分野における理学療法士の役割 1				講義	田中・大塚		
17	地域リハビリテーションと理学療法 2	地域・福祉分野における理学療法士の役割 2				講義	田中・大塚		
18	地域リハビリテーションと理学療法 3	地域・福祉分野における理学療法士の役割 3、地域・福祉分野における課題				講義	田中・大塚		
19	医療事故とリスクマネジ	医療事故				講義	田中・大塚		

	メント1							
20	医療事故とリスクマネジメント2	医療におけるリスクマネジメント	講義	田中・大塚				
21	医療事故とリスクマネジメント3	理学療法部門における医療事故防止	講義	田中・大塚				
22	個人情報の管理と対象者の権利1	個人情報保護法とは	講義	田中・大塚				
23	個人情報の管理と対象者の権利2	カルテや記録の保管・管理	講義	田中・大塚				
24	理学療法を目指す学生に求められるもの1	学生として必要なことを知る、対象者を知る	講義	田中・大塚				
25	理学療法を目指す学生に求められるもの2	臨床の場で求められていることを知る、専門職としての倫理	講義	田中・大塚				
26	臨床教育の実践1	臨床教育の必要性、臨床実習の流れ	講義	田中・大塚				
27	臨床教育の実践2	臨床から学生に求めること、記録・報告書の書き方	講義	田中・大塚				
28	臨床教育の実践3	症例報告（ケースレポート）	講義	田中・大塚				
29	理学療法領域の研究1	研究とは何か	講義	田中・大塚				
30	理学療法領域の研究2	研究方法論	講義	田中・大塚				
<b>評価方法</b>								
<b>評価指標</b>	前期試験	後期試験	-	-	-	-	-	合計
<b>評価割合(%)</b>	50	50	-	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	理学療法概論 神陵文庫 ¥4,500							
<b>教材・参考図書</b>	必要に応じて適時配布する。							
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後を活用すること。							
<b>履修上の注意</b>	講義をしっかりと聞いて、演習に臨むこと。また、課題の提出期日に遅れず提出すること。							
<b>担当教員の実務経験</b>	13年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、包括的な理学療法知識に精通している。							

科目名	理学療法評価学 I					理学療法科 A 組			
学年	1	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価担当	藤井 和彦・重松 直人			担当教員	藤井 和彦・重松 直人				
科目概要	<p>対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するためには、まず対象者の身体の状態や動作能力、社会的背景などを知らなければ、適切な理学療法を行えない。ゆえに、『理学療法は評価で始まり評価で終わる』と言われるほど、的確に対象者を評価することは大変重要である。</p> <p>本講義では、理学療法の専門的知識や実践的技能を段階的に習得するための理学療法評価の概要（総論）を解説すると共に、評価を構成する検査・測定のうち、形態測定、関節可動域測定、日常生活活動検査を実施できるよう実技演習を行っていく。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法評価の構成と進め方が理解できる。</li> <li>2. 各検査・測定を実施できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	総論 1	導入、障害とは					講義	藤井・重松	
2	総論 2	評価の位置づけ、構成要素					講義	藤井・重松	
3	総論 3	評価の進め方 1					講義	藤井・重松	
4	総論 4	評価の進め方 2					講義	藤井・重松	
5	日常生活活動評価	日常生活活動評価について					講義	藤井・重松	
6	形態測定（講義）	形態測定について					講義	藤井・重松	
7	関節可動域測定（講義）	関節可動域測定について					講義	藤井・重松	
8	形態測定（実技）1	デモンストレーション、実技 1					実技	藤井・重松	
9	形態測定（実技）2	実技 2					実技	藤井・重松	
10	関節可動域測定（実技）1	デモンストレーション、実技 1					実技	藤井・重松	
11	関節可動域測定（実技）2	実技 2					実技	藤井・重松	
12	関節可動域測定（実技）3	実技 3					実技	藤井・重松	
13	自由課題（実技）1	自由課題を実技 1					実技	藤井・重松	
14	自由課題（実技）2	自由課題を実技 2					実技	藤井・重松	
15	自由課題（実技）3	自由課題を実技 3					実技	藤井・重松	
評価方法									
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100		
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	火曜日の 14:00～17:00（その後は講義後に確認すること）								
履修上の注意	<p>理学療法評価は考え方が非常に理解しにくい部分があるため、講義は集中して受講すること。</p> <p>また、実技のためにまずは覚えなれない項目が多く、日頃からその学習に取り組むこと。実技は、スムーズにできるように繰り返しの練習が必要である。</p>								

科目名	理学療法評価学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	1 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価担当	田原 典嗣・重松 直人			担当教員	田原 典嗣・重松 直人				
科目概要	徒手筋力検査は臨床実習においても学生が経験する頻度の高い項目であり、対象者の状態を統合・解釈する上で重要な情報の 1 つとなる。ここでは実践的技能の段階的習得における初期段階ととらえ筋の位置・走行や作用について、さらには適切かつ再現性のある検査を習得することを目的として学んでいく。								
到達目標	1. 筋力検査の目的・意義を理解する。 2. 筋の起始停止を理解し、触診できるようになる。 3. 徒手筋力検査の実施方法が理解でき、検査を実施できる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	徒手筋力テストの原理	段階づけシステム、段階を定める基準について患者がテストに及ぼす影響、臨床現場での応用				実技	田原・重松		
2	上肢の筋力テスト 1	肩甲骨外転と上方回旋・肩甲骨挙上と内転肩甲骨内転と下制・肩甲骨内転と下方回旋及び下制				実技	田原・重松		
3	上肢の筋力テスト 2	肩関節屈曲（前方挙上を含む）、肩関節伸展、肩関節外転、肩関節水平外転と水平内転				実技	田原・重松		
4	上肢の筋力テスト	肩関節外旋・内旋、肘関節屈曲と伸展、前腕回外・回内、手関節屈曲・伸展				実技	田原・重松		
5	上肢の筋力テスト 4	指の中手指節関節屈曲、指の中手指節間関節および遠位指節関節の屈曲・伸展、指外転・内転母指				実技	田原・重松		
6	上肢の筋力テスト 5	中手指節間関節および遠位間関節の屈曲・伸展母指外転・内転、対立運動				実技	田原・重松		
7	下肢の筋力テスト 1	股関節屈曲・伸展				実技	田原・重松		
8	下肢の筋力テスト 2	股関節外転・内転外旋・内旋				実技	田原・重松		
9	下肢の筋力テスト 3	膝関節屈曲・伸展				実技	田原・重松		
10	下肢の筋力テスト 4	足関節底屈・背屈内がえし・外がえし足指の屈曲・伸展				実技	田原・重松		
11	頸筋のテスト 1	頸部伸展・複合伸展頸部屈曲・複合屈曲				実技	田原・重松		
12	頸筋のテスト 2	頸部回旋体幹伸展・骨盤拳上				実技	田原・重松		
13	体幹筋と骨盤底テスト 1	体幹屈曲・回旋				実技	田原・重松		
14	体幹筋と骨盤底テスト 2	安静な吸気・強制呼気運動・骨盤底				実技	田原・重松		
15	後期末まとめ	全範囲まとめ				演習	田原・重松		
評価方法									
評価指標		実技試験	筆記試験						
評価割合 (%)		50	50						
教科書	新・徒手筋力検査法 協同医書 ¥7,500								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	14:00～17:00（その他は講義後に確認しておくこと）								
履修上の注意	<p>紙面上での理解ではなく積極的に実技を実施すること。また、筋の触診も実施するため、解剖学を十分に復習しておくこと。</p> <p>基本実習着にて実施するが、状況により半袖・半ズボンを使用することがあるので準備しておくこと。</p>								

科目名	運動療法学 I					理学療法科 A 組			
学年	1 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価担当	坂口文宏			担当 教員	坂口文宏				
科目概要	運動療法とは、治療の手段として用いる運動のことを意味する。対象者の健康状態に応じた、科学的根拠に基づいた運動療法を、基本的な専門的知識の理解と実践的技能を段階的に養うことを目的とし、障害と運動療法との関係について、基本的な内容を中心に学修していく。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動療法を学習するにあたり必要な身体の名義・構造・機能を理解する。</li> <li>2. 各種運動療法について、歴史、定義を説明できる。</li> <li>3. 各種運動療法について、目的、対象を説明できる。</li> <li>4. 各種運動療法について、その方法を説明かつ実施できる。</li> <li>5. 運動療法に必要な筋骨格の理解を深める。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	運動療法の基礎 1	オリエンテーション、骨、関節、運動の基礎					講義	坂口	
2	運動療法の基礎 2	基本的運動、分類（力源、筋収縮状態）					講義	坂口	
3	運動療法の概観	歴史、概念（定義）、位置付け					講義	坂口	
4	運動療法機器	機器の基本的考え方、目的、種類					講義	坂口	
5	関節可動域運動 1	目的、種類、制限因子、関節の遊び、凹凸の法則、関節モビライゼーション					講義	坂口	
6	関節可動域運動 2	関節可動域運動の実際と注意点（上肢）					実技	坂口	
7	関節可動域運動 3	関節可動域運動の実際と注意点（下肢・体幹）					実技	坂口	
8	関節可動域運動 4	筋骨格の機能解剖（触診）からのストレッチングの意義					実技	坂口	
9	関節可動域運動 5	ストレッチングの実際					実技	坂口	
10	筋力・筋持久力運動 1	目的・適応、筋力に影響する因子、一般的原則					講義	坂口	
11	筋力・筋持久力運動 2	筋持久力、全身持久力、無酸素性作業閾値					実技	坂口	
12	筋力・筋持久力運動 3	筋力・筋持久力運動の実際と注意点					講義	坂口	
13	協調性回復運動	運動の協調性、障害、目的、原則、フレンケル体操、重り負荷					講義	坂口	
14	全身調整運動	コンディショニング、目的、方法					講義	坂口	
15	神経生理学的アプローチ	基本概念、生理学的基础、諸家の紹介と理論					講義	坂口	
評価方法									
評価指標	期末試験	課題	小テスト	授業態度				合計	
評価割合 (%)	50	20	20	10				100	
教科書	理学療法テキストⅢ 運動療法 I 神陵文庫 ¥4,500								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	水・金曜日の 14:00~17:00（その他は講義後に確認すること）								
履修上の 注意点	運動療法学は理学療法士の臨床活動の核ともいえる科目である。講義の円滑な理解のため、予習・復習することを強くお勧めする。								
担当教員の 実務経験	20 年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、運動療法学に精通している。								

科目名	地域リハビリテーション					理学療法科 A 組			
学年	1 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
評価担当	松崎 信一郎			担当 教員	松崎 信一郎				
科目概要	障がい児・者や高齢者が地域社会で自らの人生を主体的に生きることを支援するために医療、福祉、保健の動向を踏まえ、地域リハビリテーションに関わる諸制度を知り、地域において多職種と協働・連携できる能力、各制度上の理学療法士の役割及び業務内容を理解する。								
到達目標	1. 社会保障制度（介護保険法、障害者総合支援法など）の理解と理学療法士の役割を知る。 2. 地域リハビリテーションの定義、活動理念、関連領域とシステム、さらに直接的サービスの現状と課題について理解する。 3. 障がい児・障がい者が自宅や地域で暮らすための環境整備方法を知る。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	地域理学療法の概念と背景①	地域リハの広がりとその社会的背景					講義	松崎	
2	地域理学療法の概念と背景②	障害児・者施策の推移（保護から自立へ）					講義	松崎	
3	地域理学療法の概念と背景③	地域包括システムと地域連携					講義	松崎	
4	地域理学療法の概念と背景④	生活者としての対象者					講義	松崎	
5	介護保険制度と理学療法①	介護保険制度					講義	松崎	
6	介護保険制度と理学療法②	介護保険サービスとその評価					講義	松崎	
7	地域理学療法の展開①	行政における理学療法士の役割、介護予防の展開					講義	松崎	
8	地域理学療法の展開②	介護保険下の入所・通所サービスの展開					講義	松崎	
9	地域理学療法の展開③	訪問における理学療法の展開					講義	松崎	
10	地域理学療法の展開④	集団への対応、入院・入所から在宅への準備					講義	松崎	
11	地域理学療法の展開⑤	成人障害者・小児支援施設の取り組み					講義	松崎	
12	地域理学療法のリスクマネジメント①	施設のリスクマネジメント					講義	松崎	
13	地域理学療法のリスクマネジメント②	訪問のマネジメント、体力増進とリスク管理					講義	松崎	
14	地域理学療法の実際①	脳血管障害					講義	松崎	
15	地域理学療法の実際②	骨折					講義	松崎	
16	地域理学療法の実際③	慢性呼吸不全					講義	松崎	
17	地域理学療法の実際④	神経変性疾患					講義	松崎	
18	地域理学療法の実際⑤	脊髄損傷					講義	松崎	
19	地域理学療法の実際⑥	脳性麻痺					講義	松崎	
20	地域理学療法の展開⑦	認知症、終末期における在宅理学療法					講義	松崎	
21	QOL の増大に向けて①	障害者とスポーツ					講義	松崎	
22	QOL の増大に向けて②	小児理学療法：乳幼児					講義	松崎	

23	QOLの増大に向けて③	小児理学療法：学齢期	講義	松崎			
24	QOLの増大に向けて④	地域における健康増進	講義	松崎			
25	QOLの増大に向けて⑤	自主グループ活動への支援	講義	松崎			
26	生活環境の整備①	住宅改修	講義	松崎			
27	生活環境の整備②	福祉用具	講義	松崎			
28	生活環境の整備③	社会資源	講義	松崎			
29	生活環境の整備④	シーティングの実際	講義	松崎			
30	総合統括	本教科で学んだことの総括実施	講義	松崎			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 医学書院 ¥4,700						
<b>教材・参考図書</b>	その他適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	木曜日の8:50~12:00						
<b>履修上の 注意点</b>	<p>講義に際しては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。</p> <p>定期試験に関しては、到達目標をクリアし、自ら意味理解を図られること。中間試験は記述問題、期末試験は選択問題を主とする。</p> <p>課題レポートについては、自らの考えを積極的に明文化できること。</p>						

科目名	早期実践演習					理学療法科 A 組			
学年	1	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価担当	山本 拓史・田中 和範			担当教員	山本 拓史・田中 和範				
科目概要	臨床実習に向けた準備を行い、見学実習に備えるための知識・技術を身につける。また、医療職としての接遇・態度などコミュニケーションについて学ぶ。								
到達目標	1. 何のための実習なのかを理解し、適切な態度や接遇を身につけることができる。 2. 実習に向け歩行介助、車いす介助等が実施できる。 3. 見学実習で学んだこと得たことを共有し、学校生活を送るうえでの目標を明確にすることができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	臨床実習に向けて	見学実習の意味、実習の目的				講義	山本・田中		
2	臨床実習に向けて	実習に臨む姿勢や態度、接遇				講義	山本・田中		
3	リハビリテーション支援機器	福祉機器と福祉用具、自助具等				講義	山本・田中		
4	臨床実習演習 1	実技デモンストレーション（車椅子、歩行、階段昇降介助）				実技	山本・田中		
5	臨床実習演習 2	実技（車椅子、歩行、階段昇降介助）				実技	山本・田中		
6	臨床実習演習 3	実技（車椅子、歩行、階段昇降介助）				実技	山本・田中		
7	中間まとめ	1～6 回の授業範囲				演習	山本・田中		
8	臨床実習演習 4	実技総復習				実技	山本・田中		
9	臨床実習演習 5	実技総復習				実技	山本・田中		
10	臨床実習演習まとめ	実技まとめ				演習	山本・田中		
11	臨床実習演習まとめ	実技まとめ				演習	山本・田中		
12	臨床実習対策	見学実習直前指導				講義	山本・田中		
13	臨床実習まとめ 1	見学実習提出書類整理、反省				講義	山本・田中		
14	臨床実習まとめ 2	見学実習に関するグループワーク、発表				演習	山本・田中		
15	臨床実習まとめ 3	見学実習に関するグループワーク、発表				演習	山本・田中		
評価方法									
評価指標	実技試験	出席・授業態度等							
評価割合 (%)	60	40							
教科書	必要プリントを適宜配布する。								
教材・参考図書	理学療法テキストⅤ 日常生活活動（ADL）神陵文庫 ¥4,500								
オフィスアワー	月～金曜日 14：00～18：00								
履修上の注意	1. 学習形態は、一斉指導等とする。								

科目名	見学実習 I (早期)					理学療法科 A 組			
学年	1 年	分野	専門	単位数	1 単位 (全 22 単位)	時間数	40 時間 (全 880 時間)	期間	前期
評価 担当	臨床実習指導者			担当 教員	臨床実習指導者				
科目 概要	<p>見学実習 I では、実際の医療施設での見学実習を行う。実際の理学療法士の仕事の業務や他職種との連携を目の当たりにし、チーム医療についてのイメージを身に着ける。また、社会人としてのマナーや接遇について、実際の患者様やスタッフのやり取りを通して学ぶ。これから学習していく理学療法についてのモチベーションの向上とイメージを確立させる。</p>								
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実際の医療施設における理学療法の外観を学び、理学療法士の業務について目で見て感じ学ぶ。</li> <li>2. 医療の現場において様々な場面に適切な接遇で臨めるようになる。</li> <li>3. 対象者様や病院スタッフの方とスムーズにコミュニケーションを取れるようになる。</li> </ol>								
<b>講義計画・講義内容</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習は同一の臨床実習施設において 1 週間行われる。</li> <li>2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、患者と直接かかわっていく。他職種とのかかわりや理学療法士の業務における治療・評価のイメージをつける。</li> <li>3. 安全管理、コミュニケーション論などで学んだ知識を実際の臨床現場で体験し、理解を深める。</li> <li>3. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。</li> </ol>									
<b>評価方法</b>									
評価指標	実習施設 評価	学内評価	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	70	30	-	-	-	-	-	-	100
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 ¥7,200								
教材・参考図書	配布した全ての教科書・参考書								
オフィスアワー	各指導教員に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各実習施設に応じて準備すること。</li> </ol>								

科目名	表現法Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	1～3 学期
評価担当	大久保 正信			担当教員	大久保 正信				
科目概要	<p>第 1 学年で紹介した対話法は、典型的な事例をあげながら体系的に紹介した。この点を踏まえ第 2 学年では、より想定される実践的な対話法を紹介していこうと考えている。より具体的に、皆さんが必ず遭遇するであろう就職活動の際に必要とされる技法、あるいは医療施設内における対話技法など、想定されるであろう場面を設定しながらを具体的に紹介していく。</p> <p>授業を進める上で皆さんが留意すべきは、本講義で学んだ点を日常の対話を通じて実践してほしい点にある。日常で出くわす他者に対する応対や説明、文章によって伝達する際の表現方法など、目的等に合った表現を身に付けることを教育の狙いとしている。授業及び演習は、レジュメに基づきすすめ、今後役に立てられる実践的な表現力を紹介する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的と相手に応じた文書（履歴書、送り状、論文）が作成できるようになる。</li> <li>2. 乱れつつある現在の日本語の動向に流されることなく、正しい日本語が話せる姿勢を身に付ける。</li> <li>3. 人間関係を成立させるための対話、応対及び説明等の医療面接が円滑に出来るようになる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	オリエンテーション	授業内容の概要説明				講義	大久保		
2	履歴書作成①	履歴書の意味及び作成上の留意点				講義	大久保		
3	履歴書作成②	履歴書作成				演習	大久保		
4	履歴書作成③	履歴書作成完了（提出→添削→返却）				演習	大久保		
5	送り状作成①	送り状の書式及び作成上の留意点				講義	大久保		
6	送り状作成②	送り状作成完了（提出→添削→返却）				演習	大久保		
7	1 学期 中間まとめ	1～6 回目のまとめ				演習	大久保		
8	敬語①	敬語の必要性、敬語の種類				講義	大久保		
9	敬語②	敬語の種類とその使い方				講義・演習	大久保		
10	敬語③	敬語の種類とその使い方				講義・演習	大久保		
11	医療面接①	医療面接の留意点				講義	大久保		
12	医療面接②	医療面接の実際				演習	大久保		
13	医療面接③	医療面接の実際				演習	大久保		
14	論理的文章の作成①	論理的文章の特徴、資料収集（取材）の仕方				講義	大久保		
15	2 学期 中間まとめ	8～14 回目のまとめ				演習	大久保		
16	論理的文章の作成②	論理的文章の構成、構想表の使い方				講義	大久保		
17	論理的文章の作成③	作成上の留意点（文体、文の組み立て）				講義・演習	大久保		
18	論理的文章の作成④	作成上の留意点（接続する語句と接続の仕方）				講義・演習	大久保		
19	論理的文章の作成⑤	作成上の留意点（修飾と被修飾）				講義・演習	大久保		
20	論理的文章の作成⑥	作成上の留意点（副詞、表記、原稿用紙）				講義・演習	大久保		
21	小論文作成①	小論文の構成（構想表を使用）				演習	大久保		
22	2 学期 期末まとめ	16～21 回目のまとめ、論文提出				演習	大久保		

23	小論文作成②	小論文の作成	演習	大久保			
24	小論文作成③	小論文の作成（完成後提出→添削後返却）	演習	大久保			
25	小論文作成④	小論文の作成（推敲して修正）	演習	大久保			
26	小論文作成⑤	小論文の作成（清書して提出）	演習	大久保			
27	助動詞①	助動詞の働きと意味による分類	講義・演習	大久保			
28	助動詞②	助動詞「れる・られる」「せる・させる」他	講義・演習	大久保			
29	助動詞③	助動詞「まい」「た」「そうだ」「ようだ」他	講義・演習	大久保			
30	3学期 期末まとめ	23～29 回目のまとめ、論文提出	演習	大久保			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	適宜、プリントを配布する。						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	講義をしっかりと聞いて、演習に臨むこと。また、課題の提出期日に遅れず提出すること。						

科目名	生物					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	基礎	単位数	1 単位 (全 2 単位)	時間数	15 時間 (全 30 時間)	期間	1 学期
評価 担当	田淵 弘太郎			担当 教員	田淵 弘太郎				
科目 概要	対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践することが必要となる。また豊かな人間性を養うと共に、保健・医療・福祉分野の課題に対して、多職種と連携を図り協働するために、ヒトが様々な刺激に対し反応することや、各種臓器が連携するために必要な神経について知る必要があるため、それに対して詳細な講義行う。								
到達 目標	神経系の基本的特徴機能について理解し説明できる。また、神経系の種類を分類し反射について理解する。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	神経系の基本的機能①	神経細胞の形態					講義	田淵	
2	神経系の基本的機能②	静止膜電位					講義	田淵	
3	神経系の基本的機能③	活動電位					講義	田淵	
4	神経系の基本的機能④	閾刺激					講義	田淵	
5	神経系の基本的機能⑤	全か無かの法則					講義	田淵	
6	神経系の基本的機能⑥	不応期					講義	田淵	
7	神経系の基本的機能⑦	イオンチャネル					講義	田淵	
8	1 学期 まとめ	第 1 回～第 7 回目までの復習					演習	田淵	
9	神経系の基本的機能⑧	興奮の伝導					講義	田淵	
10	神経系の基本的機能⑨	複合活動電位					講義	田淵	
11	神経系の基本的機能⑩	興奮の伝達					講義	田淵	
12	神経系の基本的機能⑪	興奮の伝達					講義	田淵	
13	神経系の機能	神経系の成り立ち、反射と反射弓					講義	田淵	
14	1 学期 期末まとめ	9 回目から 13 回目までのまとめ					演習	田淵	
15	学期まとめ	1 学年総括					講義	田淵	
<b>評価方法</b>									
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100		
教科書	生理学テキスト 文光堂 ¥4,800								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義の前後。その他は講義時に確認すること。								
履修上の 注意点	神経系を学んでいく上で、授業内容を理解するには生理学・解剖学の知識も必要になる。一年次に履修した生理学、解剖学の復習を行って講義に臨むとより理解が深まる。また、教科書を用いて講義を行うが、講義内容から試験問題を作成するため、ノート作成に力を入れること。								

科目名	保健体育					理学療法科 A 組			
学年	3年	分野	基礎	単位数	1単位 (全2単位)	時間数	45時間 (全90時間)	期間	1~2学期
評価担当	田中 七郎			担当教員	田中 七郎				
科目概要	本講義では、より実践的な体力づくりおよび健康保持増進を図る種目を配置している。また、集団行動を通じて集団の中での個の役割を自覚すること、他者との関わりから協調性を育むことを主眼とする。また、本講義全般にわたり、礼節や社会性を育み、社会活動で役立てられるよう進めていく。								
到達目標	自らの体力向上と把握に努め、健康管理と安全教育の徹底を行うと共に、自主自立と協調性の精神を養う。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	オリエンテーション		授業を行うに当たっての心構え				講義	田中七	
2	体力づくり		生活に必要な基礎体力を養う 持久力・スピード・筋力の3要素を高める				講義 実技	田中七	
3	フットサル (1)		フットサルの歴史				講義 実技	田中七	
4	フットサル (2)		インサイドパス・アウトサイドパス				講義 実技	田中七	
5	フットサル (3)		インステップキック				講義 実技	田中七	
6	フットサル (4)		トラップ				講義 実技	田中七	
7	1学期 中間まとめ		1~6回のまとめ				演習	田中七	
8	フットサル (5)		ドリブル				講義 実技	田中七	
9	フットサル (6)		ドリブル・シュート				講義 実技	田中七	
10	バレーボール(1)		バレーボールには様々な楽しさがある。 自分たちの現状をみつめ可能性を求めて、一人一人の力を集結した素晴らしいチームづくりに挑戦する				講義 実技	田中七	
11	バレーボール(2)		パス・レシーブ・トス・スパイク・ブロッキング・サービスの機能を各チームで練習し修得する。				講義 実技	田中七	
12	バレーボール(3)		パス・レシーブ・トス・スパイク・ブロッキング・サービスの機能を各チームで練習し修得する。				講義 実技	田中七	
13	集団行動 (1)		学校生活の中で集団行動する機会が非常に多い我々が守らなければならない諸事項をお互い守ることによって集団としての秩序が保たれる。				講義 実技	田中七	
14	1学期 期末まとめ		8~13回のまとめ				演習	田中七	
15	集団行動 (2)		1) 姿勢 ①気をつけの姿勢、②休めの姿勢				講義 実技	田中七	
16	集団行動 (3)		2) 方向変換 ①右(左)への方向転換、 ②後ろへの方向変換、③腰を下ろして休む姿勢				講義 実技	田中七	
17	集団行動 (4)		3) 集合、整頓、番号、解散 ①縦隊の集合と整頓				講義 実技	田中七	

18	集団行動 (5)	②横隊の集合と整頓、番号				講義 実技	田中七
19	集団行動 (6)	4) 列の増減①2列横隊から4列横隊				講義 実技	田中七
20	集団行動 (7)	②4列横隊から2列横隊				講義 実技	田中七
21	集団行動 (8)	③2列横隊から3列横隊				講義 実技	田中七
22	期末	15～21回のまとめ				演習	田中七
23	集団行動 (9)	④3列横隊から2列横隊、⑤礼				演習	田中七
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	必要時に資料を配布する。						
<b>教材・参考図書</b>	必要時に資料を配布する。						
<b>オフィスアワー</b>	講義の前後。その他は講義時に確認すること。						
<b>履修上の 注意点</b>	基礎体力・精神力の向上のため、積極的に取り組むこと。						

<b>科目名</b>	外国語 I
------------	-------

学年	2年	分野	基礎	単位数	2単位 (全4単位)	時間数	30単位 (全60時間)	期間	1～3学期
評価 担当	井原 恒治			担当 教員	井原 恒治				
科目 概要	<p>理学療法士として、将来の職場である病院では、多くの医学英語および略語が使用されている。また、知識を広げるために、諸外国の論文も読めるようになることが求められる。また、国際化が進み、様々な国の人々の治療にあたることもある。</p> <p>本講義では、総合英語から専門課程で学ぶ医療英語への橋渡しができるように、リハビリテーション領域で多く遭遇する疾患ごとに解説する。</p>								
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の基本的単語および文法を身につけ、英文を読み解くことができる。</li> <li>2. リハビリテーション領域で使用される医学英語を身につける。</li> <li>3. リハビリテーションに必要な英語での簡単なコミュニケーションがとれる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	Chapter1	Higher Brain dysfunction (高次脳機能障害) ①				講義	井原		
2	Chapter1	Higher Brain dysfunction (高次脳機能障害) ②				講義	井原		
3	Chapter1	Higher Brain dysfunction (高次脳機能障害) ③				講義	井原		
4	Chapter1	Higher Brain dysfunction (高次脳機能障害) ④				講義	井原		
5	Chapter1	Higher Brain dysfunction (高次脳機能障害) ⑤				講義	井原		
6	1学期 期末まとめ	1～5回目のまとめ				演習	井原		
7	Chapter3	Osteoporosis (骨粗鬆症) ①				講義	井原		
8	Chapter3	Osteoporosis (骨粗鬆症) ②				講義	井原		
9	Chapter3	Osteoporosis (骨粗鬆症) ③				講義	井原		
10	Chapter3	Osteoporosis (骨粗鬆症) ④				講義	井原		
11	Chapter3	Osteoporosis (骨粗鬆症) ⑤				講義	井原		
12	Chapter3	Osteoporosis (骨粗鬆症) ⑥				講義	井原		
13	Chapter3	Osteoporosis (骨粗鬆症) ⑦				講義	井原		
14	2学期 中間まとめ	7～13回目のまとめ				演習	井原		
15	Chapter6	Diabetes Mellitus (糖尿病) ①				講義	井原		
16	Chapter6	Diabetes Mellitus (糖尿病) ②				講義	井原		
17	Chapter6	Diabetes Mellitus (糖尿病) ③				講義	井原		
18	Chapter6	Diabetes Mellitus (糖尿病) ④				講義	井原		
19	Chapter6	Diabetes Mellitus (糖尿病) ⑤				講義	井原		
20	Chapter6	Diabetes Mellitus (糖尿病) ⑥				講義	井原		
21	2学期 期末まとめ	15～20回目のまとめ				演習	井原		
22	Chapter9	Femoral Neck Fracture (大腿骨頸部骨折) ①				講義	井原		
23	Chapter9	Femoral Neck Fracture (大腿骨頸部骨折) ②				講義	井原		
24	Chapter9	Femoral Neck Fracture (大腿骨頸部骨折) ③				講義	井原		
25	Chapter9	Femoral Neck Fracture (大腿骨頸部骨折) ④				講義	井原		
26	Chapter9	Femoral Neck Fracture (大腿骨頸部骨折) ⑤				講義	井原		

27	Chapter9	Femoral Neck Fracture (大腿骨頸部骨折) ⑥	講義	井原			
28	Chapter9	Femoral Neck Fracture (大腿骨頸部骨折) ⑦	講義	井原			
29	3 学期 期末まとめ	22～28 回目のまとめ	演習	井原			
30	総合演習	1 年間のまとめ	演習	井原			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	The Art of Healing 南雲堂 ¥1,700						
<b>教材・参考図書</b>	英和辞典 (書籍名は特に指定せず)						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	講義ごとに、次に進む範囲の文章の中から、わからない単語を調べておく等の予習をしておくこと。 また、英語が苦手な者は特に復習をしっかりと行うこと。						

<b>科目名</b>	外国語Ⅱ
------------	------

理学療法科 A 組

学年	3年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1～2学期
評価担当	井原 恒治			担当 教員	井原 恒治				
科目概要	<p>国内のグローバル化による外国人の受け入れは、今日の日本において漸増しており、それによる病院での外国人患者の数もまた増加している。このような国内情勢による院内での要求は日々多様化し、今後世界共通語としての英語の使用が求められるのは明らかであろう。また、すでに現場では多くの医学英語や略語が使用されており、英語で書かれた論文等から諸君が更なる知識を獲得する機会もあるだろう。</p> <p>したがって本講義では、豊かな人間性を育むための素地を形成すること、総合英語から専門課程で学ぶ医療英語への橋渡しができるようにすることを視野に入れながら、リハビリテーション領域で多く遭遇する疾患ごとに理解を深める。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の基本的単語および文法を身につけ、英文を読み解くことができる。</li> <li>2. リハビリテーション領域で使用される医学英語を身につける。</li> <li>3. リハビリテーションに必要な英語での簡単なコミュニケーションがとれる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	Chapter7	Respiratory Disease ①				講義	井原		
2	Chapter7	Respiratory Disease ②				講義	井原		
3	Chapter7	Respiratory Disease ③				講義	井原		
4	Chapter2	Parkinson' s Disease ①				講義	井原		
5	Chapter2	Parkinson' s Disease ②				講義	井原		
6	Chapter2	Parkinson' s Disease ③				講義	井原		
7	1学期 中間まとめ	1～6回目のまとめ				演習	井原		
8	Chapter8	Chronic Rheumatoid Arthritis ①				講義	井原		
9	Chapter8	Chronic Rheumatoid Arthritis ②				講義	井原		
10	Chapter8	Chronic Rheumatoid Arthritis ③				講義	井原		
11	Grammar	The Present Perfect Tense ①				講義	井原		
12	Grammar	The Present Perfect Tense ②				講義	井原		
13	Grammar	The Present Perfect Tense ③				講義	井原		
14	1学期 期末まとめ	8～13回目のまとめ				演習	井原		
15	Chapter9	Femoral Neck Fracture ①				講義	井原		
16	Chapter9	Femoral Neck Fracture ②				講義	井原		
17	Chapter9	Femoral Neck Fracture ③				講義	井原		
18	Chapter9	Femoral Neck Fracture ④				講義	井原		
19	Chapter10	Spinal Cord Injury ①				講義	井原		
20	Chapter10	Spinal Cord Injury ②				講義	井原		
21	Chapter10	Spinal Cord Injury ③				講義	井原		
22	Chapter10	Spinal Cord Injury ④				講義	井原		
23	Chapter10	Spinal Cord Injury ⑤				講義	井原		
24	Chapter8&10	Mid-term Review				講義	井原		
25	Chapter12	Case Study ①				講義	井原		

26	Chapter12	Case Study ②	講義	井原			
27	Chapter12	Case Study ③	講義	井原			
28	Chapter12	Case Study ④	講義	井原			
29	2学期 期末まとめ	15～28 回目のまとめ	演習	井原			
30	総合演習	1年間のまとめ	講義	井原			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	The Art of Healing 南雲堂 ¥1,700						
<b>教材・参考図書</b>	英和辞典（電子辞書でも可、書籍名は特に指定せず）						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	講義ごとに、次に進む範囲の文章の中から、わからない単語を調べておく等の予習をしておくこと。 中学校程度の英語は理解して授業に臨むこと。						

<b>科目名</b>	解剖学 I
------------	-------

理学療法科 A 組

学年	4年	分野	専門基礎	単位数	2単位 (全4単位)	時間数	60時間 (全120時間)	期間	1～3学期
評価 担当	森垣 浩一			担当 教員	森垣 浩一				
科目 概要	<p>本講義では、脳神経外科領域における解剖学と言った位置づけで授業を進めていく。また本講義の意図は、脳血管疾患における基礎的思考を十分に身につけていただきたい点にある。</p> <p>より具体的な内容は、1年次に履修した解剖学のうち、脳神経外科領域における中枢神経系の神経組織、ニューロン、神経細胞の種類、支持組織や伝導路などについて、解剖学的発生機序も踏まえて検討していく。また、脳卒中などの脳神経外科疾患についてもその病態や症状について概説し、脳の構造と機能を十分に理解しながら、臨床で対象者の状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践することができることを目的とする。</p>								
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系の構造・形態およびその機能について理解し、説明できる。</li> <li>2. 脳神経外科疾患の病態や症状、高次脳機能障害など典型的な障害像を説明できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	中枢神経系 1	灰白質、白質と神経節、根				講義	森垣		
2	中枢神経系 2	脳室系				講義	森垣		
3	中枢神経系 3	髄膜と脳脊髄液				講義	森垣		
4	中枢神経系 4	脳の基本的構造				講義	森垣		
5	中枢神経系 5	脊髄前根と後根				講義	森垣		
6	中枢神経系 6	脊髄内部構造				講義	森垣		
7	中枢神経系 7	伝導路、反射路等				講義	森垣		
8	中枢神経系 8	脳神経				講義	森垣		
9	中枢神経系 9	脊髄神経				講義	森垣		
10	中枢神経系まとめ	1～9回のまとめ				講義	森垣		
11	脳血管疾患の障害 1	脳卒中の病態・特徴				講義	森垣		
12	脳血管疾患の障害 2	中枢性麻痺の本態				講義	森垣		
13	脳血管疾患の障害 3	共同運動パターンと連合反応				講義	森垣		
14	脳血管疾患の障害 4	姿勢反射と平衡反応				講義	森垣		
15	脳血管疾患の障害 5	痙性と筋緊張異常				講義	森垣		
16	脳血管疾患の障害 6	頭部外傷の種類と特徴				講義	森垣		
17	脳血管疾患の障害 7	脳外傷の種類と特徴				講義	森垣		
18	脳血管疾患の障害 8	頭部外傷の高次脳機能障害				講義	森垣		
19	脳血管疾患の障害まとめ	11～18回のまとめ				講義	森垣		
20	高次脳機能障害 1	失語				講義	森垣		
21	高次脳機能障害 2	失行				講義	森垣		
22	高次脳機能障害 3	失認				講義	森垣		
23	脳卒中の画像の診かた 1	CT				講義	森垣		
24	脳卒中の画像の診かた 2	MRI1				講義	森垣		
25	脳卒中の画像の診かた 3	MRI2				講義	森垣		

26	脳卒中の画像の診かた 4	MRI3	講義	森垣			
27	脳卒中の画像の診かた 4	その他画像	講義	森垣			
28	脳血管疾患後の機能回復 1	Brunnstrom ステージと回復過程	講義	森垣			
29	脳血管疾患後の機能回復 2	Brunnstrom ステージと機能訓練	講義	森垣			
30	総合	総合まとめ	講義	森垣			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	90	10	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	全国柔道整復学校協会 解剖学 医歯薬出版 ¥7,800						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	講義は教科書・参考書を主体とし、追加資料などで捕捉を行う。						

<b>科目名</b>	<b>解剖学Ⅱ</b>
------------	-------------

理学療法科 A 組

学年	4年	分野	専門基礎	単位数	2単位 (全4単位)	時間数	60時間 (全120時間)	期間	1～3学期
評価担当	長門 俊一			担当 教員	長門 俊一				
科目概要	<p>ここでは、これまでの集大成としての「解剖学」と言った位置づけで、授業を進めていきたい。わけても、1年次に履修した内臓系、内分泌系、神経系、感覚器系と言った一連の領域を微細に再確認していく予定である。</p> <p>対象者の心身能力を正確に評価する客観性を担保するには、この一連の領域をしっかりと身につけておく必要がある。この講義を遺漏なく理解すれば、臨床的な思考過程の育成に役立つとともに、ハイレベルの知識も習得できる。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内臓系の位置と構造を三次元的にイメージし、その基本的な働きを理解する。</li> <li>2. 神経系と内分泌系の構造を理解し、他の組織とのつながりを説明できる。</li> <li>3. 感覚器系の構造と働きを理解する。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	細胞および組織・発生 (1)	細胞の形態と内部構造				講義	長門		
2	細胞および組織・発生 (2)	組織分類と特性				講義	長門		
3	細胞および組織・発生 (3)	人体の発生				講義	長門		
4	消化器 (1)	口、口腔腺、咽頭、食道				講義	長門		
5	消化器 (2)	胃、十二指腸、空腸				講義	長門		
6	消化器 (3)	回腸、大腸、肝臓				講義	長門		
7	1学期 期末まとめ	1～7回のまとめ				講義	長門		
8	消化器 (4)	胆道、膵臓、腹膜				講義	長門		
9	呼吸器 (1)	外鼻、副鼻腔、咽頭				講義	長門		
10	呼吸器 (2)	喉頭、気管、気管支				講義	長門		
11	呼吸器 (3)	肺、胸膜、縦隔				講義	長門		
12	泌尿器 (1)	腎臓				講義	長門		
13	泌尿器 (2)	尿管、膀胱、尿道				講義	長門		
14	2学期 中間まとめ	8～13のまとめ				講義	長門		
15	生殖器 (1)	精巣、精管、精嚢				講義	長門		
16	生殖器 (2)	付属生殖器、陰茎と陰嚢				講義	長門		
17	生殖器 (3)	卵巣、卵管、子宮、膣				講義	長門		
18	生殖器 (4)	外陰部、会陰、周期的変化、胎盤				講義	長門		
19	神経系 (1)	神経組織、中枢神経の区分、脳室系、髄膜				講義	長門		
20	神経系 (2)	終脳、間脳、中脳、橋、延髄				講義	長門		
21	神経系 (3)	小脳、脊髄、伝導路、脳神経				講義	長門		
22	2学期 期末まとめ	15～21のまとめ				講義	長門		
23	神経系 (4)	脊髄神経後枝、頸神経叢、腕神経叢、胸神経				講義	長門		
24	神経系 (5)	腰神経叢、仙骨神経叢、陰部神経叢、尾骨神経				講義	長門		

25	神経系 (6)	デルマトーム、自律神経	講義	長門			
26	感覚器 (1)	皮膚、深部感覚	講義	長門			
27	感覚器 (2)	視覚器、聴覚器	講義	長門			
28	感覚器 (3)	平衡感覚器、味覚器、嗅覚器	講義	長門			
29	3 学期 期末まとめ	23～28 のまとめ	講義	長門			
30	総合	総合まとめ	講義	長門			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	90	10	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	全国柔道整復学校協会 解剖学 医歯薬出版 ¥7,800						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	火曜日 13:00～15:00(その他は講義後に確認すること)						
<b>履修上の 注意点</b>	講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは学生に配布しない。1年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を行うこと。板書を多用し、図を描くことも多いので、色ペン、色鉛筆を準備しておくことが望ましい。						

科目名	生理学 I					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位 (全 4 単 位)	時間数	60 時間 (全 120 時 間)	期間	1~3 学期
評価 担当	坂口 文宏			担当 教員	坂口 文宏				
科目 概要	<p>本講義では、運動器及び内部障害領域に病態生理学的側面から授業を展開していく。本講義の意図は、運動器及び内部障害領域における基礎的思考を十分に身につけることである。</p> <p>より具体的な内容は、1 年次に履修した生理学のうち、骨、関節、筋等の運動器や循環器、呼吸器、腎機能、代謝について、病態生理学的な視点からその機序を重点的に再検討していく予定である。また付随し本講義は、一方において多様な臨床像の理解にも利するよう工夫している。</p>								
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨・関節に関する生理、化学及び病態生理について理解する。</li> <li>2. 筋・神経に関する生理、化学及び病態生理について理解する。</li> <li>3. 内部障害のうち、主に循環機能障害に関する病態生理について理解する。</li> <li>4. 代謝障害に関する生理、化学及び病態生理について理解する。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	骨の構造、生理、化学①	細胞とその機能、骨の細胞外基質				講義	坂口		
2	骨の構造、生理、化学②	骨の構造及び種類、骨の血管と神経支配				講義	坂口		
3	骨の構造、生理、化学③	骨の吸収—形成連関機能とミネラル恒常性				講義	坂口		
4	骨の構造、生理、化学④	骨とビタミン、骨とホルモン				講義	坂口		
5	骨の構造、生理、化学⑤	骨の発生、成長、維持				講義	坂口		
6	骨の病態生理	骨の生物学的反応、成長軟骨板の生物学的反応				講義	坂口		
7	関節の構造と生化学①	関節と関節軟骨、関節包と靭帯				講義	坂口		
8	関節の構造と生化学②	滑膜と滑液、半月板と滑液包				講義	坂口		
9	関節の構造と生化学③	椎間板及びこれまでのまとめ				講義	坂口		
10	関節の病態生理①	関節軟骨、滑膜の生物学的反応、				講義	坂口		
11	関節の病態生理②	関節包と靭帯の生物学的反応				講義	坂口		
12	骨・軟骨の損傷修復と再生	骨と軟骨				講義	坂口		
13	筋・神経の構造、生理、化学	骨格筋、神経組織の構造と機能				講義	坂口		
14	疾患総論①	軟部組織・骨・関節の感染症、関節リウマチとその類縁疾患				講義	坂口		
15	疾患総論②	慢性関節疾患（退行性、代謝性）、四肢循環障害と阻血壊死性疾患				講義	坂口		
16	疾患総論③	先天性骨系疾患、先天異常症候群、代謝性骨疾患				講義	坂口		
17	疾患総論④	神経疾患、筋疾患及びこれまでのまとめ				講義	坂口		
18	虚血性心疾患の病態生理①	狭心症、心筋梗塞				講義	坂口		
19	虚血性心疾患の病態生理②	心不全				講義	坂口		
20	虚血性心疾患の病態生理③	大動脈疾患（大動脈瘤、大動脈解離）				講義	坂口		
21	虚血性心疾患の病態生理	閉塞性動脈硬化症				講義	坂口		

	④4						
22	心電図①	頻脈、徐脈、期外収縮、心房細動など	講義	坂口			
23	心電図②	房室ブロック、致死性不整脈など	講義	坂口			
24	心電図③	虚血、梗塞	講義	坂口			
25	代謝障害の病態生理①	肥満、高血圧、脂質異常症	講義	坂口			
26	代謝障害の病態生理②	糖尿病①	講義	坂口			
27	代謝障害の病態生理③	糖尿病②	講義	坂口			
28	代謝障害の病態生理④	腎疾患①	講義	坂口			
29	代謝障害の病態生理⑤	腎疾患②	講義	坂口			
30	総括	全体のまとめ	講義	坂口			
<b>評価方法</b>							
	<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	合計
	<b>評価割合 (%)</b>	90	10	-	-	-	100
<b>教科書</b>	生理学テキスト 文光堂 ¥5,000 標準整形外科学 医学書院 ¥9,400 内部障害理学療法学 医歯薬出版 ¥4,800						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	水・金曜日 14:00~17:00 (その他は講義後に確認してください)						
<b>履修上の 注意点</b>	この講義は1年次に学習した内容についての復習と、更に理解を深めて病態生理学への発展を望む。 講義前には運動器及び内部障害領域の病態生理を予習すること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名	生理学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位 (全 4 単位)	時間数	60 時間 (全 120 時間)	期間	1～3 学期
評価担当	加藤 健一			担当教員	加藤 健一				
科目概要	生理学は人体の機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを追求する学問である。現在の生理学は、解剖学的知識や実験などにより得られた科学的証拠に基づき構築されている。その成果は臨床医学の領域で病気の治療に不可欠な知識を提供している。								
到達目標	各臓器や組織の役割と働きを理解し、人体の恒常性とその維持機能について説明することができる。基本的事項から外傷・障害の治療への応用に至るまでを理解し、説明することができる。卒業後の臨床活動に向けて基本事項へ応用に至るまでの理解を深めていく中で、生理学と関連性の大きい種々の疾患を理解し、説明することができるようになる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	生理学の基礎	人体を構成する要素～輸送				講義	加藤		
2	体液の生理学	体液の区分、イオン組成、恒常性維持のしくみ				講義	加藤		
3	神経系の基本的機能(1)	静止膜電位と活動電位、閾刺激、不応期				講義	加藤		
4	神経系の基本的機能(2)	興奮の伝導と伝達				講義	加藤		
5	神経系の機能(1)	神経系の成り立ち				講義	加藤		
6	神経系の機能(2)	内臓機能調節、視床下部による調節				講義	加藤		
7	神経系の機能(3)	姿勢と運動の調節				講義	加藤		
8	神経系の機能(4)	高次機能				講義	加藤		
9	感覚の生理学(1)	感覚の種類、一般的性質、体性感覚と内臓感覚				講義	加藤		
10	感覚の生理学(2)	特殊感覚				講義	加藤		
11	内分泌系の機能(1)	内分泌とは、ホルモンの性質・種類・作用				講義	加藤		
12	内分泌系の機能(2)	視床下部、下垂体、甲状腺、副腎皮質のホルモン				講義	加藤		
13	内分泌系の機能(3)	副腎髄質、膵臓、性腺のホルモン				講義	加藤		
14	骨の生理学	構造、形成と成長、再吸収と再形成、ビタミンD				講義	加藤		
15	生殖	性分化、生殖器、月経周期、妊娠分娩、乳汁分泌				講義	加藤		
16	筋肉の機能(1)	種類とその特徴、骨格筋の構造、収縮、興奮				講義	加藤		
17	筋肉の機能(2)	筋長と張力、収縮エネルギー、平滑筋、心筋				講義	加藤		
18	血液の生理学(1)	血液の役割と組成				講義	加藤		
19	血液の生理学(2)	免疫機能、血液型、血液凝固				講義	加藤		
20	循環の生理学(1)	心臓の機能、血管系、リンパ管系				講義	加藤		
21	循環の生理学(2)	循環の調節、局所循環、脳脊髄液循環				講義	加藤		
22	呼吸の生理学(1)	換気、ガス交換、ヘモグロビンの役割				講義	加藤		
23	呼吸の生理学(2)	二酸化炭素の運搬、呼吸の調節、呼吸の異常				講義	加藤		
24	消化と吸収(1)	消化器系の働き、運動とその調節、消化液				講義	加藤		
25	消化と吸収(2)	消化、吸収、消化管ホルモン、肝臓と胆道系				講義	加藤		
26	栄養と代謝①	代謝、中間代謝				講義	加藤		

27	栄養と代謝②	エネルギー代謝				講義	加藤
28	体温とその調節	体温、熱産生と熱放散、体温調節、うつ熱と発熱				講義	加藤
29	尿の生成と排泄(1)	腎の構造と機能、糸球体ろ過				講義	加藤
30	尿の生成と排泄(2)	尿細管の再吸収と分泌、尿の成分、排尿				講義	加藤
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	90	10	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	生理学テキスト 文光堂 ¥4,800						
<b>教材・参考図書</b>	必要に応じて授業内で紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	金曜日 15時～17時						
<b>履修上の注意点</b>	講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは基本的に学生に配布しない。1年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を最低1時間ずつは行うこと。板書を多用し、図を描くことも多いので、色ペン、色鉛筆を準備しておくことが望ましい。						

科目名	運動学 I					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位 (全 3 単位)	時間数	15 時間 (全 90 時間)	期間	1 学期
評価担当	田原典嗣			担当 教員	田原典嗣				
科目概要	<p>1 年次の運動学では人間の身体運動を理解するために必要な人体の構造と機能、力学について学んできた。2 年次の運動学では、各関節の構造・機能や神経生理学に基づく制御といった視点から「姿勢」、「歩行」及び「走行」について学んでいく。</p> <p>理学療法の目的は、基本的動作能力の改善であり、帰るところ姿勢制御、歩行能力の向上にある。日常において移動手段の獲得は、対象者の QOL を飛躍的に向上させ、日常の質を向上させる。そのため、ここでは対象者の運動を理解し、理学療法を実践するために必要な基礎知識の習得を目的とする。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 頸部・体幹の構造・機能と関節運動との関係が理解できる。</li> <li>2. 姿勢保持のメカニズムが理解できる。</li> <li>3. 歩行のメカニズムが理解できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	四肢と体幹の運動 1	頸椎の運動				講義	田原		
2	四肢と体幹の運動 2	胸椎と胸郭の運動				講義	田原		
3	四肢と体幹の運動 3	腰椎の運動				講義	田原		
4	四肢と体幹の運動 4	顔面および頸部の運動				講義	田原		
5	姿勢 1	重心・立位姿勢の安定性				講義	田原		
6	姿勢 2	姿勢の記載と類型・立位姿勢				講義	田原		
7	姿勢 3	立位姿勢・立位姿勢の異常				講義	田原		
8	1 学期 中間まとめ	1～7 回目のまとめ				演習	田原		
9	歩行と走行 1	歩行と運動学・歩行周期				講義	田原		
10	歩行と走行 2	運動学的分析				講義	田原		
11	歩行と走行 3	運動力学的分析				講義	田原		
12	歩行と走行 4	歩行時のエネルギー代謝				講義	田原		
13	歩行と走行 5	小児・高齢者の歩行・異常歩行				講義	田原		
14	歩行と走行 6	走行				講義	田原		
15	1 学期 期末まとめ	9～14 回目のまとめ				演習	田原		
評価方法									
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	-	100	
教科書	基礎運動学 医歯薬出版 ¥6,800								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	月曜から木曜日までの毎夕 (16 時～18 時)								
履修上の 注意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1 年次に学習した基礎知識をしっかり予習をすること。</li> <li>2. 教科書上だけでなく身体イメージをつけ、模倣など行い他者に説明できるように復習すること。</li> </ol> <p>なお、上記の回数は補習も含む。</p>								

科目名	運動学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	0 単位 (全 2 単位)	時間数	15 時間 (全 60 時間)	期間	3 学期
評価 担当	田原 典嗣			担当 教員	田原 典嗣				
科目 概要	<p>本講義の主眼は、身体運動を分析する際の基本的知識、技術、思考を習得する点にある。この具体的手段は、運動学習及び運動処方の実情を理解することから始めていく。</p> <p>理学療法士にとって、運動学習及び運動処方は良質の運動療法を進めるうえで非常に重要である。</p> <p>本講義は、実際に対象者の運動療法を進めるうえで必須となる基礎的思考を実践的に紹介していきたい。</p>								
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体運動と動作のメカニズムについて、これまで学習した基礎知識を用いて説明ができる。</li> <li>2. 体力と運動処方の概要を説明できる。</li> <li>3. 運動学習の概要を説明できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	体力と運動処方 1	身体運動のエネルギー代謝					講義	田原	
2	体力と運動処方 2	運動処方					講義	田原	
3	体力と運動処方 3	運動処方					演習	田原	
4	運動学習 1	学習と記憶・運動技能					講義	田原	
5	運動学習 2	学習の諸理論・運動学習の諸理論					講義	田原	
6	運動学習 3	練習と訓練					講義	田原	
7	3 学期 期末まとめ	1～6 回目のまとめ					演習	田原	
8	総復習	1～6 回目の復習					演習	田原	
評価方法									
評価指標	期末試験	レポート	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	70	30	-	-	-	-	-	100	
教科書	基礎運動学 医歯薬出版 ¥6,800								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	月曜から木曜日までの毎夕 (16 時～18 時)								
履修上の 注意点	運動処方では生理学の知識が必須となるため、予習すること。								

科目名	運動学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	3年	分野	専門基礎	単位数	2単位 (全2単位)	時間数	45時間 (全60時間)	期間	1～2学期
評価担当	田原 典嗣			担当教員	田原 典嗣				
科目概要	<p>ここでは、理学療法士の能力の根幹と言われる動作分析に着目し、運動学の観点から理解を深めていく。運動学Ⅰにおいても基礎動作及び歩行に着目し学んでいくが、ここでは新たに観察手法としての記録作成をも含め進めていく予定である。</p> <p>動作障害の原因を推論する為には、基本動作が成り立つために必要な「動作メカニズム」を理解する事が重要である。動作のメカニズムに着目し分析する事が、障害動作の推論をより確実なものとする。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体運動と動作のメカニズムについて、これまで学習した基礎知識を用いて説明ができる。</li> <li>2. 患者動作能力の問題点を抽出し、その原因を推論する事が出来る。</li> <li>3. 動作分析の記録作成する事が出来る。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	臨床における動作分析	動作分析の目的				講義	田原		
2		動作分析の着目点と動作のメカニズム				講義	田原		
3	動作障害に関与する機能障害	筋の機能不全				講義	田原		
4		疼痛				講義	田原		
5	姿勢制御バイオメカニクス	基本動作の姿勢制御				講義	田原		
6		アライメント変化と身体重心の制御				講義	田原		
7	1学期 中間まとめ	1～6回のまとめ				演習	田原		
8	寝返り動作の分析	寝返り動作の概要				講義	田原		
9		動作を可能にするメカニズム				講義	田原		
10		目視による動作分析				講義	田原		
11		動作のメカニズムの評価				講義	田原		
12	起き上がりの動作分析	動作の概要				講義	田原		
13		動作を可能にするメカニズム				講義	田原		
14		目視による動作分析・動作のメカニズムの評価				講義	田原		
15	1学期 期末まとめ	8～14回目のまとめ				演習	田原		
16	起立・着座の分析	動作の概要				講義	田原		
17		動作を可能にするメカニズム				講義	田原		
18		目視による動作分析				講義	田原		
19		動作のメカニズムの評価				講義	田原		
20	歩行分析	動作の概要				講義	田原		
21		動作を可能にするメカニズム				講義	田原		
22		目視による動作分析				講義	田原		
23		動作のメカニズムの評価				講義	田原		
24		動作のメカニズムを阻害する原因の推論				講義	田原		

25	2学期 期末まとめ	16～24 回目のまとめ				演習	田原
26	総復習					講義	田原
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	動作分析 メジカルビュー社 ¥5,600						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	月曜から木曜日までの毎夕 (16時～18時)						
<b>履修上の 注意点</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常より観察を心掛け、観察力を養うこと。</li> <li>2. 実際にレポートなど紙面で提出することもあるので、パソコンを使えるようにすること。</li> <li>3. 実際に姿勢・歩行分析を行うので、短パン半袖の用意をすること。</li> </ol> <p>なお、上記の回数は補習も含む。</p>						

科目名	病理学概論					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位 (全 3 単位)	時間数	60 時間 (全 90 時間)	期間	1～2 学期
評価担当	大関 悟			担当教員	大関 悟				
科目概要	<p>病理学は疾病の原因とその成り立ちを追求することにより、病気の本体を明らかにし、治療に直結する学問である。すなわち、医学・医療の最も基本的な学問であり、医療に携わる者の必須の学問と言える。</p> <p>本講義では、卒後、リハビリテーションに携わるにあたって、疾病に直面するたびに常に病理学に立ち返り、疾病を深く理解したうえで、より良き医療の行える医療人となるようわかりやすく解説する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各病因について理解できる。</li> <li>2. 各病理学的変化について理解できる。</li> <li>3. 理学療法と病理学との関連について理解できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	病理学の概要	導入、病理学の歴史				講義	大関		
2	病因論	外因（放射線障害）、内因				講義	大関		
3	退行性病変①	変性、委縮				講義	大関		
4	退行性病変②	壊死				講義	大関		
5	代謝異常①	蛋白質・アミノ酸代謝異常、脂質代謝異常				講義	大関		
6	代謝異常②	糖質代謝異常、無機物質代謝異常、色素代謝異常				講義	大関		
7	1 学期 中間まとめ	1～6 回目のまとめ				演習	大関		
8	進行性病変①	肥大と過形成、化生、異形成				講義	大関		
9	進行性病変②	再生と創傷治癒				講義	大関		
10	循環障害①	体循環の機構、全身循環障害				講義	大関		
11	循環障害②	局所循環障害				講義	大関		
12	免疫①	免疫の概念、免疫の成立				講義	大関		
13	免疫②・（老化）	免疫反応がもたらす傷害・疾患、移植				講義	大関		
14	1 学期 期末まとめ	8～13 回のまとめ				演習	大関		
15	炎症・感染症①	炎症①				講義	大関		
16	炎症・感染症②	炎症②				講義	大関		
17	炎症・感染症③	炎症③				講義	大関		
18	炎症・感染症④	感染症①				演習	大関		
19	炎症・感染症⑤	感染症②				講義	大関		
20	炎症・感染症⑥	感染症③				講義	大関		
21	腫瘍①	腫瘍とは、腫瘍の命名と分類				講義	大関		
22	2 学期 中間まとめ	15～21 回のまとめ				演習	大関		
23	腫瘍②	腫瘍の形態				講義	大関		
24	腫瘍③	悪性腫瘍の進展形式				講義	大関		
25	腫瘍④	悪性腫瘍の進行度				講義	大関		

26	腫瘍⑤	悪性腫瘍の統計	講義	大関			
27	腫瘍⑥	腫瘍発生の原因・発がんのメカニズム	講義	大関			
28	2学期 期末まとめ	23～27回目のまとめ	演習	大関			
29	先天異常・奇形①	遺伝性疾患、染色体異常	講義	大関			
30	先天異常・奇形②	奇形、放射線障害	講義	大関			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院 ¥4,600						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	理解するには生理学の知識が必要である。講義前にその単元の生理について予習すること。また、復習をしっかりと行うこと。						

科目名	病理学概論					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位 (全 3 単位)	時間数	30 時間 (全 90 時間)	期間	1～3 学期
評価担当	谷口 邦久			担当教員	谷口 邦久				
科目概要	<p>病理学は疾病の原因、成立過程、及びその結果など疾病の基本概念の病理学総論が重要である。病理学概論は、医療チームを構成する全ての職種に共通する必須科目であり、これを学ぶことで臨床科目を深く理解することに繋がる。</p> <p>ここでは、臨床に向けて 2 年次に履修した内容を統合、整理すると共に、卒業後の臨床理解に役立つように行っていく。</p>								
到達目標	<p>1. 病理を研究する方法を知り、その観察方法について理解する。疾病一般について意義・分類を理解する。</p> <p>2. 細胞傷害・循環障害・進行性病変・炎症・腫瘍などのマクロ・ミクロの形態変化を知見として理解する。</p>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	病理学とは	形態学における観察方法					講義	谷口	
2	疾病の一般	疾病の経過・予後・転帰					講義	谷口	
3	病因論	内因・外因					講義	谷口	
4	退行性病変	変性・萎縮・壊死					講義	谷口	
5	代謝異常 1	蛋白質・アミノ酸代謝異常・脂質代謝異常					講義	谷口	
6	代謝異常 2	糖代謝異常・無機質代謝異常・色素代謝異常					講義	谷口	
7	1 学期まとめ	期末まとめ					講義	谷口	
8	進行性病変 1	肥大・過形成					講義	谷口	
9	進行性病変 2	化生・異形成					講義	谷口	
10	進行性病変 3	再生と創傷治癒					講義	谷口	
11	循環障害 1	体液循環の異常・全身循環の異常					講義	谷口	
12	循環障害 2	局所循環の異常					講義	谷口	
13	免疫 1	免疫の仕組み・免疫不全・後天性免疫不全					講義	谷口	
14	2 学期まとめ	中間まとめ					講義	谷口	
15	免疫 2	自己免疫疾患・アレルギー・移植					講義	谷口	
16	炎症・感染症 1	炎症の原因・種類					講義	谷口	
17	炎症・感染症 2	感染症の原因・成立					講義	谷口	
18	炎症・感染症 3	微生物の感染経路・日和見感染					講義	谷口	
19	腫瘍 1	腫瘍の定義・腫瘍の組織構造					講義	谷口	
20	腫瘍 2	発癌の原因・腫瘍の分類（良性腫瘍・悪性腫瘍）					講義	谷口	
21	腫瘍 3	悪性腫瘍（癌・肉腫）、悪性腫瘍の進展（転移）					講義	谷口	
22	2 学期まとめ	期末まとめ					講義	谷口	
23	放射性障害 1	放射線の種類と単位・放射性障害の分子細胞生物学的機序					講義	谷口	
24	放射性障害 2	放射線による臓器障害・放射線と発癌・医療における放射線					講義	谷口	

25	老化 1	生理的老化と寿命	講義	谷口			
26	老化 2	加齢に伴って増加する各臓器の疾患	講義	谷口			
27	先天性異常・奇形 1	先天異常・遺伝性疾患	講義	谷口			
28	先天性異常・奇形 2	染色体異常・奇形	講義	谷口			
29	3 学期まとめ	期末まとめ	講義	谷口			
30	病理総合	総合まとめ	講義	谷口			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	90	10	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院 ¥4,600						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	火曜日の 15 時～17 時						
<b>履修上の 注意点</b>	講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは基本的に学生に配布しない。2 年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を最低 1 時間ずつは行うこと。						

科目名	一般臨床医学 I					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位 (全 3 単位)	時間数	60 (全 90 時間)	期間	1～2 学期
評価 担当	宇田津 明彦			担当 教員	宇田津 明彦				
科目 概要	理学療法士は身体障害を対象とし、近年では内部障害に対する理学療法は非常に重要度が高まっている。また、運動器の障害を抱えている高齢者は、他に多くの内科疾患を併せ持つことは既知のとおりである。本講義では、リハビリテーションに携わるにあたって必要な内部障害をわかりやすく解説する。								
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各疾患の原因について理解できる。</li> <li>2. 各疾患の病態(症状)について理解できる。</li> <li>3. 各疾患の基本的な検査・治療について理解できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	呼吸器疾患①	呼吸器感染症、COPD (慢性閉塞性肺疾患)					講義	宇田津	
2	呼吸器疾患②	アレルギー・免疫疾患、間質性肺炎					講義	宇田津	
3	呼吸器疾患③	その他の呼吸器疾患					講義	宇田津	
4	循環器疾患①	心不全、弁膜疾患、先天性心疾患					講義	宇田津	
5	循環器疾患②	動脈硬化、心筋梗塞、狭心症					講義	宇田津	
6	1 学期 中間まとめ	1～5 回目のまとめ					演習	宇田津	
7	循環器疾患③	高血圧、心筋症、その他					講義	宇田津	
8	血液・造血器疾患①	貧血、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など					講義	宇田津	
9	血液・造血器疾患②	出血性疾患、血栓性疾患					講義	宇田津	
10	感染症①	感染症へのアプローチ、細菌性感染症					講義	宇田津	
11	感染症②	ウイルス性感染症、その他					講義	宇田津	
12	1 学期 期末まとめ	7～11 回のまとめ					演習	宇田津	
13	自己免疫疾患	全身性自己免疫疾患					講義	宇田津	
14	アレルギー疾患等	アレルギー疾患、免疫不全					講義	宇田津	
15	消化器疾患①	食道疾患、胃・十二指腸疾患					講義	宇田津	
16	消化器疾患②	小腸・大腸疾患					講義	宇田津	
17	肝胆膵疾患①	肝疾患					講義	宇田津	
18	2 学期 中間まとめ	13～17 回のまとめ					演習	宇田津	
19	肝胆膵疾患②	胆嚢・胆道疾患					講義	宇田津	
20	肝胆膵疾患③	膵疾患					講義	宇田津	
21	内分泌疾患①	視床下部・下垂体疾患					講義	宇田津	
22	内分泌疾患②	甲状腺・副甲状腺疾患、副腎疾患					講義	宇田津	
23	内分泌疾患③	性腺疾患、その他					講義	宇田津	
24	2 学期 期末まとめ	19～23 回目のまとめ					演習	宇田津	
25	代謝・栄養疾患①	糖尿病					講義	宇田津	
26	代謝・栄養疾患②	その他					講義	宇田津	

27	腎・尿路疾患①	腎不全、糸球体疾患				講義	宇田津
28	腎・尿路疾患②	腎障害、尿細管間質性疾患				講義	宇田津
29	腎・尿路疾患③	泌尿器科領域の疾患、妊娠と腎、その他				講義	宇田津
30	3学期 期末まとめ	25～29 回目のまとめ				演習	宇田津
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	わかりやすい内科学 文光堂 ¥9,000						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	理解するには生理学の知識が必要であるため、講義前にその単元の生理について予習すること。						

科目名	一般臨床医学 I					理学療法科 A 組			
学年	3 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位 (全 3 単 位)	時間数	30 時間 (全 90 時間)	期間	1 学期
評価 担当	桂木 猛			担当 教員	桂木 猛				
科目 概要	薬物治療とリハビリテーションは、相互に関連していることから、薬物に対する十分な知識を必要とする。将来理学療法士として、対象者が服用している薬物の的確な把握は、自らが進めるリハビリテーションに大きな影響を与えると予見できる。ここでは、理学療法を安全かつ確実に実践する能力を養うために必要な薬理学に関する知識を、人体の生理機能を復習しながら学んでいく。								
到達 目標	1. 薬物の投薬経路の差異、各種薬物の体内動態を説明できる。 2. 抗炎症薬、自律神経作用薬、中枢神経薬、抗高血圧薬などの作用機序、副作用を説明できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	総論 1 薬物治療		薬の基本的な役割を理解する				講義	桂木	
2	総論 2 薬物作用		薬理作用の基本的な考えを理解する				講義	桂木	
3	総論 3 薬物動態		薬物の体内での動態を理解する				講義	桂木	
4	総論 4 薬効・副作用		薬物の作用機序や副作用などを理解する				講義	桂木	
5	各論 1 抗アレルギー薬		抗アレルギー薬について理解する				講義	桂木	
6	各論 2 抗炎症薬		抗炎症薬の作用機序・副作用を理解する				講義	桂木	
7	1 学期 中間まとめ		1～6 回のまとめ				演習	桂木	
8	各論 3 末梢神経薬		自律神経に作用する薬について理解する				講義	桂木	
9	各論 4 末梢神経薬		筋弛緩薬・局所麻酔薬について理解する				講義	桂木	
10	各論 5 抗高血圧薬		抗高血圧薬について理解する				講義	桂木	
11	各論 6 利尿薬		利尿薬について理解する				講義	桂木	
12	各論 7 抗凝固薬		抗凝固薬について理解する				講義	桂木	
13	各論 8 中枢神経作用薬		抗精神病薬・抗うつ薬などについて理解する				講義	桂木	
14	各論 9 ホルモン関連薬		各種ホルモンに対する薬物について理解する				講義	桂木	
15	1 学期 期末まとめ		8～14 回のまとめ				演習	桂木	
評価方法									
評価指標		中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		50	50	-	-	-	-	100	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院 ¥2,300								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	金曜日の 15:00～17:00								
履修上の 注意点	人体の生体機能が基本となるので、1 年次に学習した生理学を復習すること。								

科目名	一般臨床医学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位 (全 3 単位)	時間数	30 時間 (全 90 時間)	期間	2 学期
評価 担当	平早水 希			担当 教員	平早水 希				
科目 概要	<p>理学療法の対象は身体障害である。しかし、身体に障害を抱えている人は身体的苦痛と共に心の中にならりの問題を抱えている。それが悩みであったり、不安であったり、絶望であったりする。そのためには、身体的治療を行うと共に、これらの人々の心をよく理解しながら対応できるような構えをつくるのが重要となる。</p> <p>本講義では、臨床心理学の基礎から、心理療法・心理面接・セラピー・カウンセリング等の実践までを演習を交えながら解りやすく解説する。</p>								
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学とは何かを説明できる。</li> <li>2. 臨床心理学の歴史について説明できる。</li> <li>3. 各臨床心理学的援助について説明できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	臨床心理学とは (1)	導入					講義	平早水	
2	臨床心理学とは (2)	臨床心理学が目指すもの					講義	平早水	
3	臨床心理学の歴史	臨床心理学はどのように生まれた？					講義	平早水	
4	臨床心理学の理論	臨床心理学のさまざまな理論は何の役に立つ？					講義	平早水	
5	臨床心理学の援助対象①	神経症・うつ病・パーソナリティ障害・統合失調症					講義	平早水	
6	臨床心理学の援助対象②	発達障害・知的障害					講義	平早水	
7	2 学期 中間まとめ	1～6 回目のまとめ					演習	平早水	
8	アセスメント	人間の心を理解するとは？					講義	平早水	
9	心理療法の実際	臨床心理学的援助の実践					講義	平早水	
10	青年期までの発達	青年期までに生じる心理的問題・課題					講義	平早水	
11	成人期～老年期の発達	青年期以降に生じる心理的問題・課題					講義	平早水	
12	専門性と訓練	臨床心理学実践の専門家に必要なこと					講義	平早水	
13	社会のなかでの実践と連携	社会のなかでの仕事・役割・連携					講義	平早水	
14	2 学期 期末まとめ	8～13 回目のまとめ					演習	平早水	
15	研究	研究の必要性和内容					講義	平早水	
評価方法									
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	-	100	
教科書	臨床心理学 一番はじめに読む心理学の本 1 ミネルバ書房 ¥2,500								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	各講義の前後。								
履修上の 注意点	講義を集中して受講し、復習をしっかりと行うこと。								

科目名	一般臨床医学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	3年	分野	専門基礎	単位数	1単位 (全3単位)	時間数	30時間 (全90時間)	期間	1～2学期
評価担当	宇田津 明彦			担当 教員	宇田津 明彦				
科目概要	<p>近年、リハビリテーション領域において心疾患のリハビリテーションの需要は高まっている。現場で心疾患患者に対する理学療法を行ううえで、心電図を読み取る力は病態を把握するだけでなく、リスク管理を行ううえでも非常に重要となる。</p> <p>本科目では、対象者の状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践できることを目的に正常心電図の復習から始め、各心疾患の異常心電図を読み取る力を養う。</p>								
到達目標	<p>1. 正常心電図について理解できる。</p> <p>2. 各心疾患の病態と異常心電図を結び付けて理解できる。</p>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	心電図①	正常心電図、左軸、右軸、偏位等					講義	宇田津	
2	心電図②	時計方向回転、反時計方向回転、右胸心					講義	宇田津	
3	心電図③	早期再分極、非特異的 ST-T 変化、低電位差等					講義	宇田津	
4	心電図④	洞性不整脈、移動性ペースメーカー、異所性調律異常等					講義	宇田津	
5	心電図⑤	左房負荷、右房負荷、左室肥大、右室肥大、両室肥大等					講義	宇田津	
6	心電図⑥	完全右脚ブロック、完全左脚ブロック、左脚前枝ブロック等					講義	宇田津	
7	1学期 中間まとめ	1～7回のまとめ					演習	宇田津	
8	心電図⑦	左足後枝ブロック、2束ブロック、3束ブロック等					講義	宇田津	
9	心電図⑧	洞機能不全症候群、除脈頻脈症候群、1度房室ブロック等					講義	宇田津	
10	心電図⑨	Wenckebach型2度房室ブロック、MobitzⅡ型2度房室ブロック、2:1型房室ブロック等					講義	宇田津	
11	心電図⑩	高度房室ブロック、発作性房室ブロック、3度房室ブロック、等頻度性房室解離等					講義	宇田津	
12	心電図⑪	心室補充収縮、心停止、心房期外収縮、非伝導性の心房期外収縮等					講義	宇田津	
13	心電図⑫	変行伝導を伴う心房期外収縮、心室期外収縮、代償性間入性、2段脈、3段脈等					講義	宇田津	
14	1学期 期末まとめ	8～13回のまとめ					演習	宇田津	
15	心電図⑬	2連発ショートラン、RonT型、副収縮等					講義	宇田津	
16	心電図⑭	房室接合部調律、発作性心房細動、頻脈性心房細動等					講義	宇田津	
17	心電図⑮	変行伝導を伴う心房細動等各種心房細動					講義	宇田津	
18	心電図⑯	通常型心房細動等各種心房細動					講義	宇田津	
19	心電図⑰	異所性心房頻脈等					講義	宇田津	
20	心電図⑱	P波がQRS波の直後にあるタイプ、P波がQRS波					講義	宇田津	

		の前方にあるタイプ等					
21	心電図⑱	右脚ブロック、左脚ブロック等	講義	宇田津			
22	心電図⑳	多形性心室頻脈等	講義	宇田津			
23	心電図㉑	心室細動発症早期、晩期、心静止等	講義	宇田津			
24	心電図㉒	Brugada 症候群 coved 型、saddle back 型等	講義	宇田津			
25	心電図㉓	労作性狭心症、急性前壁中隔梗塞町急性期等	講義	宇田津			
26	心電図㉔	急性後壁梗塞、左冠動脈主幹部閉塞による急性心筋梗塞等	講義	宇田津			
27	心電図㉕	不整脈原性右室心筋症、たこつぼ型心筋症等	講義	宇田津			
28	心電図㉖	ジギタリス効果、高カリウム血症、低カリウム血症、高カルシウム血症、低カルシウム血症等	講義	宇田津			
29	2 学期 期末まとめ	15～28 回のまとめ	演習	宇田津			
30	心電図㉗	ペーシング不全、センシング不全、電極のつけ間違いなど	講義	宇田津			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	心電図チェックリスト 120 中外医学社 ¥5,800						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後に質問を受ける。						
<b>履修上の 注意点</b>	疾患を理解するうえで、心電図は重要な項目となる。ただ暗記するのではなく考え方を理解する必要がある。各講義後の復習を強く勧める。						

科目名	一般臨床医学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位 (全 3 単位)	時間数	30 時間 (全 90 時間)	期間	1～3 学期
評価 担当	坂 逸平			担当 教員	坂 逸平				
科目 概要	2・3 年次に履修した一般内科学及び神経疾患を中心に、代表疾患の概要を学び、様々な内部障害の所見と考えられる疾患を理解し、臨床で活かせるようその知識を再度整理することに重点を置く。								
到達 目標	1. 内科及び神経疾患の基礎的な知識（概念、原因、症状）を身に付ける。 2. 理学療法士の業務上必要な単元を念頭に置くべきところの臨床症状をつかみ、鑑別できるようにする。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	主要な疾患	総論				講義	坂		
2	主要な疾患	脳卒中				講義	坂		
3	主要な疾患	運動麻痺				講義	坂		
4	主要な疾患	意識障害 認知症				講義	坂		
5	主要な疾患	パーキンソン病				講義	坂		
6	主要な疾患	運動ニューロン疾患				講義	坂		
7	1 学期 期末まとめ	1～6 回まとめ				講義	坂		
8	主要な疾患	脊髄損傷				講義	坂		
9	主要な疾患	末梢神経障害				講義	坂		
10	主要な疾患	炎症性神経疾患				講義	坂		
11	主要な疾患	神経外傷 てんかん				講義	坂		
12	主要な疾患	めまい 頭痛				講義	坂		
13	主要な疾患	運動失調 不随意運動				講義	坂		
14	2 学期 中間まとめ	8～13 回まとめ				講義	坂		
15	主要な疾患	感染性神経疾患				講義	坂		
16	診察概論	診察の意義				講義	坂		
17	視診	視診の意義と方法				講義	坂		
18	視診	身体各部の視診				講義	坂		
19	打診・触診・生命徴候	打診と触診の意義と方法				講義	坂		
20	打診・触診・生命徴候	生命徴候				講義	坂		
21	感覚検査 反射検査	感覚検査の意義と方法				講義	坂		
22	2 学期 期末まとめ	15～21 回まとめ				講義	坂		
23	感覚検査 反射検査	反射検査の意義と種類				講義	坂		
24	代表的な臨床症状	発熱 出血傾向				講義	坂		
25	代表的な臨床症状	リンパ節腫脹 意識障害				講義	坂		

26	代表的な臨床症状	チアノーゼ 関節痛	講義	坂			
27	代表的な臨床症状	浮腫 肥満 やせ	講義	坂			
28	検査法	生命徴候の測定 生理機能検査 運動機能検査	講義	坂			
29	3学期 期末まとめ	23～28 回まとめ	講義	坂			
30	総合	総合まとめ	講義	坂			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	90	10	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	1. わかりやすい内科学 文光堂 ¥9,000 2. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院 ¥4,600 3. 神経内科学の講義がそのまま本になりました 医学教育出版社 ¥4,200						
<b>教材・参考図書</b>	必要に応じて授業内で紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは基本的に学生に配布しない。2・3年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を最低1時間ずつは行うこと。						

科目名	整形外科学					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	片伯部 裕次郎			担当教員	片伯部 裕次郎				
科目概要	<p>整形外科領域におけるリハビリテーションは、脳卒中リハビリテーションと並んで理学療法士にとって重要な領域であり、大きな役割を担っている。</p> <p>本講義では、整形外科学的診断学と治療法の基本から、理学療法士が関わることの多い疾患・外傷をメインにじっくりそしてわかりやすく紹介していく。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整形外科学的診断・治療について理解できる。</li> <li>2. 各疾患・外傷の成因・症状について理解できる。</li> <li>3. 各疾患・外傷の基本的治療について理解できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	整形外科学について	導入、歴史、リハビリテーションとの関わり合い				講義	片伯部		
2	整形外科学的診断学①	診察の基本、救急時の診察				講義	片伯部		
3	整形外科学的診断学②	検査法				講義	片伯部		
4	整形外科学的治療法①	保存療法				講義	片伯部		
5	整形外科学的治療法②	手術療法				講義	片伯部		
6	部位別の外傷と疾患①	軟部組織損傷①				講義	片伯部		
7	1 学期 中間まとめ	1～6 回目のまとめ				演習	片伯部		
8	部位別の外傷と疾患②	軟部組織損傷②				講義	片伯部		
9	部位別の外傷と疾患③	骨・関節の損傷総論				講義	片伯部		
10	部位別の外傷と疾患④	肩関節および上腕				講義	片伯部		
11	部位別の外傷と疾患⑤	肘関節および前腕				講義	片伯部		
12	部位別の外傷と疾患⑥	手関節と手指				講義	片伯部		
13	部位別の外傷と疾患⑦	股関節および大腿				講義	片伯部		
14	1 学期 期末まとめ	8～13 回のまとめ				演習	片伯部		
15	部位別の外傷と疾患⑧	膝関節および下腿				講義	片伯部		
16	部位別の外傷と疾患⑨	足関節と足部				講義	片伯部		
17	部位別の外傷と疾患⑩	脊椎・脊髄				講義	片伯部		
18	部位別の外傷と疾患⑪	骨盤				演習	片伯部		
19	全身性の疾患①	慢性関節疾患				講義	片伯部		
20	全身性の疾患	リウマチとその類縁疾患				講義	片伯部		
21	全身性の疾患	感染症、代謝・内分泌疾患				講義	片伯部		
22	2 学期 中間まとめ	15～21 回のまとめ				演習	片伯部		
23	全身性の疾患	骨・軟部腫瘍				講義	片伯部		
24	全身性の疾患	神経疾患・筋疾患				講義	片伯部		
25	全身性の疾患	骨系統疾患				講義	片伯部		

26	全身性の疾患	骨壊死性疾患および骨端症				講義	片伯部
27	全身性の疾患	四肢循環疾患				講義	片伯部
28	2学期 期末まとめ	23～27 回目のまとめ				演習	片伯部
29	全身性の疾患	四肢切断および四肢欠損				講義	片伯部
30	全身性の疾患	慢性疼痛疾患、スポーツ整形外科				講義	片伯部
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	整形外科学テキスト 南江堂 ¥5,300						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	理解するには解剖学、特に筋・骨格系の解剖学の知識が必要である。講義ごとに簡単にはおさらいをするが、講義前に予習をすること。また、復習もしっかり行うこと。						

科目名	神経内科学					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	宇田津 明彦			担当 教員	宇田津 明彦				
科目概要	<p>理学療法士は、主として QOL に何らかの支障をきたす方々を対象としている。本講義で取り上げる神経疾患は、この QOL を大きく損なう要因の 1 つとして推考できる。それゆえ理学療法士にとって神経疾患のリハビリテーションは、十分に理解する必要がある。</p> <p>ここでは、多種多様な運動障害を呈する神経疾患を 1 つ 1 つ丁寧に解説していく予定である。本講義を通して一人ひとりが、神経生理学の基礎から各神経疾患における特徴まで、ある程度深い知識を得られるように板書を中心に進めていく。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経生理学について理解できる。</li> <li>2. 各疾患の原因・病態(症状)について理解できる。</li> <li>3. 各疾患の基本的な検査・治療について理解できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	神経学①	神経とは (概論)				講義	宇田津		
2	神経学②	神経の種類				講義	宇田津		
3	神経学③	自律神経				講義	宇田津		
4	神経学④	神経障害				講義	宇田津		
5	神経学⑤	運動障害				講義	宇田津		
6	1 学期 中間まとめ	1～5 回目のまとめ				演習	宇田津		
7	神経学⑥	感覚障害				講義	宇田津		
8	運動の調節とその異常①	錐体外路とは				講義	宇田津		
9	運動の調節とその異常②	錐体外路の制御				講義	宇田津		
10	運動の調節とその異常③	運動調節障害のみかた				講義	宇田津		
11	末梢神経系	脳神経				講義	宇田津		
12	1 学期 期末まとめ	7～11 回のまとめ				演習	宇田津		
13	症候論①	意識障害、脳死など				講義	宇田津		
14	症候論②	頭蓋内圧亢進、けいれん、髄膜刺激症状				講義	宇田津		
15	検査	各種検査について				講義	宇田津		
16	疾患各論①	脳血管障害①				講義	宇田津		
17	疾患各論②	脳血管障害②				講義	宇田津		
18	2 学期 中間まとめ	13～17 回のまとめ				演習	宇田津		
19	疾患各論③	脳血管障害③				講義	宇田津		
20	疾患各論④	脳腫瘍				講義	宇田津		
21	疾患各論⑤	神経変性疾患①				講義	宇田津		
22	疾患各論⑥	神経変性疾患②				講義	宇田津		
23	疾患各論⑦	脱髄性中枢性疾患				講義	宇田津		
24	2 学期 期末まとめ	19～23 回目のまとめ				演習	宇田津		

25	疾患各論⑧	末梢神経障害①	講義	宇田津			
26	疾患各論⑨	末梢神経障害②	講義	宇田津			
27	疾患各論⑩	筋疾患①	講義	宇田津			
28	疾患各論⑪	筋疾患②	講義	宇田津			
29	疾患各論⑫	てんかん、頭痛、感染症	講義	宇田津			
30	3学期 期末まとめ	25～29 回目のまとめ	演習	宇田津			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合(%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	神経内科学の講義がそのまま本になりました 医学教育出版社 ¥4,200						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後。						
<b>履修上の 注意点</b>	理解しやすいよう授業を進める予定である。しっかりと復習を行うこと。						

科目名	精神医学					理学療法科 A 組			
学年	3 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位 (全 2 単位)	時間数	30 時間 (全 60 時間)	期間	1～3 学期
評価担当	仲濱 毅			担当教員	仲濱 毅				
科目概要	1. 精神の病気が時と状況によっては誰にでも生じるもので、決して特殊なものではないことを学ぶ。 2. 精神医学の特色と身体医学との比較で学び、精神障害に関する概念について学ぶ。 3. 理学療法を安全に実施するために、精神疾患の対象者の健康状態を理解する。								
到達目標	1. 精神障害の成因と分類、障害と症状について述べるができる。 2. 精神障害を呈する各疾患について特徴を述べるができる。 3. 現在の理学療法士の医療水準を踏まえて精神医学を理解する。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	精神医学とは	精神医学の定義・概念・歴史・学ぶ意義					講義	仲濱	
2	脳器質性精神障害 1	脳器質性精神障害の概念・認知症					講義	仲濱	
3	脳器質性精神障害 2	各原因疾患					講義	仲濱	
4	症状性精神障害 1	定義・主な疾患・リハビリテーションとの関連					講義	仲濱	
5	症状性精神障害 2	代謝及び栄養障害・高原病・内分泌障害					講義	仲濱	
6	精神作用物質による精神および行動の障害 1	定義・アルコール関連					講義	仲濱	
7	精神作用物質による精神および行動の障害 2	薬物依存・家族の問題・治療と回復					講義	仲濱	
8	1 学期 中間まとめ	1～7 回までのまとめ					演習	仲濱	
9	てんかん 1	定義・発作症状・精神症状					講義	仲濱	
10	てんかん 2	国際分類・代表的なてんかん・各てんかん					講義	仲濱	
11	てんかん 3	リハビリテーションとの関連					講義	仲濱	
12	統合失調症 1	定義・概要・疫学・特徴					講義	仲濱	
13	統合失調症 2	病型と基本症状・社会生活場面					講義	仲濱	
14	統合失調症 3	経過・予後・病態・治療・関連疾患					講義	仲濱	
15	気分感情障害 1	定義・うつ病・躁うつ病・持続性気分障害					講義	仲濱	
16	1 学期 期末まとめ	9～15 回までのまとめ					演習	仲濱	
17	気分感情障害 2	治療と援助・リハビリテーション					講義	仲濱	
18	神経症性障害 1	定義・神経症・強迫・ストレス・解離					講義	仲濱	
19	神経症性障害 2	身体表現性障害・類似疾患・治療					講義	仲濱	
20	生理的障害および身体的要因に関連した障害	生理的レベルと身体的レベルの障害・性関連					講義	仲濱	
21	パーソナリティの障害	人格・行動・性の障害					講義	仲濱	
22	精神遅滞	概要・定義・分類・各種疾患					講義	仲濱	
23	心理発達の障害 1	概要・特異的発達障害					講義	仲濱	
24	心理発達の障害 2	広汎性発達障害①					講義	仲濱	
25	心理発達の障害 3	広汎性発達障害②					講義	仲濱	

26	ライフサイクルにおける精神医学1	概要・小児期・青年期の精神医学	講義	仲濱			
27	ライフサイクルにおける精神医学2	成人期・老年期の精神医学	講義	仲濱			
28	リエゾ精神医学・心身医学	概要・心身症	講義	仲濱			
29	精神障害の治療とリハビリテーション	概要	講義	仲濱			
30	2学期 期末まとめ	17～29回までのまとめ	演習	仲濱			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院 ¥4,400						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	火曜日の14:00～15:00						
<b>履修上の 注意点</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学を身近な問題としてとらえ、主体的に学習すること。</li> <li>2. 事前に予習復習すること。</li> </ol>						

科目名	精神医学					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位 (全 2 単位)	時間数	30 時間 (全 60 時間)	期間	1～3 学期
評価担当	仲濱 毅			担当教員	仲濱 毅				
科目概要	1. 3 年次に履修した内容の再確認と理解を深める。 2. 代表的な精神疾患を広くとりあげて解説し治療の基本的な流れを理解することを目指す。 3. 理学療法を安全に実施するために、精神疾患の対象者の健康状態を理解する。								
到達目標	1. 代表的な精神疾患に対する様々な治療法を理解す。 2. 近年の医療技術者の医療水準を踏まえ、理学療法士の職域として必要な精神医学分野を理解習得する。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	精神医学とは	精神医学の定義・概念・歴史・学ぶ意義				講義	仲濱		
2	脳器質性精神障害 1	脳器質性精神障害の概念・認知症・各原因疾患				講義	仲濱		
3	脳器質性精神障害 2	各論（変性疾患・血管性・感染症・外傷・中毒・腫瘍・代謝障害）				講義	仲濱		
4	症状性精神障害 1	症状性精神障害の概念・基本症状				講義	仲濱		
5	症状性精神障害 2	各論（代謝及び栄養障害・高原病・内分泌障害）				講義	仲濱		
6	精神作用物質による精神および行動の障害 1	定義・概念・各論（アルコール）				講義	仲濱		
7	精神作用物質による精神および行動の障害 2	各論（薬物依存）・家族の問題・治療				講義	仲濱		
8	1 学期 期末まとめ	関連分野を含めたまとめ				講義	仲濱		
9	てんかん 1	定義・発作症状・精神症状				講義	仲濱		
10	てんかん 2	国際分類・代表的なてんかん				講義	仲濱		
11	てんかん 3	経過と予後・薬物治療				講義	仲濱		
12	統合失調症 1	定義・概要・疫学・特徴				講義	仲濱		
13	統合失調症 2	病型と基本症状・社会生活場面				講義	仲濱		
14	統合失調症 3	経過と予後、治療とリハビリテーション				講義	仲濱		
15	気分感情障害 1	定義・概念・主な病型				講義	仲濱		
16	2 学期 中間まとめ	統合失調症までの範囲で、関連分野を含めたまとめ				講義	仲濱		
17	気分感情障害 2	各論（うつ病・躁うつ病・持続性気分障害） 治療と援助・リハビリテーション				講義	仲濱		
18	神経症性障害 1	定義・概念・各論（神経症・強迫・ストレス）				講義	仲濱		
19	神経症性障害 2	各論（身体表現性障害・解離・その他の神経症性障害）・治療と援助				講義	仲濱		
20	生理的障害および身体的要因に関連した障害	生理的レベルと身体的レベルの障害・性関連				講義	仲濱		
21	パーソナリティの障害	人格・行動・性の障害				講義	仲濱		
22	精神遅滞	概要・定義・分類・各種疾患				講義	仲濱		
23	心理発達の障害 1	概要・特異的発達障害				講義	仲濱		

24	2学期 期末まとめ	気分障害から心理発達までのまとめ	講義	仲濱			
25	心理発達の障害2	広汎性発達障害	講義	仲濱			
26	ライフサイクルにおける精神医学1	概要・小児期・青年期の精神医学	講義	仲濱			
27	ライフサイクルにおける精神医学2	成人期・老年期の精神医学	講義	仲濱			
28	リエゾ精神医学・心身医学	概要・心身症	講義	仲濱			
29	精神障害の治療とリハビリテーション	精神障害とリハビリテーション・インフォームドコンセントの原則	講義	仲濱			
30	3学期 期末まとめ	関連分野を含めたまとめ	講義	仲濱			
<b>評価方法</b>							
	<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	合計
	<b>評価割合 (%)</b>	90	10	-	-	-	100
<b>教科書</b>	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院 ¥4,400						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	火曜日の14:00~15:00						
<b>履修上の 注意点</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学を身近な問題としてとらえ、主体的に学習すること。</li> <li>2. 3年次に履修した内容を復習し理解すること。</li> <li>3. 事前に予習復習すること。なお、上記の回数は補習も含む。</li> </ol>						

科目名	臨床運動学 I					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位 (全 2 単位)	時間数	30 単位 (全 60 時間)	期間	1・3 学期
評価担当	田原典嗣・田中和範			担当 教員	田原典嗣・田中和範				
科目概要	1 年次にも述べたが、徒手筋力検査は臨床実習においても学生が経験する頻度の高い項目であり、対象者の状態を統合、解釈する上で重要な情報の 1 つとなる。ここでは実践的技能の段階的習得における初期段階ととらえ筋の位置・走行や作用について、さらには適切かつ再現性のある検査を習得することを目的として学んでいく。2 年次では下肢および体幹について学んでいく。								
到達目標	1. 徒手筋力検査の目的・意義を理解する。 2. 筋の起始停止を理解し、触診できるようになる。 3. 各部位・運動方向（各筋）の徒手筋力検査が実施できる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	下肢の筋力テスト①	股関節屈曲・伸展					実技	田原・田中	
2	下肢の筋力テスト②	股関節外転・内転					実技	田原・田中	
3	下肢の筋力テスト③	股関節外旋・内旋					実技	田原・田中	
4	下肢の筋力テスト④	膝関節屈曲・伸展					実技	田原・田中	
5	下肢の筋力テスト⑤	足関節底屈・背屈・内がえし・外がえし					実技	田原・田中	
6	下肢の筋力テスト⑥	足指の屈曲・伸展					実技	田原・田中	
7	1 学期 中間まとめ	1～6 回目のまとめ					演習	田原・田中	
8	頸筋のテスト①	頸部伸展・複合伸展					実技	田原・田中	
9	頸筋のテスト②	頸部屈曲・複合屈曲					実技	田原・田中	
10	頸筋のテスト③	頸部回旋					実技	田原・田中	
11	体幹筋と骨盤底テスト①	体幹伸展・骨盤拳上					実技	田原・田中	
12	体幹筋と骨盤底テスト②	体幹屈曲・回旋					実技	田原・田中	
13	体幹筋と骨盤底テスト③	安静な吸気・強制呼気運動・骨盤底					実技	田原・田中	
14	下肢の筋力テスト⑦	下肢の筋力テスト①～⑥の確認					演習	田原・田中	
15	1 学期 期末まとめ	8～14 回目のまとめ					演習	田原・田中	
16	復習①	上肢帯					実技	田原・田中	
17	復習②	上肢					実技	田原・田中	
18	復習③	下肢					実技	田原・田中	
19	復習④	頸部					実技	田原・田中	
20	復習⑤	体幹					実技	田原・田中	
21	復習⑥	自由課題					実技	田原・田中	
22	復習⑦	自由課題					実技	田原・田中	
23	3 学期 期末まとめ	16～22 回目のまとめ					演習	田原・田中	
評価方法									
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	-	100	

教科書	新・徒手筋力検査法 協同医書 ¥7,500
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	火曜日の 14:00～17:00（その他は講義後に確認してください）
履修上の 注意点	<p>紙面上での理解ではなく積極的に実技を実施すること。また、筋の触診も実施するため、解剖学を十分に復習しておくこと。</p> <p>基本実習着にて実施するが、状況により半袖・半ズボンを使用することがあるので準備しておくこと。</p> <p>なお、上記の回数は補習も含む。</p>

科目名	臨床運動学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～3 学期
評価担当	藤井 和彦			担当 教員	藤井 和彦				
科目概要	理学療法の目的は基本的動作能力の回復である。対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するためには、運動学を身に付けることは必須となる。卒業し臨床に出るにあたり、理学療法を行ううえでまず必要な運動学を、1～3年次に学んだ順に再度知識を整理して習得する。基本的知識である運動学を、理学療法の専門的知識に結び付け、臨床での実践的技能に活かせることを目的とする。								
到達目標	1. 力学の基礎を理解し説明できる。 2. 人体の運動について理解し説明できる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	力学の基礎①	単位①				講義	藤井		
2	力学の基礎②	単位②				講義	藤井		
3	力学の基礎③	仕事・仕事率・力学的エネルギー				講義	藤井		
4	力学の基礎④	ベクトル（合成・分解）				講義	藤井		
5	力学の基礎⑤	てこ①				講義	藤井		
6	力学の基礎⑥	てこ②				講義	藤井		
7	力学の基礎⑦	モーメント①				講義	藤井		
8	力学の基礎⑧	モーメント②				講義	藤井		
9	力学の基礎⑨	モーメント③				講義	藤井		
10	関節学総論	関節の形状分類				講義	藤井		
11	筋学総論	筋収縮のメカニズム・筋収縮の様態				講義	藤井		
12	神経学総論	伸長反射・運動単位				講義	藤井		
13	四肢・体幹の運動①	上肢の運動①				講義	藤井		
14	四肢・体幹の運動②	上肢の運動②				講義	藤井		
15	四肢・体幹の運動③	上肢の運動③				講義	藤井		
16	四肢・体幹の運動④	下肢の運動①				講義	藤井		
17	四肢・体幹の運動⑤	下肢の運動②				講義	藤井		
18	四肢・体幹の運動⑥	頭部（顔面）の運動				講義	藤井		
19	四肢・体幹の運動⑦	頸部の運動				講義	藤井		
20	四肢・体幹の運動⑧	体幹の運動				講義	藤井		
21	四肢・体幹の運動⑨	呼吸運動				講義	藤井		
22	姿勢・歩行①	立位①				講義	藤井		
23	姿勢・歩行②	立位②				講義	藤井		
24	姿勢・歩行③	その他の姿勢				講義	藤井		

25	姿勢・歩行④	正常歩行①	講義	藤井			
26	姿勢・歩行⑤	正常歩行②	講義	藤井			
27	姿勢・歩行⑥	異常歩行①	講義	藤井			
28	姿勢・歩行⑦	異常歩行②	講義	藤井			
29	復習①	総復習	講義	藤井			
30	復習②	総復習	講義	藤井			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
<b>評価割合(%)</b>	90	10	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	基礎運動学 医歯薬出版 ¥6,800						
<b>教材・参考図書</b>	その他適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	木曜日の 10:35~12:05						
<b>履修上の 注意点</b>	教科書上だけでなく身体イメージをつけ、模倣など行い他者に説明できるように復習すること。						

科目名	理学療法評価学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	3 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	山本 拓史			担当教員	山本 拓史				
科目概要	<p>本講義は、脊髄の解剖から知識を深化させていき、脊髄損傷の理解と理学療法士としての介入について学ぶ。その後は臨床実習を想定した内容が中心となっており、臨床実習の意義から実習の流れなどを理解していき、実習において想像力を十分に働かせて、「この場面において私はどのように対応したらよいのか」といった問いを常に念頭に置きながら、対象者の心身状況に合わせた適切な対応ができるよう実習に取り組めるベースを作っていく。</p> <p>ここでの授業を通して、理論と実際を相互に関連させ、互いの齟齬を意識しながら知識に裏打ちされた技能の習得を目指していく。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脊髄の解剖と機能を理解する。</li> <li>2. 脊髄損傷患者の合併症を理解する。</li> <li>3. 損傷高位ごとの到達目標を理解する。</li> <li>4. 実習について学ぶ。</li> <li>5. 実習に必要な PC 技術を身に付ける。</li> <li>6. 実習に必要な知識・技術を身に付ける。</li> <li>7. レポート作成ができる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	脊髄の解剖①	脊髄と脊髄節				講義	山本		
2	脊髄の解剖②	脊髄損傷の原因・死亡率と死因				講義	山本		
3	理学療法評価①	障害評価と評価とは				講義	山本		
4	理学療法評価②	情報収集と評価項目				講義	山本		
5	理学療法評価③	高位診断と高位診断の臨床応用				講義	山本		
6	理学療法評価④	脊髄不全損傷の特殊型と脊髄完全損傷				講義	山本		
7	理学療法評価⑤	自律神経障害(自律神経過反射・体温調節障害)				講義	山本		
8	理学療法評価⑥	自律神経障害(血管運動神経障害・異所性骨化)				講義	山本		
9	理学療法評価⑦	痙性麻痺(痙性の評価と治療)				講義	山本		
10	理学療法評価⑧	褥瘡(要因・感染・好発部位・評価と予防)				講義	山本		
11	理学療法評価⑨	座位バランス評価				講義	山本		
12	車いす処方とチェック・ポイント	処方基準と脊損レベル別の特徴				講義	山本		
13	脊髄損傷の理学療法	肺理学療法と排尿・尿路障害の理学療法				講義	山本		
14	1 学期 期末まとめ	1～13 回のまとめ				演習	山本		
15	総括	脊髄損傷の理学療法				演習	山本		
16	実習の手引き 1	実習についての確認①				講義	山本		
17	実習の手引き 2	実習についての確認②				講義	山本		
18	書類作成	プロフィール作成				講義	山本		
19	PC 操作	表作成、段組み、表紙作成等				講義	山本		
20	実技訓練 1	ROM 検査				実技	山本		

21	実技訓練 2	MMT	実技	山本			
22	2 学期 中間のまとめ	16～21 回のまとめ	演習	山本			
23	実技訓練 3	神経学的検査・整形外科学検査	実技	山本			
24	レポート作成 1	PC 技術を応用してレポート作成①	演習	山本			
25	レポート作成 2	PC 技術を応用してレポート作成②	演習	山本			
26	グループディスカッション 1	各種症例について①	演習	山本			
27	グループディスカッション 2	各種症例について②	演習	山本			
28	実習についての総括 1	手引き確認、書類確認①	講義	山本			
29	2 学期 期末まとめ	8～13 回までのまとめ	演習	山本			
30	実習についての総括 2	手引き確認、書類確認②	講義	山本			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	1. PT マニュアル 脊髄損傷の理学療法 医歯薬出版 ¥4,400 2. 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 医学書院 ¥5,800						
<b>教材・参考図書</b>	その他適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	各講義の前後に質問を受ける。						
<b>履修上の 注意点</b>	1. 生理学の知識をもとに脊髄損傷について学習していくため、十分に予習をすること。 2. 実習に対する準備期間の中で、必要な知識や技術を自分で見つけ積極的に学んぶこと。						
<b>担当教員の 実務経験</b>	12 年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、基本的な理学療法評価に精通している。						

科目名	理学療法評価学Ⅲ					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	0 単位 (全 2 単位)	時間数	15 時間 (全 60 時間)	期間	3 学期
評価担当	田中 和範、森垣 浩一			担当 教員	田中 和範、森垣 浩一				
科目概要	<p>対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するためには、まず対象者の身体の状態や動作能力、社会的背景などを知らなければ、適切な理学療法を行えない。本講義は、3 年次に予定している検査測定・評価実習に対応するための神経学的検査および整形外科的検査を教授する。</p> <p>理学療法の専門的知識を実践的技能に結びつけるためには、深い洞察力と失敗を恐れない行動力を必須とする。ここでは、学生同士が実習形式で各テーマを実践し、知識の再確認をしながら各検査項目の技術の習得を目指す予定である。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種神経学的検査を適切に実践できる。</li> <li>2. 各種整形外科的検査を適切に実践できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	神経学的検査 1	反射					実技	田中・森垣	
2	神経学的検査 2	感覚検査 (表在)					実技	田中・森垣	
3	神経学的検査 3	感覚検査 (深部)					実技	田中・森垣	
4	神経学的検査 4	ブルンストロームステージ					実技	田中・森垣	
5	神経学的検査 5	自由課題					実技	田中・森垣	
6	整形外科的検査 1	上肢・下肢					実技	田中・森垣	
7	整形外科的検査 2	頸部・体幹					実技	田中・森垣	
8	3 学期 期末まとめ	1～7 回目のまとめ					演習	田中・森垣	
評価方法									
評価指標	期末試験	レポート	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	70	30	-	-	-	-	-	100	
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	月曜日の 14:00～16:00								
履修上の 注意点	さまざまな体型の人に実施できるよう練習すること。								

科目名	理学療法評価学Ⅲ					理学療法科 A 組			
学年	3年	分野	専門	単位数	1単位 (全2単位)	時間数	15時間 (全60時間)	期間	1学期
評価担当	田中 和範、森垣 浩一			担当教員	田中 和範、森垣 浩一				
科目概要	<p>対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するためには、まず対象者の身体の状態や動作能力、社会的背景などを知らなければ、適切な理学療法を行えない。2 学期に始まる検査測定・評価実習、また進級実力審査①に対応するため MMT の復習を学生同士実技形式で行い、理学療法上の専門的知識や実践の技能の習得を目指す。</p> <p>各種疾患やその疾患から考えられ得る情報を分析して問題点を追及していく理学療法過程を理解する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進級実力①までの期間において MMT の復習を行い、実践できる。</li> <li>2. 各種検査測定を適切に実践できる。</li> <li>3. 各疾患に必要な評価項目を適切に選択し実践できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	MMT1	上肢の筋力テスト①				実技	田中・森垣		
2	MMT2	上肢の筋力テスト②				実技	田中・森垣		
3	MMT3	下肢の筋力テスト①				実技	田中・森垣		
4	MMT4	下肢の筋力テスト②				実技	田中・森垣		
5	MMT5	体幹筋と骨盤底テスト				実技	田中・森垣		
6	MMT6	頸筋のテスト				実技	田中・森垣		
7	中間まとめ	1～6 回目のまとめ				演習	田中・森垣		
8	疾患別評価法 1	中枢神経障害（脳血管障害）の評価				実技	田中・森垣		
9	疾患別評価法	中枢神経障害（脳性麻痺・失調症）の評価				実技	田中・森垣		
10	疾患別評価法	中枢神経障害（神経筋疾患）の評価				実技	田中・森垣		
11	疾患別評価法	中枢神経障害（脊髄損傷）の評価				実技	田中・森垣		
12	疾患別評価法	骨関節系障害（骨関節疾患）の評価				実技	田中・森垣		
13	1 学期 期末まとめ	7～12 回目のまとめ				演習	田中・森垣		
14	疾患別評価法	骨関節系障害（腰痛症・関節リウマチ）の評価				実技	田中・森垣		
15	疾患別評価法	骨関節系障害（頷肩腕症候群等）の評価				実技	田中・森垣		
評価方法									
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計		
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500</li> <li>2. 新・徒手筋力検査法 協同医書 ¥7,500</li> </ol>								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	月曜日の 14:00～16:00								
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義は教科書と実技を主体とし、追加資料やレジュメは学生に配布しない。</li> <li>2. MMT は 2 年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を行うこと。</li> <li>3. 疾患別の評価については、各講義後の復習を行うこと。</li> </ol> <p>なお、上記の回数は補習も含む。</p>								

科目名	理学療法評価学Ⅲ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門	単位数	1 単位 (全 2 単位)	時間数	30 時間 (全 60 時間)	期間	1～3 学期
評価 担当	中村 正恵			担当 教員	中村 正恵				
科目 概要	<p>評価学の集大成と言った位置づけで、本講義は進めていく。 再検討する内容は、多様化する臨床像への対策として十分な知識を得ることができるよう、各人が復習を 丹念に実施するよう心掛けていただきたい。</p>								
到達 目標	各人が、各疾患別の臨床像を想定した評価の在り方を再考し体得する。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	徒手筋力テストの実際 その 1	上肢の MMT の実際					講義	中村	
2	徒手筋力テストの実際 その 2	下肢の MMT の実際					講義	中村	
3	徒手筋力テストの実際 その 3	代償運動を考える					講義	中村	
4	関節可動域測定法の実際 その 1	上肢の ROM の実際 1					講義	中村	
5	関節可動域測定法の実際 その 2	上肢の ROM の実際 2					講義	中村	
6	関節可動域測定法の実際 その 3	下肢の ROM の実際					講義	中村	
7	形態測定	四肢長・周径の実際					講義	中村	
8	感覚検査	感覚検査の実際					講義	中村	
9	反射・反応	腱反射及び病的反射と理学療法の相互関係					講義	中村	
10	Brunnstrom 法 1	理学療法の中の Brunnstrom 法 その 1					講義	中村	
11	Brunnstrom 法 2	理学療法の中の Brunnstrom 法 その 2					講義	中村	
12	協調性検査	運動失調をめぐる評価の在り方					講義	中村	
13	認知症検査	理学療法遂行上の認知症検査 (HDS-R) の在り方					講義	中村	
14	粗大運動能力分類システ ム その 1	総論					講義	中村	
15	粗大運動能力分類システ ム その 1	年齢区分別の特徴 2 歳まで及び 2 歳～4 歳まで					講義	中村	
16	粗大運動能力分類システ ム その 1	年齢区分別の特徴 4 歳～6 歳まで及び 6 歳～12 歳 まで					講義	中村	
17	粗大運動能力分類システ ム その 1	年齢区分別の特徴 12 歳～18 歳まで					講義	中村	
18	呼吸機能検査	肺音聴診、スパイロメータの実際					講義	中村	
19	神経筋疾患	運動神経伝導速度の測定の実際					講義	中村	
20	発達障害の評価 その 1	遠城寺式乳幼児分析的発達検査の実際					講義	中村	
21	発達障害の評価 その 2	改訂日本版デンバー式発達クリーニング検査の実際					講義	中村	

22	バイタルチェック	リスク管理とバイタルチェック	講義	中村			
23	整形外科検査法 その1	各検査法の特徴1	講義	中村			
24	整形外科検査法 その2	各検査法の特徴2	講義	中村			
25	整形外科検査法 その3	各検査法の特徴3	講義	中村			
26	理学療法評価と研究法 その1	オッズ比を理解する。	講義	中村			
27	理学療法評価と研究法 その2	前方研究及び広報研究を理解する。	講義	中村			
28	理学療法評価と研究法 その3	感度と特異度を理解する。	講義	中村			
29	理学療法評価と研究法 その4	コホート研究とケースコントロール研究を理解する。	講義	中村			
30	まとめ		講義	中村			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	90	10	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	1. 理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500 2. 新・徒手筋力検査法 協同医書 ¥7,500						
<b>教材・参考図書</b>	適宜資料を配布する。						
<b>オフィスアワー</b>	月曜から金曜日までの毎夕 (16時~18時)						
<b>履修上の 注意点</b>	評価をめぐる理論と実際の齟齬を考えること。						

科目名	運動療法学 I					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	坂口 文宏			担当教員	坂口 文宏				
科目概要	<p>運動療法とは、治療の手段として用いる運動のことを意味する。運動療法は理学療法の中核であり、近年その対象範囲は拡大傾向にある。この科目は運動療法学の総論と位置付け、対象者の健康状態に応じた、科学的根拠に基づいた運動療法を、基本的な専門的知識の理解と実践的技能を段階的に養うことを目的とし、障害と運動療法との関係について学習していく。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種運動療法について、歴史、定義を説明できる。</li> <li>2. 各種運動療法について、目的、対象を説明できる。</li> <li>3. 各種運動療法について、その方法を説明かつ実施できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	運動療法の概観	歴史、概念（定義）、位置付け					講義	坂口	
2	運動療法の基礎（1）	結合組織、関節、骨格筋、神経系の構造と機能					講義	坂口	
3	運動療法の基礎（2）	組織の修復および再生と機序					講義	坂口	
4	基本的運動	分類（力源、筋収縮状態、筋弛緩状態）					講義	坂口	
5	運動療法機器	機器の基本的考え方、目的、種類					講義	坂口	
6	関節可動域運動（1）	総論、目的、種類					講義	坂口	
7	関節可動域運動（2）	制限因子、関節の遊び、凹凸の法則					講義	坂口	
8	1 学期 中間まとめ	1～7 回目のまとめ					演習	坂口	
9	関節可動域運動（3）	関節モビライゼーション					講義	坂口	
10	関節可動域運動（4）	関節可動域運動の実際と注意点（上肢）					実技	坂口	
11	関節可動域運動（5）	関節可動域運動の実際と注意点（下肢・体幹）					実技	坂口	
12	筋力維持増強運動（1）	目的、適応、エネルギー供給機構					講義	坂口	
13	筋力維持増強運動（2）	筋力に影響する因子、一般的原則					講義	坂口	
14	筋力維持増強運動（3）	強度、持続時間、頻度、期間、種類					講義	坂口	
15	1 学期 期末まとめ	9～14 回目のまとめ					演習	坂口	
16	筋力維持増強運動（4）	筋力維持増強運動の実際と注意点					実技	坂口	
17	持久力増強運動（1）	筋持久力、全身持久力、無酸素性作業閾値					講義	坂口	
18	持久力増強運動（2）	評価、運動処方					講義	坂口	
19	協調性回復運動（1）	運動の協調性、障害、目的、原則					講義	坂口	
20	協調性回復運動（2）	フレンケル体操、重り負荷、					講義	坂口	
21	協調性回復運動（3）	弾性緊縛帯、運動学習					講義	坂口	
22	全身調整運動	コンディショニング、目的、方法					講義	坂口	
23	2 学期 中間まとめ	16～22 回目のまとめ					演習	坂口	
24	リラクゼーション運動（1）	ストレス、分類、目的、方法					講義	坂口	

25	リラクゼーション運動 (2)	Jacobson の筋弛緩運動、スリングセラピー	講義	坂口			
26	神経筋再教育	神経筋再教育とは、原理、方法、基本条件	講義	坂口			
27	神経生理学的アプローチ (1)	基本概念、生理学的基礎、	講義	坂口			
28	神経生理学的アプローチ (2)	諸家の紹介と理論①	講義	坂口			
29	神経生理学的アプローチ (3)	諸家の紹介と理論②	講義	坂口			
30	2 学期 期末まとめ	24～29 回目のまとめ	演習	坂口			
<b>評価方法</b>							
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	理学療法テキストⅢ 運動療法Ⅰ 神陵文庫 ¥4,500						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	水・金曜日の 14:00～17:00 (その他は講義後に確認してください)						
履修上の 注意点	運動療法学は理学療法士の臨床活動の核ともいえる科目である。この講義では運動療法に必要な基礎知識を確認しながら、伝統的運動療法の理解から近代の動向を含めた内容とする。 講義の円滑な理解のため、予習・復習することを強くお勧めする。						
担当教員の 実務経験	20 年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、運動療法学に精通している。						

科目名	運動療法学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	0 単位 (全 2 単位)	時間数	8 時間 (全 60 時間)	期間	3 学期
評価 担当	仲濱 毅、中村 正恵			担当 教員	仲濱 毅、中村 正恵				
科目 概要	ここでは、関節可動域運動の基本となる各筋個別のストレッチを習得する。安全かつ確実な理学療法が実践できるための技能を獲得することを目的に、エンドフィール（終末感）や筋の走行、肢体の操作手技など基本的知識や技能を学んでいく。								
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各筋の走行をイメージできる。</li> <li>2. 各筋に適切なストレッチを行うことができる。</li> <li>3. ストレッチに必要な生理学的知識が理解できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	ストレッチング概論	ストレッチングの種類・対象・効果					講義	仲濱・中村	
2	ストレッチのための基礎知識	ストレッチングのための解剖と整理					講義	仲濱・中村	
3	ストレッチの実際 その1	頸部のストレッチング					実技	仲濱・中村	
4	ストレッチの実際 その2	体幹のストレッチング					実技	仲濱・中村	
5	ストレッチの実際 その3	上肢のストレッチング					実技	仲濱・中村	
6	ストレッチの実際 その4	下肢のストレッチング					実技	仲濱・中村	
7	ストレッチの実際 その5	症例を想定した介入方法の検討					実技	仲濱・中村	
8	期末まとめ	1～7回のまとめ					演習	仲濱・中村	
<b>評価方法</b>									
評価指標		期末試験	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		70	30	-	-	-	-	100	
教科書	適宜資料を配布する。								
教材・参考図書	適宜資料を配布する。								
オフィスアワー	火曜日の 14 時～15 時（その他は講義後に確認してください）								
履修上の 注意点	解剖学的知識および生理学的知識に基づいて手技を展開していくので予習及び復習を行うこと。実際の筋の走行がイメージしやすいようにできるだけ実技しやすい服装を準備すること。								
担当教員の 実務経験	担当の仲濱毅は約 14 年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、運動療法学に精通している。								

科目名	運動療法学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	3年	分野	専門	単位数	2単位 (全2単位)	時間数	52時間 (全60時間)	期間	1～2学期
評価担当	大塚 和宏、仲濱 毅			担当教員	大塚 和宏、仲濱 毅				
科目概要	<p>理学療法の中核を担うものとして運動療法と物理療法があり、基本動作能力の獲得においては理学療法において重要な位置づけにある。解剖学、生理学、運動学といった基礎医学と臨床医学を基に確立されてきた治療技術であり、様々な疾患に適した治療が行えるようになる必要がある。</p> <p>運動療法学Ⅱでは、運動療法Ⅰの発展として、科学的根拠に基づいた理学療法が実践できるように必要な病態及び障害の構造を理解し、対象者の状態を統合・解釈する認知スキルや実践的技能の獲得を目的とする。</p>								
到達目標	<p>1. 運動療法Ⅰの発展として、疾患別、障害別の病態を知り、各病態に適した運動療法を理解する。</p> <p>2. 中枢神経疾患、神経筋疾患、骨関節疾患、代謝性疾患、切断、熱傷、小児、老年期の運動療法を実技も交えて理解する。</p>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	整形外科疾患 (1)	整形外科的検査 1				実技	大塚		
2	整形外科疾患 (2)	整形外科的検査 2				実技	大塚		
3	整形外科疾患 (3)	整形外科的検査 3				実技	大塚		
4	整形外科疾患 (4)	整形外科的検査 4				実技	大塚		
5	整形外科疾患 (5)	整形外科的検査 5				実技	大塚		
6	整形外科疾患 (6)	整形外科的検査 6				実技	大塚		
7	1学期 中間まとめ	1～6回のまとめ				演習	大塚		
8	整形外科疾患 (7)	整形外科的検査 7				実技	大塚		
9	整形外科疾患 (8)	整形外科的検査 8				実技	大塚		
10	骨関節疾患の運動療法 (1)	骨折・脱臼について概念と特徴の理解				講義	大塚		
11	骨関節疾患の運動療法 (2)	骨折・脱臼についての運動療法の実際				講義	大塚		
12	骨関節疾患の運動療法 (3)	膝の靭帯・半月板損傷の概念と特徴の理解				講義	大塚		
13	1学期 期末まとめ	8～12回のまとめ				演習	大塚		
14	骨関節疾患の運動療法 (4)	膝の靭帯・半月板損傷の運動療法の実際				講義	仲濱		
15	骨関節疾患の運動療法 (5)	腓骨断裂の概念と特徴の理解				講義	仲濱		
16	骨関節疾患の運動療法 (6)	腓骨断裂の運動療法の実際				講義	仲濱		
17	骨関節疾患の運動療法 (7)	アキレス腱断裂の概念と特徴の理解及び運動療法の実際				講義	仲濱		
18	骨関節疾患の運動療法 (8)	変形性股関節症と人工股関節置換術の理解及び運動療法の実際				講義	仲濱		
19	骨関節疾患の運動療法 (9)	変形性膝関節症と人工膝関節置換術の理解及び運動療法の実際				講義	仲濱		
20	骨関節疾患の運動療法 (10)	変形性脊椎症及び側弯症の理解及び運動療法の実際				講義	仲濱		
21	骨関節疾患の運動療法 (11)	関節リウマチの概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	仲濱		
22	神経疾患の運動療法 (1)	パーキンソン病の概念と病態の理解及び運動療法				講義	仲濱		

		の実際					
23	神経疾患の運動療法 (2)	脊髄小脳変性症の概念と病態の理解及び運動療法の実際	講義	仲濱			
24	神経疾患の運動療法 (3)	筋萎縮性側索硬化症の概念と病態の理解及び運動療法の実際	講義	仲濱			
25	神経疾患の運動療法 (4)	多発性硬化症の概念と病態の理解及び運動療法の実際	講義	仲濱			
26	神経疾患の運動療法 (5)	ギラン・バレーの概念と病態の理解及び運動療法の実際	講義	仲濱			
27	神経疾患の運動療法 (6)	筋ジストロフィーの概念と病態の理解及び運動療法の実際	講義	仲濱			
28	統合と解釈 (1)	各種疾患とそのプログラム立案	講義	仲濱			
29	2学期 期末まとめ	14～28回のまとめ	演習	仲濱			
30	統合と解釈 (2)	プログラム実施と考察	講義	仲濱			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
教科書	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 医学書院 ¥5,800						
教材・参考図書	適時紹介する。						
オフィスアワー	火曜日の14時～15時（その他は講義後に確認してください）						
履修上の 注意点	講義に際しては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。疾患の病態理解は事前に準備して理解する。実技に関しては、授業以外の時間でも復習と予習を行う。なお、上記の回数は補習も含む。						
担当教員の 実務経験	担当の仲濱毅は約14年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、運動療法学に精通している。						

科目名	運動療法学Ⅲ						理学療法科 A 組		
学年	4 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	第 1～3 学期
評価 担当	中村 正恵			担当 教員	中村 正恵				
科目 概要	運動療法の総仕上げとして、運動療法の基本から総復習をするとともに、卒業し臨床現場で各疾患に対して科学的根拠に基づいた理学療法が確実に実践できるよう、特に神経筋疾患を中心に学習する。同時に、基礎のみならず専門的知識の定着化を図る。								
到達 目標	1. 基本的運動療法の目的・対象・注意点を説明できる。 2. 各種神経筋疾患の病態・特徴・障害を説明できる。 3. 各種神経筋疾患に対する適切な運動療法を説明できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	関節可動域運動 (1)		関節可動域運動の実際と注意点 (上肢)				講義	中村	
2	関節可動域運動 (2)		関節可動域運動の実際と注意点 (下肢・体幹)				講義	中村	
3	筋力維持増強運動 (1)		筋力に影響する因子、一般的原則				講義	中村	
4	筋力維持増強運動 (2)		強度、持続時間、頻度、期間、種類				講義	中村	
5	持久力増強運動 (1)		筋持久力、全身持久力、無酸素性作業閾値				講義	中村	
6	持久力増強運動 (2)		評価、運動処方				講義	中村	
7	協調性回復運動 (1)		フレンケル体操、重り負荷、				講義	中村	
8	協調性回復運動 (2)		弾性緊縛帯、運動学習				講義	中村	
9	全身調整運動		コンディショニング、目的、方法				講義	中村	
10	神経筋再教育		神経筋再教育とは、原理、方法、基本条件				講義	中村	
11	神経生理学的アプローチ		基本概念、生理学的基礎、				講義	中村	
12	神経筋疾患の運動療法 (1)		パーキンソン病の概念と特徴				講義	中村	
13	神経筋疾患の運動療法 (2)		パーキンソン病の運動療法の実際				講義	中村	
14	神経筋疾患の運動療法 (3)		脊髄小脳変性症の概念と病態				講義	中村	
15	神経筋疾患の運動療法 (4)		脊髄小脳変性症の運動療法の実際				講義	中村	
16	神経筋疾患の運動療法 (5)		筋萎縮性側索硬化症の概念と病態				講義	中村	
17	神経筋疾患の運動療法 (6)		筋萎縮性側索硬化症の運動療法の実際				講義	中村	
18	神経筋疾患の運動療法 (7)		多発性硬化症の概念と病態				講義	中村	
19	神経筋疾患の運動療法 (8)		多発性硬化症の運動療法の実際				講義	中村	
20	神経筋疾患の運動療法 (9)		ギラン・バレー症候群の概念と病態				講義	中村	
21	神経筋疾患の運動療法 (10)		ギラン・バレー症候群の運動療法の実際				講義	中村	
22	神経筋疾患の運動療法 (11)		筋ジストロフィーの概念と病態				講義	中村	
23	神経筋疾患の運動療法 (12)		筋ジストロフィーの運動療法の実際				講義	中村	
24	神経筋疾患の運動療法 (13)		多発神経炎 (ポリニューロパチー) の概念と病態				講義	中村	
25	神経筋疾患の運動療法 (14)		多発神経炎 (ポリニューロパチー) の運動療法				講義	中村	
26	高齢者の運動療法 (1)		高齢者の概念と特徴の理解				講義	中村	

27	高齢者の運動療法 (2)	高齢者の運動療法の実際				講義	中村
28	総復習 (1)	復習				講義	中村
29	総復習 (2)	復習				講義	中村
30	総復習 (3)	復習				講義	中村
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	90	10	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 医学書院 ¥5,800						
<b>教材・参考図書</b>	1. 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 医学書院 ¥5,800 2. 理学療法テキストⅢ 運動療法Ⅰ 神陵文庫 ¥4,500						
<b>オフィスアワー</b>	火曜日の 14 時～15 時 (その他は講義後に確認すること)						
<b>履修上の 注意点</b>	1. 授業は授業以外の時間でも復習と予習をしておくこと。						

科目名	物理療法学						理学療法科 A 組		
学年	2 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～3 学期
評価担当	山本 拓史			担当 教員	山本 拓史				
科目概要	<p>我が国における物理療法の位置づけは「理学療法士法及び作業療法士法」の中にある定義として「主としてその基本動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行わせ、電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えることをいう」と明記されているように、理学療法の治療過程の中では運動療法と同様、物理療法も大きな中核を担っている。</p> <p>熱、電気、光などの物理的エネルギーを人体に用いて効果を得る治療法であり、機器を用いて鎮痛、身体的、精神的リラクゼーション、循環の改善などが目的としている。各種物理療法機器の種類を学び、実際に起こる生体への影響を知った上で、対象者の状態に応じた正しい機器の使用方法やリスク管理について講義や実技を通して理解する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法において物理療法の位置づけと意義を理解する。</li> <li>2. 各種物理療法機器の原理と生体への影響を理解する。</li> <li>3. 各種疾患に対して、適切な物理療法機器が選択でき、正しい使用ができるようになる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	オリエンテーション 各種機器の紹介	物理療法の定義、意義、各種物理療法機器の紹介					講義	山本	
2	炎症・浮腫・疼痛 (1)	グループワーク：炎症・浮腫・疼痛の定義・機序について討論					講義	山本	
3	炎症・浮腫・疼痛 (2)	グループワーク：発表ならびに質疑応答、解説					講義	山本	
4	温熱療法総論	熱生理学 温熱療法の定義・分類・基礎及び生理学的作用					講義	山本	
5	温熱療法各論	ホットパック、パラフィンの適応・禁忌・生理学的作用					講義	山本	
6	温熱療法実技	温熱療法各種機器の説明、実技指導					実技	山本	
7	1 学期 中間まとめ	1～6 回のまとめ					演習	山本	
8	寒冷療法総論	熱生理学 寒冷療法の定義・分類・基礎及び生理学的作用					講義	山本	
9	寒冷療法各論	クリッカー、アイスパック、アイスマッサージの適応・禁忌・生理学的作用					講義	山本	
10	水治療法総論	水治療法の基礎、生理学的作用					講義	山本	
11	水治療法各論	水治療法 交代浴、過流浴の適応・禁忌・生理学的作用					講義	山本	
12	水治療法実技	水治療法 機器の説明、実技指導					実技	山本	
13	1 学期 期末まとめ	8～12 回のまとめ					演習	山本	
14	牽引療法	頸椎・腰椎牽引の基礎の適応・禁忌・生理学的作用					講義	山本	
15	牽引療法の実技	頸椎・腰椎牽引 説明、実技指導					実技	山本	
16	電機療法総論	電機療法の基礎、身体に及ぼす影響についての説明					講義	山本	
17	電機療法各論 (1)	低周波、干渉波の適応・禁忌・生理学的作用					講義	山本	
18	電機療法各論 (2)	FES、TES、TENS の違い					講義	山本	

19	電機療法各論 (3)	電気診断および筋電図バイオフィードバックについて	講義	山本			
20	電機療法実技 (1)	各種機器に関する使用方法、適応疾患や禁忌の確認	実技	山本			
21	電機療法実技 (2)	各種機器に関する使用方法、適応疾患や禁忌の確認	実技	山本			
22	光線療法総論	光線療法の基礎、身体に及ぼす影響についての説明	講義	山本			
23	光線療法各論 (1)	紫外線と赤外線の基本、適応・禁忌・生理学的作用	講義	山本			
24	光線療法各論 (2)	極超短波の基本、適応・禁忌・生理学的作用	講義	山本			
25	光線療法各論 (3)	レーザーの基本、適応・禁忌・生理学的作用	実技	山本			
26	光線療法実技	各種機器に関する使用方法、適応疾患や禁忌の確認	実技	山本			
27	マッサージ療法	軽擦法、柔捏法、叩打法の方法の理解	実技	山本			
28	2 学期 期末まとめ	14～27 回のまとめ	演習	山本			
29	リスク管理	医療安全についての理解及び医療事故の事例を提示しての説明	講義	山本			
30	症例別理学療法	各疾患に対する物理療法プログラムの選択、実施	講義	山本			
31	復習 (1)	各班に分かれて実技演習	実技	山本			
32	復習 (2)	各班に分かれて実技演習	実技	山本			
33	復習 (3)	各班に分かれて実技演習	実技	山本			
34	復習 (4)	各班に分かれて実技演習	実技	山本			
35	復習 (5)	各班に分かれて実技演習	実技	山本			
36	復習 (6)	各班に分かれて実技演習	実技	山本			
37	復習 (7)	各班に分かれて実技演習	実技	山本			
38	3 学期 期末まとめ	31～37 回のまとめ	演習	山本			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	標準理学療法学 専門分野 物理療法学 医学書院 ¥4,700						
<b>教材・参考図書</b>	生理学テキスト 文光堂 ¥4,800						
<b>オフィスアワー</b>	火曜日の 14 時～15 時 (その他は講義後に確認してください)						
<b>履修上の注意点</b>	<p>講義に際しては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。各物理療法が引き起こす身体への影響については事前に生理学を学習しておくこと。</p> <p>実技に関しては事前に機器に関する知識や方法についてイメージを常に持って集中して臨むこと。なお、上記の回数は補講も含む。</p>						
<b>担当教員の実務経験</b>	12 年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、物理療法全般に精通している。						

科目名	日常生活活動学 I					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	深堀 辰彦			担当教員	深堀 辰彦				
科目概要	<p>人の生活は、留まることなく 24 時間、365 日心身ともに常に変化するものである。また。その生活は環境によって影響を受ける。理学療法士は、疾患や身体的な側面からだけでなく、日常生活場面から問題点を把握する視点を養うことが重要である。</p> <p>本講義では、日常生活活動における関わりを学び、対象者に合わせた日常生活動作指導を行う為の基礎を学ぶ。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活活動の定義や概念を理解し、説明できるようになる。</li> <li>2. 代表的な ADL 評価方法を理解し、説明できるようになる。</li> <li>3. 代表的な自助具や福祉機器について理解する。</li> <li>4. 理学療法士の役割と視点から、基本的動作・日常生活活動の臨床観察ポイントを把握する。</li> <li>5. 各種疾患の身体的特徴とその ADL について理解を深める。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	ADL 総論 1	リハビリテーションにおける ADL の位置づけ、ADL・QOL・IL 運動の概念				講義	深堀		
2	ADL 総論 2	一般的日常生活の現状、ADL 指導				講義	深堀		
3	ADL 評価 1	ADL 評価の目的、留意点				講義	深堀		
4	ADL 評価 2	日常生活活動評価				講義	深堀		
5	ADL 評価 3	日常生活活動評価の実際				講義	深堀		
6	1 学期 中間まとめ	1～5 回目のまとめ				演習	深堀		
7	基本動作 1	基本動作の定義、分類				講義	深堀		
8	基本動作 2	臥位・座位・四つ這い基本動作の実際				実技	深堀		
9	基本動作 3	立位基本動作・歩行基本動作の実際				実技	深堀		
10	片麻痺患者の ADL1	片麻痺患者の特徴 1				講義	深堀		
11	片麻痺患者の ADL2	片麻痺患者の特徴 1				講義	深堀		
12	片麻痺患者の ADL3	片麻痺患者の ADL の実際 1				実技	深堀		
13	片麻痺患者の ADL4	片麻痺患者の ADL の実際 2				実技	深堀		
14	複合動作指導 1	一本杖動作、車椅子介助				講義	深堀		
15	1 学期 期末まとめ	8～14 回目のまとめ				演習	深堀		
16	複合動作指導 2	一本杖動作、車椅子介助の実際				実技	深堀		
17	複合動作指導 3	松葉杖動作				講義	深堀		
18	複合動作指導 4	松葉杖動作の実際				実技	深堀		
19	複合動作指導 5	松葉杖動作の実際 2				実技	深堀		
20	複合動作指導 5	車椅子介助、キャスター挙げ				実技	深堀		
21	リハビリテーション支援機器 1	福祉機器と福祉用具、移動補助具				講義	深堀		
22	2 学期 中間まとめ	16～21 回目のまとめ				演習	深堀		
23	リハビリテーション支援	車椅子				講義	深堀		

	機器 2						
24					講義		深堀
25	リハビリテーション支援 機器 3	車椅子採型の項目			講義		深堀
26	リハビリテーション支援 機器 4	自助具			講義		深堀
27	片麻痺患者の ADL5	片麻痺患者の生活関連動作			講義		深堀
28	片麻痺患者の ADL6	ICF にみる片麻痺			講義		深堀
29	片麻痺患者の ADL7	片麻痺患者の基本動作体験			実技		深堀
30	2 学期 期末まとめ	23～29 まとめ			講義		深堀
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	理学療法テキストⅤ 日常生活活動 (ADL) 神陵文庫 ¥4,500						
<b>教材・参考図書</b>	参考資料に関しては適宜配布する。						
<b>オフィスアワー</b>	火～金曜日の 14:00～18:00						
<b>履修上の 注意点</b>	本講義を通して、生活の中でどのように身体を動かしているのかを思考する習慣を身につけること。						
<b>担当教員の 実務経験</b>	10 年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、日常生活場面での評価や関わりに精通している。						

科目名	日常生活活動学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	0 単位 (全 1 単位)	時間数	15 時間 (全 30 時間)	期間	3 学期
評価 担当	仲濱 毅、田中 和範			担当 教員	仲濱 毅、田中 和範				
科目 概要	対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践しなければならない。介助とは長期臥床による弊害の防止と行動範囲の拡大と維持を目的とする。そのため、専門職として患者の潜在的な運動能力の発見に努力し、疾病と障害の成り立ちと回復過程を理解し、患者自身の可能な動きを最大限発揮させながら介助することを学ぶ。								
到達 目標	1. 理学療法士の役割と視点から、基本的な介助方法を実践できる。 2. 色々な疾患の対象者に対する、各介助レベルに対応できる応用能力を養う。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	動作介助の意義と目的	動作介助の意義・介助の仕方の基礎					実技	仲濱・田中和	
2	介助の基本原則	介助の原則・基本的な握り方・保持の仕方					実技	仲濱・田中和	
3	動作介助の実際 1	ベッド上臥位での移動・寝返りのさせ方					実技	仲濱・田中和	
4	動作介助の実際 2	起き上がりのさせ方・座位での移動					実技	仲濱・田中和	
5	動作介助の実際 3	座位から立ち上がらせ方・立位保持のさせ方					実技	仲濱・田中和	
6	動作介助の実際 4	トランスファー（ベッド・車椅子）					実技	仲濱・田中和	
7	動作介助の実際 5	トランスファー（床・車椅子）					実技	仲濱・田中和	
8	総合演習	総合まとめ					実技	仲濱・田中和	
評価方法									
評価指標	期末試験	レポート	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	70	30	-	-	-	-	-	100	
教科書	理学療法テキストⅤ 日常生活活動（ADL）神陵文庫 ¥4,500								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	各講義の前後。								
履修上の 注意点	各講義後の復習を勧める。								

科目名	日常生活活動学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	3 年	分野	専門	単位数	1 単位 (全 1 単位)	時間数	15 時間 (全 30 時間)	期間	1～2 学期
評価担当	深堀 辰彦			担当教員	深堀 辰彦				
科目概要	本講義は、ADL と QOL の相互関係を明確にし、そのうえで各疾患別の一般的な特徴と ADL 及び QOL のあり方を熟考し、各疾患に合わせた生活指導を学んでいく。まず QOL とは何かを明確にすることで、日常に着目し理解を深め、日常生活活動と QOL の相互関係を推考する。同時に、基礎的な部分のみならず専門的知識の定着化を図る。								
到達目標	1. 日常生活活動の基礎的な知識を踏まえ、各疾患別特有の身体機能及び日常生活活動を理解する。 2. 理想の QOL とは何か、について理解を深める。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	ADL の概念とその範囲 1	ADL の概念及びその範囲を再確認する。				講義	深堀		
2	ADL の概念とその範囲 2	ADL の必要性について考える。				講義	深堀		
3	ADL と QOL の相互関係 1	QOL の概念を再確認し、ADL との相互関係を考える。				講義	深堀		
4	ADL と QOL の相互関係 2	最終到達目標に、なぜ QOL を設定するのかを考える。				講義	深堀		
5	日常生活の評価 1	日常生活の評価の必要性を考える。				講義	深堀		
6	日常生活の評価 2	代表的な定量的な評価を再確認する。				講義	深堀		
7	1 学期 中間のまとめ	1～6 回までのまとめ				演習	深堀		
8	中枢神経・神経筋疾患 1	パーキンソン病患者の特徴				講義	深堀		
9	中枢神経・神経筋疾患 2	パーキンソン病患者の ADL				講義	深堀		
10	中枢神経・神経筋疾患 3	頭部外傷患者の特徴				講義	深堀		
11	中枢神経・神経筋疾患 4	頭部外傷患者の ADL				講義	深堀		
12	中枢神経・神経筋疾患 5	脳幹障害患者の特徴				講義	深堀		
13	中枢神経・神経筋疾患 6	脳幹障害患者の ADL				講義	深堀		
14	1 学期 期末のまとめ	8～13 回までのまとめ				演習	深堀		
15	中枢神経・神経筋疾患 7	筋ジストロフィー患者の特徴と ADL				講義	深堀		
16	中枢神経・神経筋疾患 8	筋萎縮性側索硬化症患者の特徴と ADL				講義	深堀		
17	中枢神経・神経筋疾患 9	末梢神経損傷患者の特徴と ADL				講義	深堀		
18	骨・関節疾患 1	切断患者の特徴と ADL				講義	深堀		
19	骨・関節疾患 2	関節リウマチ患者の特徴と ADL				講義	深堀		
20	骨・関節疾患 3	腰痛症の ADL				講義	深堀		
21	その他障害	糖尿病・五感障害患者の ADL				講義	深堀		
22	高齢者の ADL1	高齢者の特徴				講義	深堀		
23	高齢者の ADL2	高齢者の障害と ADL の ADL を理解する。				講義	深堀		
24	2 学期 期末のまとめ	15～23 回のまとめ				演習	深堀		
評価方法									

<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	理学療法テキストⅤ 日常生活活動 (ADL) 神陵文庫 ¥4,500						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	月曜～金曜日までの毎夕 (16時～18時)						
<b>履修上の 注意点</b>	<p>板書を中心に進めるため、各自ノートの用意をすること。          なお、上記の回数は補習も含む。</p>						

科目名	義肢装具学 I					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	1～2 学期
評価担当	森垣 浩一			担当 教員	森垣 浩一				
科目概要	臨床現場では、対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践することが求められる。本講義では、義肢装具学の中でも特に装具に焦点を当て、理学療法士として装具を用いて適切なアプローチが出来るようになるために、装具の目的、構造、処方、適合判定の専門的知識や実践を段階的に習得するための基礎を学ぶ。								
到達目標	1. 装具の目的、構造、種類の概略を説明できる。 2. 装具の適合状態とアライメントのチェック方法について具体的に説明することができる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	装具総論 1	障害と装具					講義	森垣	
2	装具総論 2	装具のチームアプローチと専門職の役割					講義	森垣	
3	装具総論 3	装具における制度					講義	森垣	
4	装具総論 4	装具の制作と材料					講義	森垣	
5	装具総論 5	バイオメカニクスの基礎・運動生理					講義	森垣	
6	下肢装具 1	下肢装具の種類と名称					講義	森垣	
7	下肢装具 2	下肢装具の構成要素					講義	森垣	
8	1 学期 中間まとめ	1～7 回までのまとめ					演習	森垣	
9	下肢装具 3	股継手・膝継手・足継手の基礎					講義	森垣	
10	下肢装具 4	各継手の調整①					講義	森垣	
11	下肢装具 5	各継手の調整②					講義	森垣	
12	下肢装具 6	各継手の種類					講義	森垣	
13	下肢装具 7	短下肢装具各論					講義	森垣	
14	下肢装具 8	長下肢装具各論					講義	森垣	
15	下肢装具 9	膝装具・免荷装具					講義	森垣	
16	1 学期 期末まとめ	9～15 回までのまとめ					演習	森垣	
17	上肢装具 1	手の構造、アライメントと機能					講義	森垣	
18	上肢装具 2	肩・肘装具					講義	森垣	
19	上肢装具 3	手・指装具①					講義	森垣	
20	上肢装具 4	手・指装具②					講義	森垣	
21	靴・靴底の補正 1	足の構造、アライメントと機能					講義	森垣	
22	靴・靴底の補正 2	足底装具					講義	森垣	
23	靴・靴底の補正 3	靴型装具					講義	森垣	
24	2 学期 中間まとめ	17～23 回までのまとめ					演習	森垣	
25	体幹装具 1	頸椎装具					講義	森垣	

26	体幹装具 2	胸腰仙椎装具	講義	森垣			
27	体幹装具 3	腰仙椎装具	講義	森垣			
28	体幹装具 4	側弯症装具	講義	森垣			
29	装具総論	装具の最近の動向	講義	森垣			
30	2 学期 期末まとめ	25～29 回までのまとめ	演習	森垣			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	義肢装具のチェックポイント 医学書院 ¥7,600						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	火曜日の 14:00～15:00						
<b>履修上の 注意点</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 義肢装具学は、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学各論の知識が必要である。</li> <li>2. 1 年次に履修した基礎科目を見直し、予習復習を行うこと。</li> </ol>						

科目名	義肢装具学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	3 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～3 学期
評価担当	森垣 浩一			担当教員	森垣 浩一				
科目概要	本講義では、義肢装具学の中でも特に、義肢・義足に焦点を当て、理学療法士として義肢・義足を用いて適切なアプローチが出来るようになるために、義肢・義足の目的、構造、処方、適合判定の専門的知識や実践を段階的に習得するための基礎を学ぶ。また、義肢装具学Ⅰの知識を基礎にして、対象疾患に適応した装具を選択、使用できるように、疾患別の装具について学ぶ。								
到達目標	1. 臨床に即した義肢・義足の目的、構造、種類の概略を説明できる。 2. 臨床に即した義肢・義足の適合状態とアライメントのチェック方法について具体的に説明することができる。 3. 臨床に即した装具の適応となる疾患について理解し、適切な義肢装具の選択ができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	義肢総論 1	義肢・義足の処方、基礎運動学				講義	森垣		
2	義肢総論 2	切断者の動向、理学療法士の関わり				講義	森垣		
3	義肢総論 3	切断手技と断端管理				講義	森垣		
4	義肢総論 4	切断の合併症と理学療法				講義	森垣		
5	義足 1	下肢切断の現況と断端ケアの現況				講義	森垣		
6	義足 2	下腿義足ソケットの種類、機能				講義	森垣		
7	義足 3	下腿義足ソケットの荷重部位、牽引方法				講義	森垣		
8	1 学期 中間まとめ	1～7 回までのまとめ				演習	森垣		
9	義足 4	下腿義足のアライメント				講義	森垣		
10	義足 5	下腿義足の異常歩行				講義	森垣		
11	義足 6	大腿義足ソケットの種類、機能				講義	森垣		
12	義足 7	大腿義足ソケットの荷重部位、牽引方法				講義	森垣		
13	義足 8	大腿義足のアライメント				講義	森垣		
14	義足 9	大腿義足の異常歩行①				講義	森垣		
15	義足 10	大腿義足の異常歩行②				講義	森垣		
16	1 学期期末まとめ	9～15 回のまとめ				演習	森垣		
17	義足装着練習の実際 1	股関節離断・片側骨盤切断				講義	森垣		
18	義足装着練習の実際 2	大腿切断・膝関節離断				講義	森垣		
19	義足装着練習の実際 3	下腿切断・両側下肢切断				講義	森垣		
20	義足装着練習の実際 4	小児切断と理学療法				講義	森垣		
21	義足装着練習の実際 5	高齢者下肢切断者の理学療法・在宅生活				講義	森垣		
22	義手 1	能動義手の適応				講義	森垣		
23	義手 2	筋電義手の適応				講義	森垣		
24	装具の適応 1	生活場面における装具の活用				講義	森垣		
25	装具の適応 2	骨関節疾患の装具とその適応				講義	森垣		

26	装具の適応 3	脳血管疾患の装具とその適応				講義	森垣
27	装具の適応 4	脊髄損傷疾患の装具とその適応				講義	森垣
28	装具の適応 5	糖尿病・リウマチ・その他の足部変形の装具とその適応				講義	森垣
29	装具の適応 6	義肢装具作成における近年の傾向				講義	森垣
30	2 学期 期末まとめ	17～29 回までのまとめ				演習	森垣
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	義肢装具のチェックポイント 医学書院 ¥7,600						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	火曜日の 14:00～15:00						
<b>履修上の注意</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義は板書を中心に進めるため、ノートは必ず持参すること。</li> <li>2. 義肢装具学 I の内容見直しを行うこと。</li> </ol>						
<b>担当教員の実務経験</b>	15 年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、義肢や装具に対する知識に精通している。						

科目名	理学療法技術論Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位 (全 1 単位)	時間数	22 時間 (全 30 時間)	期間	1～2 学期
評価担当	田中 和範、中村 正恵			担当教員	田中 和範、中村 正恵				
科目概要	<p>理学療法はまず対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づき、様々な状態を把握することから始まる。このことを理学療法評価といい、情報収集・記録・統合と解釈の 3 つの要素から成り立つ。</p> <p>本科目では、このうち情報収集法にあたる各検査法の専門的知識や実践的技能を段階的に習得する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各検査法の目的・意義を理解する。</li> <li>2. 各検査法の内容を理解する。</li> <li>3. 各検査法を正常人に対し実施できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	反射 1	深部反射				講義	田中・中村		
2	反射 2	深部反射				実技	田中・中村		
3	反射 3	表在反射				講義	田中・中村		
4	反射 4	表在反射				実技	田中・中村		
5	反射 5	病的反射				講義	田中・中村		
6	1 学期まとめ	1～5 回の授業範囲				演習	田中・中村		
7	反射 6	病的反射				実技	田中・中村		
8	筋緊張検査 1	筋緊張の異常				講義	田中・中村		
9	筋緊張検査 2	検査方法				実技	田中・中村		
10	協調性検査 1	協調性運動とは				講義	田中・中村		
11	協調性検査 2	協調性検査の実際				実技	田中・中村		
12	協調性検査 3	協調性検査の実際				実技	田中・中村		
13	高次脳機能検査 1	定義と概要				講義	田中・中村		
14	1 学期まとめ	7～13 回の授業範囲				演習	田中・中村		
15	高次脳機能検査 2	評価の実際				講義	田中・中村		
16	高次脳機能検査 3	評価の実際、精神機能の概要と評価				講義	田中・中村		
17	意識障害	意識とは、程度分類				講義	田中・中村		
18	片麻痺機能検査 1	運動障害の特徴				講義	田中・中村		
19	片麻痺機能検査 2	ブルンストロームテスト				講義	田中・中村		
20	片麻痺機能検査 3	ブルンストロームテスト				実技	田中・中村		
21	2 学期まとめ	15～21 回の授業範囲				演習	田中・中村		
22	片麻痺機能検査 4	ブルンストロームテスト				実技	田中・中村		
23	片麻痺機能検査 5	12 段階片麻痺機能検査				講義	田中・中村		
24	整形外科的検査 1	頸椎部、胸郭出口症候群				実技	田中・中村		
25	整形外科的検査 2	腰椎部、肩関節部				実技	田中・中村		
26	整形外科的検査 3	手、指、股関節				実技	田中・中村		

27	整形外科的検査 4	骨盤、膝				実技	田中・中村
28	整形外科的検査 5	膝、足関節				実技	田中・中村
29	2学期まとめ	22～28 回授業範囲				演習	田中・中村
30	電気検査、痛み	誘発筋電図、SD 曲線				講義	田中・中村
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500						
<b>教材・参考図書</b>	その他適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	火曜日の 12:10～12:55						
<b>履修上の 注意点</b>	<p>講義では専門用語が使用されているため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。</p> <p>なお、上記の回数は補習も含む。</p>						

科目名	理学療法技術論Ⅲ					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	1 学期
評価担当	松崎 信一郎			担当 教員	松崎 信一郎				
科目概要	専門基礎科目において、対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するために、学習した運動器疾患の病態や評価法、リスク管理についての知識を統合し、運動器疾患の理学療法を実践するための理療理論を学習する。								
到達目標	1. 運動器疾患の評価法を理解し述べることができる。 2. 運動器疾患に対する理学療法の治療介入方法を理解する。 3. 運動器疾患の理学療法に際しリスク管理法を理解する。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	運動器疾患の概要	運動器疾患の評価法と理学療法アプローチ					講義	松崎	
2	肩関節周辺疾患	脱臼、上腕骨近位端・骨幹部骨折、腱板断裂					講義	松崎	
3	肩関節周辺疾患	周囲炎、RSD、腕神経叢麻痺					講義	松崎	
4	肘関節周辺疾患	脱臼、上腕骨顆上・外顆・内側上顆骨折、前腕骨幹部骨折					講義	松崎	
5	肘関節周辺疾患	肘内障、上腕骨外側上顆炎、OA、フォルクマン拘縮					講義	松崎	
6	手関節周辺疾患	コーレス骨折、手指の骨折、腱断裂					講義	松崎	
7	1 学期 中間まとめ	1 回目～6 回目のまとめ					演習	松崎	
8	脊髄損傷と体幹外傷	脊髄損傷の概要、肋骨・鎖骨・骨盤骨折					講義	松崎	
9	頸、胸、腰部周辺疾患	頸肩腕症候群、脊椎疾患、腰痛症					講義	松崎	
10	股関節周辺疾患	大腿骨頸部骨折、OA、大腿骨頭壊死、先股脱、ペルテス病					講義	松崎	
11	膝関節周辺疾患	大腿骨骨幹部骨折、膝蓋骨骨折、OA、半月板・靭帯損傷					講義	松崎	
12	下腿部周辺疾患	オスグット病、下腿骨骨折、コンパートメント症候群					講義	松崎	
13	足関節周辺疾患	アキレス腱断裂、靭帯損傷、骨折					講義	松崎	
14	1 学期 期末まとめ	8 回目～13 回目のまとめ					演習	松崎	
15	総合統括	本教科で学んだことの総括実施					演習	松崎	
評価方法									
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	-	100	
教科書	理学療法テキストⅦ 運動器疾患の理学療法 神陵文庫 ¥4,500								
教材・参考図書	その他適宜紹介する。								
オフィスアワー	毎週木曜日の 8:50～12:00								
履修上の 注意点	講義に際しては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。 定期試験に関しては、到達目標をクリアし、自ら意味理解を図られること。中間試験は記述問題、期末試験は選択問題を主とする。課題レポートについては、自らの考えを積極的に明文化できること。								

科目名	理学療法技術論Ⅳ					理学療法科 A 組			
学年	3 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～3 学期
評価担当	坂口 文宏、深堀 辰彦			担当教員	坂口 文宏、深堀 辰彦				
科目概要	<p>内部障害理学療法は、超高齢社会の日本ではなくてはならない分野である。現在は、心臓や呼吸器に問題があるといった器質的疾患を合併する運動器疾患患者や脳血管疾患患者も増加しており、疾患の重症度を正確に把握することが求められる。この科目では、理学療法の効果を対象者の健康状態に応じて、最大限引き出せるように科学的根拠に基づいた専門知識・実践的技能を段階的に修得する。</p>								
到達目標	<p>1. 虚血性心疾患の病態を理解し、リスク管理を踏まえた上で理学療法プログラムを作成することができる。 2. 呼吸器疾患の成因・症状を理解し、適切な評価を選択し理学療法プログラムを作成することができる。</p>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	心臓リハビリテーションの概要	心臓リハビリテーションの歴史、目的、効果、対象疾患および循環機能障害				講義	坂口		
2	虚血性心疾患のリハビリテーション (1)	心臓の機能解剖、虚血性心疾患、動脈硬化症				講義	坂口		
3	虚血性心疾患のリハビリテーション (2)	心筋梗塞、狭心症の病態生理				講義	坂口		
4	虚血性心疾患のリハビリテーション (3)	虚血性心疾患の医学的管理				講義	坂口		
5	虚血性心疾患のリハビリテーション (4)	虚血性心疾患の理学療法				講義	坂口		
6	心不全のリハビリテーション (1)	心不全の分類、症状				講義	坂口		
7	心不全のリハビリテーション (2)	左心不全の病態生理				講義	坂口		
8	1 学期 中間まとめ	1～7 回目のまとめ				演習	坂口		
9	心不全のリハビリテーション (3)	右心不全の病態生理				講義	坂口		
10	心不全のリハビリテーション (4)	心不全の理学療法				講義	坂口		
11	運動処方 (1)	運動負荷試験、Borg スケール				講義	坂口		
12	運動処方 (2)	6 分間歩行試験、運動処方作成				講義	坂口		
13	リスク管理 (1)	不整脈と心電図①				講義	坂口		
14	リスク管理 (2)	不整脈と心電図②				講義	坂口		
15	1 学期 期末まとめ	9～14 回目のまとめ				演習	坂口		
16	呼吸リハビリテーションの概要	呼吸リハビリテーションの歴史、目的、効果、対象疾患				講義	深堀		
17	呼吸器の構造と呼吸調節機能	呼吸器の解剖、肺循環、呼吸筋				講義	深堀		
18	呼吸器機能評価の意義と方法	スパイログラム、最大呼気努力曲線、フローボリューム曲線、換気障害				講義	深堀		
19	呼吸機能検査	運動負荷試験、血液ガスと呼吸機能				講義	深堀		
20	呼吸器疾患 (1)	慢性閉塞性肺疾患の病態生理				講義	深堀		

21	呼吸器疾患 (2)	慢性閉塞性肺疾患の理学療法	講義	深堀			
22	呼吸器疾患 (3)	気管支喘息、肺水腫	講義	深堀			
23	呼吸器疾患 (4)	間質性肺炎、肺結核後遺症、外科手術後、睡眠時無呼吸症候群	講義	深堀			
24	排痰法	体位排痰法、ハフティング	講義	深堀			
25	2 学期 期末まとめ	16～24 回目まとめ	演習	深堀			
26	人工呼吸管理、気道内分泌物吸引法	人工呼吸管理の役割と理学療法、吸引の実際	講義	深堀			
27	喀痰吸引	喀痰吸引	実技	深堀			
28	包括的呼吸リハビリテーション、在宅酸素療法	禁煙・栄養・服薬、在宅酸素療法の目的	講義	深堀			
29	胸郭可動域練習、徒手の介助呼吸法	胸郭可動域練習、徒手の介助呼吸法	実技	深堀			
30	総括	呼吸リハビリテーション総括	講義	深堀			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	50	50	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	ビジュアルレクチャー 内部障害 理学療法学 医歯薬出版 ¥4,800						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。。						
<b>オフィスアワー</b>	坂口：水・金曜日の 14：00～17：00（その他は講義後に確認すること） 深堀：火～金曜日の 14：00～18：00						
<b>履修上の 注意点</b>	各講義後の復習を勧める。						

科目名	理学療法技術論Ⅴ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	1～3 学期
評価担当	藤井 和彦			担当 教員	藤井 和彦				
科目概要	人間発達学や小児科学といった基礎を発展させ、小児領域の理学療法の専門的知識や実践的技能を段階的に習得する。小児領域の対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践できるようになる。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達に関する原則を理解し、発達過程を順序立てて考えることができるようになる。</li> <li>2. 小児における疾患毎の特徴や病態を理解し、基礎的な理学療法アプローチを実施することができる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	発達 1	導入・進化に見る脳の発達					講義	仲濱	
2	発達 2	発達区分と原則					講義	仲濱	
3	運動発達 1	胎児の行動					講義	仲濱	
4	運動発達 2	背臥位の発達					講義	仲濱	
5	運動発達 3	腹臥位の発達					講義	仲濱	
6	運動発達 4	座位姿勢の発達					講義	仲濱	
7	運動発達 5	立位と歩行の発達					講義	仲濱	
8	運動発達 6	移動の発達					講義	仲濱	
9	運動発達 7	上肢機能の発達					講義	仲濱	
10	反射と反応 1	脊髄レベルの反射					講義	仲濱	
11	反射と反応 2	脳幹レベルの反射					講義	仲濱	
12	反射と反応 3	大脳皮質レベルの反射					講義	仲濱	
13	反射と反応 4	反射と統合時期					講義	仲濱	
14	発達障害 1	脳性麻痺（痙直型両麻痺）の運動障害					講義	仲濱	
15	発達障害 2	脳性麻痺（痙直型両麻痺）の評価と治療計画					講義	仲濱	
16	発達障害 3	脳性麻痺（アテトーゼ型）の運動障害					講義	仲濱	
17	発達障害 4	脳性麻痺（アテトーゼ型）の評価と治療計画					講義	仲濱	
18	発達障害 5	脳性麻痺（痙直型片麻痺）の運動障害					講義	仲濱	
19	発達障害 6	脳性麻痺（痙直型片麻痺）の評価と治療計画					講義	仲濱	
20	発達障害 7	筋ジストロフィーの運動障害					講義	仲濱	
21	発達障害 8	筋ジストロフィーの評価と治療計画					講義	仲濱	
22	発達障害 9	二分脊椎の特徴と理学療法					講義	仲濱	
23	発達障害 10	重症心身障害児の特徴と理学療法					講義	仲濱	
24	発達障害 11	ダウン症候群の特徴と理学療法					講義	仲濱	
25	発達障害 12	低出生体重児の特徴と理学療法					講義	仲濱	
26	評価 1	運動発達検査の概要					講義	仲濱	

27	評価 2	改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査				講義	仲濱
28	評価 3	遠城寺式乳幼児分析的発達検査				講義	仲濱
29	評価 4	粗大運動能力分類システム (GMFCS)				講義	仲濱
30	社会的療育	障害のある子供の療育に関する法律				講義	仲濱
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>		試験	小テスト	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>		90	10	-	-	-	100
<b>教科書</b>	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院 ¥4,400						
<b>教材・参考図書</b>	適宜紹介する。						
<b>オフィスアワー</b>	火曜日の 14:00~15:00						
<b>履修上の 注意点</b>	1~3年次に履修した基礎科目を見直し、予習復習を行うこと。単純記憶によるものではなく、発達の過程を解剖学的、生理学的背景と結び付け、順序立てて理解できるように、知識の整理を行うこと。						

科目名	地域リハビリテーション					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	2 学期
評価担当	松崎 信一郎			担当 教員	松崎 信一郎				
科目概要	障がい児・者や高齢者が地域社会で自らの人生を主体的に生きることを支援するために医療、福祉、保健の動向を踏まえ、地域リハビリテーションに関わる諸制度を知り、地域において多職種と協働・連携できる能力、各制度上の理学療法士の役割及び業務内容を理解する。								
到達目標	1. 社会保障制度（介護保険法、障害者総合支援法など）の理解と理学療法士の役割を知る。 2. 地域リハビリテーションの定義、活動理念、関連領域とシステム、さらに直接的サービスの現状と課題について理解する。 3. 障がい児・障がい者が自宅や地域で暮らすための環境整備方法を知る。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	地域理学療法の概念	地域リハの広がりとその社会的背景、地域理学療法とは何か					講義	松崎	
2	地域リハ関連諸制度	福祉関連法的諸制度					講義	松崎	
3	介護保険制度	介護保険制度全般					講義	松崎	
4	介護保険制度	要介護認定とケアマネジメント及び介護予防					講義	松崎	
5	理学療法士と行政	関連機関と地域連携					講義	松崎	
6	地域理学療法の展開	介護保険サービス（入所・通所・訪問）とその評価					講義	松崎	
7	1 学期 中間まとめ	1 回目～6 回目のまとめ					演習	松崎	
8	地域理学療法の展開	介護予防（個別・集団）					講義	松崎	
9	地域理学療法の展開	地域における連携					講義	松崎	
10	生活環境の整備	住宅改修、福祉用具、シーティング					講義	松崎	
11	地域理学療法の実際	住宅における各種疾患別評価と理学療法					講義	松崎	
12	地域理学療法の実際	住宅における各種疾患別評価と理学療法					講義	松崎	
13	地域理学療法の実際	終末期における理学療法					講義	松崎	
14	1 学期 期末まとめ	8 回目～13 回目のまとめ					演習	松崎	
15	総合統括	本教科で学んだことの総括実施					演習	松崎	
<b>評価方法</b>									
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	-	100	
教科書	標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 医学書院 ¥4,700								
教材・参考図書	その他適宜紹介する。								
オフィスアワー	木曜日の 8:50～12:00								
履修上の 注意点	講義に際しては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。 定期試験に関しては、到達目標をクリアし、自ら意味理解を図られること。中間試験は記述問題、期末試験は選択問題を主とする。 課題レポートについては、自らの考えを積極的に明文化できること。								

科目名	地域理学療法学 I					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	0 単位 (全 1 単位)	時間数	8 時間 (全 30 時間)	期間	3 学期
評価 担当	森垣 浩一			担当 教員	森垣 浩一				
科目 概要	<p>地域包括ケアシステムが始動して久しい。対象者をめぐっては、自宅を基軸としたライフスタイルの確立が望まれている。このような現況にあつて理学療法士は、他職種との連携を図りながら地域の実情と対象者の生活環境を科学的根拠に基づいて的確に把握する必要がある。</p> <p>この授業ではその生活環境の状況を客観的に把握する手法について先行研究を交えながら紹介する。</p>								
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域調査の手法を理解する。</li> <li>2. 客観的なデータの収集と解釈を身につける。</li> <li>3. 生涯にわたって研究する能力を養う。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	地域包括ケアシステムの現況	事例からみた在宅ケアの現状を紹介する。					講義	森垣	
2	社会調査の手法①	帰納モデルと演繹モデル					講義	森垣	
3	社会調査の手法②	選挙行動にみる定量的手法の紹介①					講義	森垣	
4	社会調査の手法③	選挙行動にみる定量的手法の紹介②					講義	森垣	
5	社会調査の手法④	観察的研究（疫学調査）の紹介①					講義	森垣	
6	社会調査の手法⑤	観察的研究（疫学調査）の紹介②					講義	森垣	
7	社会調査の手法⑥	観察的研究（疫学調査）の紹介③					講義	森垣	
8	まとめ	1 回～7 回までのまとめ					演習	森垣	
評価方法									
評価指標	期末試験	レポート	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	70	30	-	-	-	-	-	100	
教科書	適宜資料を配布する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	月・水・金曜日の 14:00～17:00（その他は適宜確認すること）								
履修上の 注意点	講義の進め方は板書を中心に行う。ノートを準備しておくこと。								

科目名	地域理学療法学 I					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門	単位数	1 単位 (全 1 単 位)	時間数	22 時間 (全 30 時間)	期間	1～3 学期
評価 担当	深堀 辰彦			担当 教員	深堀 辰彦				
科目 概要	<p>地域の実情を踏まえ、対象者の日常生活を推考することは、在宅を基本とした理学療法を進めるうえで必須とされる。ここでは、より実践的場面を想定し、対象者の状況把握をどのように進めるべきかについて紹介する。</p> <p>受講する皆さんが、理学療法士にとって地域リハビリテーションがある意味「主戦場」になる点を考えていただけるよう心掛けていく。</p>								
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>客観的なデータに基づき、高齢社会の実業を正確に把握する。</li> <li>その際のデータ収集方法を具体的に活用できる。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	地域社会の実情①	老人福祉法から介護保険へその 1				講義	深堀		
2	地域社会の実情②	老人福祉法から介護保険へその 2				講義	深堀		
3	地域社会の実情③	応能負担の特徴と応益負担の特徴その 1				講義	深堀		
4	地域社会の実情④	応能負担の特徴と応益負担の特徴その 2				講義	深堀		
5	地域社会の実情⑤	介護保険の中の地域包括ケアシステムの特徴 1				講義	深堀		
6	地域社会の実情⑥	介護保険の中の地域包括ケアシステムの特徴 2				講義	深堀		
7	地域社会の実情⑦	介護保険の中の地域包括ケアシステムの特徴 3				講義	深堀		
8	地域社会の実情⑧	介護保険と生活保護の中の生活扶助の特徴 1				講義	深堀		
9	地域社会の実情⑨	介護保険と生活保護の中の生活扶助の特徴 2				講義	深堀		
10	地域社会の実情⑩	介護保険と生活保護の中の生活扶助の特徴 3				講義	深堀		
11	生活支援の実情①	法制度面からみた高齢者の生活支援その 1				講義	深堀		
12	生活支援の実情②	法制度面からみた高齢者の生活支援その 2				講義	深堀		
13	生活支援の実情③	法制度面からみた高齢者の生活支援その 3				講義	深堀		
14	生活支援の実情④	法制度面からみた高齢者の生活支援その 4				講義	深堀		
15	生活支援の実情⑤	法制度面からみた高齢者の生活支援その 5				講義	深堀		
16	生活支援の実情⑥	補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 1				講義	深堀		
17	生活支援の実情⑦	補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 2				講義	深堀		
18	生活支援の実情⑧	補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 3				講義	深堀		
19	生活支援の実情⑨	補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 4				講義	深堀		
20	生活支援の実情⑩	補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 5				講義	深堀		
21	生活支援の実情⑪	補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 6				講義	深堀		
22	生活支援の実情⑫	補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 7				講義	深堀		
23	生活支援の実情⑬	補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 8				講義	深堀		
24	生活支援の実情⑭	補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 9				講義	深堀		

25	生活支援の実情⑮	補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 10	講義	深堀			
26	地域調査の手法①	疫学調査の実情	講義	深堀			
27	地域調査の手法②	記述疫学の特徴	講義	深堀			
28	地域調査の手法③	分析疫学の特徴	講義	深堀			
29	地域調査の手法④	介入研究の特徴	講義	深堀			
30	総括	地域包括ケアシステムの展望 ―総括にかえて―	講義	深堀			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	90	10	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	1. 標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 医学書院 ¥4,700 2. 義肢装具のチェックポイント 医学書院 ¥7,600						
<b>教材・参考図書</b>	適宜資料を配布する。						
<b>オフィスアワー</b>	月・水・金曜日の 14:00~17:00 (その他は適宜確認すること)						
<b>履修上の 注意点</b>	講義は板書を中心とするため、各自ノートの用意をすること。 なお、本講義は補習を含む。						

科目名	地域理学療法学Ⅱ						理学療法科 A 組		
学年	4 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	1～3 学期
評価担当	田中 和範			担当教員	田中 和範				
科目概要	卒業後臨床に出るにあたり、1,2 年次に履修した ADL・生活環境論・リハビリテーション概論・リハビリテーション医学・理学療法概論の学習をとおして、種々の法律・概要、ADL 評価、リハ関連機器、保健・医療・福祉に貢献する能力、地域において多職種と協働・連携できる能力を理解する。さらに、それらを系統立てて理解、応用し他者との協調・協働できる能力を身につける。1 年生で履修した内容の復習と科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践し、多職種と連携を図り協働することを学ぶ。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ADL と生活環境論、リハビリテーション医学、リハビリテーション概論の 1,2 年次の復習を行う。</li> <li>2. ADL と生活環境論、リハビリテーション医学、リハビリテーション概論の過去問が解答可能となるよう理解をする。</li> <li>3. ADL と生活環境論、リハビリテーション医学、リハビリテーション概論の応用問題が解答可能となるよう理解をする。</li> </ol>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	リハビリテーション医学	廃用症候群				講義	田中和		
2	リハビリテーション医学	高齢者・老化現象				講義	田中和		
3	リハビリテーション医学	介護保険法				講義	田中和		
4	ADL と生活環境論	ADL の概念と分類				講義	田中和		
5	ADL と生活環境論	ADL 評価 Barthel Index				講義	田中和		
6	ADL と生活環境論	ADL 評価 FIM				講義	田中和		
7	ADL と生活環境論	ADL 評価 種々の評価法				講義	田中和		
8	リハビリテーション概論	ICF				講義	田中和		
9	リハビリテーション医学	褥瘡の発生要因、意識障害、クリニカルパス				講義	田中和		
10	リハビリテーション医学	個人情報保護法				講義	田中和		
11	リハビリテーション医学	EBM、インフォームド・コンセント				講義	田中和		
12	ADL と生活環境論	リハ関連機器 車椅子の名称と採寸				講義	田中和		
13	ADL と生活環境論	リハ関連機器 車椅子・歩行器・杖				講義	田中和		
14	リハビリテーション医学	院内感染症対策、標準予防策				講義	田中和		
15	リハビリテーション医学	種々の感染症				講義	田中和		
16	ADL と生活環境論	生活環境論 自助具、生活環境整備				講義	田中和		
17	ADL と生活環境論	車椅子介助法				講義	田中和		
18	ADL と生活環境論	疾患別 ADL 指導①				講義	田中和		
19	ADL と生活環境論	疾患別 ADL 指導②				講義	田中和		
20	リハビリテーション概論	ユニバーサルデザイン				講義	田中和		
21	リハビリテーション概論	ノーマライゼーション				講義	田中和		
22	リハビリテーション概論	身体障害者福祉法				講義	田中和		
23	リハビリテーション概論	障害者基本法				講義	田中和		

24	リハビリテーション概論	身体障害者程度等級	講義	田中和			
25	リハビリテーション概論	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	講義	田中和			
26	リハビリテーション医学	介護保険法	講義	田中和			
27	リハビリテーション概論	ICF	講義	田中和			
28	ADL と生活環境論	問題演習	講義	田中和			
29	リハビリテーション医学	問題演習	講義	田中和			
30	リハビリテーション概論	問題演習	講義	田中和			
<b>評価方法</b>							
<b>評価指標</b>	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
<b>評価割合 (%)</b>	90	10	-	-	-	-	100
<b>教科書</b>	1. リハビリテーション総論 診断と治療社 ¥3,600 2. 理学療法テキストV 日常生活活動 (ADL) 神陵文庫 ¥4,500 3. 理学療法概論 神陵文庫 ¥4,500 4. 理学療法テキストX 生活環境論 神陵文庫 ¥4,500						
<b>教材・参考図書</b>	適宜資料を配布する。						
<b>オフィスアワー</b>	火曜日の 14:00~15:00						
<b>履修上の 注意点</b>	ADL・生活環境論・リハビリテーション概論・リハビリテーション医学・理学療法概論に関連するテキスト並びにノートは必ず持参のこと。						

科目名	生活環境論					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	2 学期
評価担当	田中 和範			担当 教員	田中 和範				
科目概要	在宅障害者や高齢者が、より豊かに自立した生活を送るために必要となる住宅改修や福祉用具について、その方法・その種類や特性を学び、生活範囲の拡大を目指した関わりが出来ることを目的に学習する。 また住宅改修や福祉用具を活用するために必要となる、医療・福祉制度についても学習すること。								
到達目標	1. 生活環境の概念と障害児・者や高齢者に関連する法制度に関して理解する。 2. 住宅改修を中心に福祉用具の利用も併せて、生活環境調整のための評価と実際を学ぶ。 3. 地域環境も含めた生活環境整備における理学療法士の役割を学ぶ。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	総論①	ICIDH, ICF					講義	田中和	
2	関節可動域と日常生活活動	関節可動域制限がある場合のADL上の工夫についてのグループワーク					講義	田中和	
3	総論②	社会保障とは					講義	田中和	
4	総論③	高齢者施策					講義	田中和	
5	バリアフリーの関連諸制度	障害者施策の展開、バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザイン					講義	田中和	
6	2 学期 中間まとめ	1～5 回目のまとめ					演習	田中和	
7	生活環境整備の留意点①	肢体不自由、内部障害、感覚機能障害、					講義	田中和	
8	生活環境整備の留意点②	高次脳機能障害、進行性疾患、認知症					講義	田中和	
9	住環境についての考え方①	住環境整備の意義、住環境整備の流れと注意点					講義	田中和	
10	住環境についての考え方②	住環境整備対策					講義	田中和	
11	住環境についての諸制度	建築基準法とは、住まいづくりの融資					講義	田中和	
12	福祉用具について	福祉用具の種類と機能					講義	田中和	
13	2 学期 期末まとめ	7～12 回目のまとめ					演習	田中和	
14	症例発表①	模擬患者を作成し自宅復帰可能な住宅改修についてのグループレポート発表①					講義	田中和	
15	症例発表②	模擬患者を作成し自宅復帰可能な住宅改修についてのグループレポート発表②					講義	田中和	
評価方法									
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	-	100	
教科書	理学療法テキストX 生活環境論 神陵文庫 ¥4,500								
教材・参考図書	適宜プリントを配布する。								
オフィスアワー	各講義の前後。								
履修上の 注意点	講義をしっかりと聞いて、演習に臨むこと。また、課題の提出期日に遅れず提出すること。								

科目名	臨床実習（ADL 体験実習）					理学療法科 A 組			
学年	2 年	分野	専門	単位数	0 単位 (全 18 単位)	時間数	32 時間 (全 810 時間)	期間	2 学期
評価 担当	仲濱 毅、臨床実習指導者			担当 教員	仲濱 毅、臨床実習指導者				
科目 概要	ADL 体験実習は、3 年時から始まる臨床実習への導入部と位置づけ、介護支援を実体験することにより施設利用者の ADL を中心とした活動制限の実態を把握する。そこから、応用的動作と基本的動作の関係及び活動制限と機能障害の関係について考えることを促す。 また態度、話し方などをはじめとする情意領域での気づきも本実習における重要な目的としている。								
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体障害者の介護支援を通して、活動制限の実態を把握する。</li> <li>2. 同一疾患でも、機能障害の違いにより活動制限が異なることを学ぶ。</li> <li>3. 介助が必要な応用的動作に必要な基本的動作について考える。</li> <li>4. 介助が必要な基本的動作の原因（機能障害）について考える。</li> <li>5. 生活期の理学療法について概要を学ぶ。</li> <li>6. 実習生としての基本的態度について学ぶ。</li> </ol>								
<b>講義計画・講義内容</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習は同一の臨床実習施設において 4 日間行われる。</li> <li>2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、対象者との交流を通して基本動作の理解を深める。その際は、対象者の抱える苦悩に傾聴し、共感するような姿勢を学ぶ必要がある。</li> <li>3. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。</li> </ol>									
<b>評価方法</b>									
評価指標	実習施設 評価	学内評価	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	70	30	-	-	-	-	100		
教科書	リハビリテーション総論 診断と治療社 ¥3,600								
教材・参考図書	配布した全ての教科書・参考書								
オフィスアワー	各指導教員に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各実習施設に応じて準備すること。</li> <li>2. 実習においては、施設の環境整備など積極的に参加すること。</li> </ol>								

科目名	臨床実習（検査測定・評価実習）					理学療法科 A 組			
学年	3 年	分野	専門	単位数	3 単位 (全 18 単位)	時間数	160 時間 (全 810 時間)	期間	2 学期
評価担当	深堀 辰彦、臨床実習指導者			担当 教員	深堀 辰彦、臨床実習指導者				
科目概要	<p>検査測定実習では、既習範囲の基本的検査及び測定の実施法、選択、解釈について、実際の対象者等を通じて実践的技能に高めていく。同時に患者等へのアプローチや問診、検査方法（手順）等の技能及び態度を学ぶ。</p> <p>評価実習では、臨床的問題を解決するために、理解している知識を総動員し、適切な情報を集め、問題を同定し仮説を証明するための計画を立てる。それによって得られた結果の解釈を分析・統合し、治療方針を決定できるようになる。対象者との信頼関係の構築や専門的知識の応用力を養う。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の問題点に対する解決法を自分自身で発見し、文献を調べ、スタッフに聞くなどして独立して行える。</li> <li>2. 疾患、リスクの基本について理解する</li> <li>3. 既習範囲の基本的な評価を行うことが出来る。</li> </ol>								
<b>講義計画・講義内容</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習は同一の臨床実習施設において 4 週間行われる。</li> <li>2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、実際の症例に対して理学療法評価（情報収集・記録・統合と解釈）を行い、さらに治療計画を立案する。</li> <li>3. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。</li> </ol>									
<b>評価方法</b>									
評価指標	実習施設 評価	学内評価	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	70	30	-	-	-	-	-	100	
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 ¥7,200								
教材・参考図書	配布した全ての教科書・参考書								
オフィスアワー	各指導教員に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各実習施設に応じて準備すること。</li> <li>2. 実習後は長期実習 I に備える準備を行うこと。</li> </ol>								

科目名	臨床実習（長期実習Ⅰ）					理学療法科 A 組			
学年	3年	分野	専門	単位数	7単位 (全18単位)	時間数	320時間 (全810時間)	期間	3学期
評価担当	深堀 辰彦、臨床実習指導者			担当 教員	深堀 辰彦、臨床実習指導者				
科目概要	<p>臨床実習指導者の指導・監督のもと、検査測定・評価実習で修得した技術を基にプログラムを作成し、治療を実施することによって、臨床現場に必要な基礎能力を養い、その適否や有効性について考察できる能力を修得する。検査測定・評価実習よりもさらに学びを深め、評価から治療までの系統的な理学療法を構築できる能力を養う。</p> <p>実習終了後には実習報告会（発表）を行う。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法に対する解決法を自分自身で発見し、文献を調べ、スタッフに聞くなどして独立して行える。</li> <li>2. 疾患、リスクについて理解できる。</li> <li>3. 学習した評価が行える。学習していない評価であっても事前に学習し指導を受ければ行える。</li> <li>4. 目標設定、治療計画の立案が出来る。</li> <li>5. 指導を受ければ、患者治療が行える。</li> <li>6. 指導を受ければ、患者記録が書ける。</li> </ol>								
<b>講義計画・講義内容</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習は同一の臨床実習施設において8週間行われる。</li> <li>2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、実際の症例に対して理学療法評価（情報収集・記録・統合と解釈）を行い、治療計画を立案・実施する。</li> <li>3. 治療を実施する中で、治療経過からその適否や有効性を考察し、必要に応じて変更できる能力を養う。</li> <li>4. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。</li> </ol>									
<b>評価方法</b>									
評価指標	実習施設 評価	学内評価	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	70	30	-	-	-	-	100		
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 ¥7,200								
教材・参考図書	配布した全ての教科書・参考書								
オフィスアワー	各指導教員に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各実習施設に応じて準備すること。</li> <li>2. 実習後は長期実習Ⅱに備える準備を行うこと。</li> </ol>								

科目名	臨床実習（長期実習Ⅱ）					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門	単位数	8 単位 (全 18 単位)	時間数	298 時間 (全 810 時間)	期間	1 学期
評価担当	森垣 浩一、臨床実習指導者			担当 教員	森垣 浩一、臨床実習指導者				
科目概要	<p>臨床実習指導者の指導・監督のもと、検査測定・評価実習で修得した技術を基にプログラムを作成し、治療を実施することによって、臨床現場に必要な基礎能力を養い、その適否や有効性について考察できる能力を修得する。</p> <p>実習終了後には実習報告会（発表）を行う。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法に対する解決法を自分自身で発見し、文献を調べ、スタッフに聞くなどして独立して行える。</li> <li>2. 疾患、リスクについて理解できる。</li> <li>3. 学習した評価が行える。学習していない評価であっても事前に学習し指導を受ければ行える。</li> <li>4. 目標設定、治療計画の立案が出来る。</li> <li>5. 指導を受ければ、患者治療が行える。</li> <li>6. 指導を受ければ、患者記録が書ける。</li> </ol>								
<b>講義計画・講義内容</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習は同一の臨床実習施設において 8 週間行われる。</li> <li>2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、実際の症例に対して理学療法評価（情報収集・記録・統合と解釈）を行い、治療計画を立案・実施する。</li> <li>3. 治療を実施する中で、治療経過からその適否や有効性を考察し、必要に応じて変更できる能力を養う。</li> <li>4. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。</li> </ol>									
<b>評価方法</b>									
評価指標	実習施設 評価	学内評価	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	70	30	-	-	-	-	100		
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 ¥7,200								
教材・参考図書	配布した全ての教科書・参考書								
オフィスアワー	各指導教員に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	各実習施設に応じて準備すること。								